

システム管理リファレンス

Novell. ZENworks® 10 Configuration Management SP2

10.2

2009年5月27日

www.novell.com



保証と著作権

米国 Novell, Inc., およびノベル株式会社は、この文書の内容または使用について、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。また文書の商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、本書の内容を改訂または変更する権利を常に留保します。米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、このような改訂または変更を個人または事業体に通知する義務を負いません。

米国 Novell, Inc. およびノベル株式会社は、すべてのノベル製ソフトウェアについて、いかなる保証、表明または約束も行っておりません。またノベル製ソフトウェアの商品性、および特定の目的への適合性については、明示と黙示を問わず一切保証しないものとします。米国 Novell, Inc., およびノベル株式会社は、ノベル製ソフトウェアの内容を変更する権利を常に留保します。

本契約の締結に基づいて提供されるすべての製品または技術情報には、米国の輸出管理規定およびその他の国の貿易関連法規が適用されます。お客様は、すべての輸出規制を遵守して、製品の輸出、再輸出、または輸入に必要なすべての許可または等級を取得するものとします。お客様は、現在の米国の輸出除外リストに掲載されている企業、および米国の輸出管理規定で指定された輸出禁止国またはテロリスト国に本製品を輸出または再輸出しないものとします。お客様は、取引対象製品を、禁止されている核兵器、ミサイル、または生物化学兵器を最終目的として使用しないものとします。ノベル製ソフトウェアの輸出については、[Novell International Trade Services \(http://www.novell.com/info/exports/\)](http://www.novell.com/info/exports/) の Web ページをご参照ください。弊社は、お客様が必要な輸出承認を取得しなかったことに対し如何なる責任も負わないものとします。

Copyright © 2007-2009 Novell, Inc. All rights reserved. 本書の一部または全体を、書面による同意なく、複製、写真複写、検索システムへの登録、送信することは、その形態を問わず禁止します。

米国 Novell, Inc., およびノベル株式会社は、本文書に記載されている製品に実装されている技術に関する知的所有権を保有します。これらの知的所有権は、[Novell Legal Patents \(http://www.novell.com/company/legal/patents/\)](http://www.novell.com/company/legal/patents/) の Web ページに記載されている 1 つ以上の米国特許、および米国ならびにその他の国における 1 つ以上の特許または出願中の特許を含む場合があります。

Novell, Inc.
404 Wyman Street, Suite 500
Waltham, MA 02451
U.S.A.
www.novell.com

オンラインマニュアル: 本製品とその他の Novell 製品の最新のオンラインマニュアルにアクセスするには、[Novell のマニュアルの Web ページ \(http://www.novell.com/documentation\)](http://www.novell.com/documentation) を参照してください。

Novell の商標

Novell の商標一覧については、「[商標とサービスの一覧 \(http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html\)](http://www.novell.com/company/legal/trademarks/tmlist.html)」を参照してください。

サードパーティ資料

サードパーティの商標は、それぞれの所有者に帰属します。

目次

このガイドについて	13
ページのパート I ZENworks コントロールセンター	15
1 ZENworks コントロールセンター	17
1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス	17
1.2 Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス	18
1.3 ZENworks コントロールセンターの操作	19
1.4 デフォルトのログインを無効にする値の変更	20
1.5 ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更	20
1.6 Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定変更	21
1.7 ZENworks コントロールセンターの場所のブックマーク	22
2 管理者	25
2.1 管理者アカウントの管理	25
2.1.1 管理者の作成	26
2.1.2 管理者の削除	27
2.1.3 管理者の名前変更	27
2.1.4 管理者のパスワードの変更	27
2.2 管理者権限の管理	28
2.2.1 スーパー管理者の権限の割り当て	28
2.2.2 追加の権限の割り当て	28
2.2.3 割り当てられた権限の変更	29
2.2.4 割り当てられた権限の削除	29
2.3 権限の説明	29
2.3.1 管理者権限	30
2.3.2 契約管理権限	31
2.3.3 アカウント情報権限	31
2.3.4 展開権限	32
2.3.5 デバイス権限	32
2.3.6 検出権限	32
2.3.7 ドキュメント権限	33
2.3.8 LDAP インポート権利	33
2.3.9 インベントリデバイス権限	33
2.3.10 ライセンス管理権限	34
2.3.11 パッチ管理権限	35
2.3.12 クイックタスク権限	35
2.3.13 レポーティング権	36
2.3.14 ユーザ権限	36
2.3.15 ZENworks ユーザグループ権限	37
2.3.16 ゾーンの権限	37
2.4 管理者の役割の管理	38
2.4.1 管理者の役割について	38
2.4.2 役割の作成	41
2.4.3 役割の割り当て	43
2.4.4 役割の編集	48
2.4.5 役割の名前変更	50
2.4.6 役割の削除	50

3	ZENworks ニュース	51
3.1	ZENworks ニュースアラートの管理	51
3.1.1	ニュースアラートの削除	51
3.1.2	ニュースアラートの更新	52
3.1.3	選択したカテゴリに基づくニュースアラートの表示	52
3.1.4	ニュースの表示	52
3.1.5	ニュースアラートのソート	52
3.2	ZENworks ニュースの設定	52
3.2.1	ニュース専用サーバ	53
3.2.2	スケジュールタイプ	54
4	資格情報ポータル	57
4.1	アカウント情報の追加	57
4.2	アカウント情報用のフォルダの作成	58
4.3	アカウント情報権限の割り当て	58
4.4	アカウント情報の編集	59
4.5	アカウント情報の名前変更	59
4.6	別のフォルダへのアカウント情報の移動	59
4.7	アカウント情報の削除	59
ページのパート II ZENworks サーバと ZENworks Adaptive Agent		61
5	ZENworks サーバ	63
5.1	Windows サーバ上の ZENworks サービス	63
5.1.1	ZENworks サービスのステータスの確認	64
5.1.2	ZENworks サービスの開始	64
5.1.3	ZENworks サービスの停止	65
5.2	Linux サーバ上の ZENworks サービス	65
5.2.1	ZENworks サービスのステータスの確認	66
5.2.2	ZENworks サービスの開始	66
5.2.3	ZENworks サービスの停止	66
5.2.4	ZENworks サービスの再起動	67
5.3	ZENworks サーバへの追加のアクセスの設定	67
5.3.1	検出不可能な IP アドレスの条件のアドレス指定	67
5.3.2	検出不可能な DNS 名の条件のアドレス指定	67
5.4	サーバにインストールされている ZENworks ソフトウェアバージョンの確認	68
5.5	ZENworks サーバのアンインストール	68
5.6	ZENworks プライマリサーバの削除	69
5.7	ZENworks サーバレポート	69
6	サテライト	71
6.1	サテライトの役割について	71
6.1.1	コレクション役割の理解	71
6.1.2	コンテンツ役割の理解	72
6.2	サーバ階層へのサテライトの追加	72
6.3	サーバ階層からのサテライトの削除	74
6.4	サーバ階層からのサテライトの設定	74
6.5	デバイスビューからのサテライトの設定	76
6.6	1つのプライマリサーバから別なプライマリサーバへのサテライトの移動	78
6.7	コンテンツ役割のサテライトへの別なリポジトリの指定 (Windows のみ)	78

6.8	ZENworks サーバの削除	79
6.9	サテライトの更新	79
7	サーバの階層	81
7.1	プライマリサーバ: ピア対親 / 子関係	81
7.2	サテライト役割の関係	81
7.2.1	コンテンツ役割サーバの関係	82
7.2.2	コレクション役割サーバの関係	82
7.3	プライマリサーバの親子関係の変更	82
7.3.1	プライマリサーバを子にする	82
7.3.2	プライマリサーバをピアにする	83
8	ZENworks Adaptive Agent	85
8.1	デバイス上の Adaptive Agent ソフトウェアとモジュールのバージョン表示	85
8.2	特定のバージョンの Adaptive Agent がインストールされたデバイスの検索	86
8.3	展開後の Adaptive Agent の設定	86
8.3.1	管理ゾーンレベルでのエージェントの設定	86
8.3.2	デバイスフォルダレベルでのエージェントの設定	87
8.3.3	デバイスレベルでのエージェントの設定	87
8.3.4	ZENworks エージェントの設定	87
8.4	Adaptive Agent のトラブルシューティング	90
9	ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元	93
9.1	ZENworks サーバのバックアップ	93
9.2	ZENworks サーバの復元	94
9.3	認証局のバックアップ	95
9.4	認証局の復元	95
10	障害復旧	97
10.1	最初のプライマリサーバから 2 番目のプライマリサーバへの入れ替え	97
10.2	既存のプライマリサーバから新しいプライマリサーバへの入れ替え	100
10.3	プライマリサーバでの内部証明書から外部証明書への変更	101
10.4	プライマリサーバの DNS 名変更後に実行するタスク	102
ページのパート III ZENworks のシステム更新		105
11	ZENworks システム更新の概要	107
12	更新の設定	109
12.1	システム更新の設定	109
12.1.1	更新スケジュールのチェック	109
12.1.2	ダウンロードスケジュール	111
12.1.3	電子メール通知	113
12.1.4	プロキシサーバの設定	115
12.1.5	専用サーバの設定	115
12.1.6	ステージタイムアウトの設定	117
12.1.7	再起動の動作	117
12.2	展開ステージの作成	118
12.2.1	ステージについて	119

12.2.2	展開ステージの作成	121
12.2.3	ステージのタイムアウトの変更	122
12.2.4	ステージング動作の変更	123
12.2.5	再起動の動作の変更	124
12.2.6	展開ステージのメンバーシップの変更	124
12.2.7	展開ステージの名前変更	125
12.2.8	展開ステージの削除	125
12.2.9	ステージが開始する順序の変更	126
13	更新のダウンロードの管理	127
13.1	入手可能な更新について	127
13.2	割り当てられた権限	128
13.2.1	更新のダウンロードのスケジューリング	128
13.2.2	手動による更新の確認	129
13.2.3	手動による更新のダウンロード	129
13.2.4	インターネット接続を持たないサーバへの手動による更新のインポート	130
13.3	PRU のダウンロードとインストール	130
14	更新の展開	133
14.1	更新の展開について	133
14.2	更新の展開	136
14.3	保留中のステージの開始	142
14.4	展開の再スケジュール	143
14.4.1	すべてのステージのステータスに対する展開の再スケジュール	143
14.4.2	その他のステータスに対する展開の再スケジュール	143
14.5	ステージングのバイパス	144
14.6	展開のキャンセル	144
14.7	展開の再試行のエラーのクリア	144
14.8	デバイスごとのステータスの表示	144
14.8.1	デバイスのステータスの理解	145
14.8.2	デバイスのプロパティの表示	146
14.8.3	デバイスのステータスに関する情報の表示	146
14.8.4	無視されたデバイスの切り替え	146
14.8.5	デバイスへの更新の再展開	147
14.8.6	デバイスへの更新の再スケジュール	147
14.8.7	デバイスの更新	148
15	更新の削除	149
16	更新のコンテンツの確認	151
16.1	リリース詳細ページの表示	151
16.2	リリース詳細の更新	151
16.3	展開履歴	152
16.3.1	展開履歴の詳細について	153
16.3.2	展開履歴タスクの実行	153

17 ステータスの更新	155
ページのパート IV ユーザ	157
18 ユーザソース	159
18.1 前提条件	159
18.2 ユーザソースの追加	159
18.3 ユーザソースの削除	162
18.4 ユーザソースからのコンテナの追加	163
18.5 LDAP 負荷分散および耐障害性の提供	163
19 ユーザの認証	167
19.1 ユーザソースの認証	167
19.2 アカウント情報のストレージ	167
19.3 ZENworks ユーザ認証の無効化	168
19.4 ユーザ認証のトラブルシューティング	168
ページのパート V ZENworks 製品のライセンス登録	173
20 ZENworks 製品のライセンス登録	175
20.1 製品の評価	175
20.2 製品の有効期限の延長	176
20.3 製品のアクティブ化	176
20.4 製品の非アクティブ化	176
20.5 変更可能なライセンス状態	177
20.6 事前定義されたレポートの表示	178
ページのパート VI データベース管理	179
21 組み込みデータベースの保守	181
21.1 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報の取得と保存	181
21.2 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースによって使用されるポートの変更	182
21.3 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ	183
21.3.1 Windows サーバまたは Linux サーバ上にある、組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップする	183
21.3.2 Windows サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Windows マシン上のネットワークロケーションリモートにバックアップする	185
21.3.3 Linux サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする	186
21.4 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元	188
21.4.1 Windows サーバでの組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元	189
21.4.2 Linux サーバ上の組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元	189
21.5 組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動	190
21.5.1 データの移動の準備	190
21.5.2 内部の Sybase から外部の Sybase へのデータの移動	190
21.6 外部 O EM Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへのデータの移動	192
21.6.1 データの移動の準備	192
21.6.2 外部 Sybase から組み込み Sybase へのデータの移動	192
21.7 組み込み Sybase SQL Anywhere から外部 Oracle データベースへのデータのマイグレート	194

21.7.1	データの移動の準備	194
21.7.2	Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート	196
21.7.3	マイグレーション後のタスク	198
21.7.4	データベースのマイグレーションのトラブルシューティング	199
21.7.5	Sybase データベースへ戻す	201
22 外部データベースの保守		203
22.1	ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへデータを移動する	203
22.1.1	データの移動の準備	203
22.1.2	ある外部の Sybase から別の外部の Sybase へのデータの移動	203
22.2	別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する	205
22.2.1	データの移動の準備	205
22.2.2	新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する	205
22.3	別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する	206
22.3.1	データの移動の準備	206
22.3.2	新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する	207
ページのパート VII ゾーン管理		209
23 管理ゾーンの環境設定の変更		211
23.1	環境設定のアクセス	211
23.1.1	ゾーンでの環境設定の変更	211
23.1.2	フォルダの環境設定の変更	212
23.1.3	デバイスでの環境設定の変更	212
23.2	デバイス管理の設定	213
23.3	検出と展開の設定	214
23.4	イベントとメッセージング設定	214
23.5	インフラ管理設定	215
23.6	インベントリ設定	215
23.7	レポートサービスの設定	216
23.8	Asset Management 設定	217
ページのパート VIII メッセージログ		219
24 概要		221
24.1	Message Logger の機能	221
24.2	メッセージ重大度	221
24.3	メッセージ形式	222
25 Message Logger の設定		223
25.1	ゾーンレベルでの Message Logger の設定	223
25.1.1	ローカルデバイスのログ	223
25.1.2	集中型のメッセージログ	224
25.2	フォルダレベルでの Message Logger の設定	227
25.3	デバイスレベルでの Message Logger の設定	227
25.4	デバッグメッセージの有効化	228

26 メッセージの管理	229
26.1 メッセージ形式の理解	229
26.1.1 ローカルログファイル形式	229
26.1.2 電子メール形式	229
26.1.3 SNMP メッセージ形式	230
26.1.4 UDP ペイロード形式	231
26.2 メッセージステータスの表示	232
26.2.1 メッセージ概要	232
26.2.2 デバイスホットリスト	232
26.3 メッセージの表示	233
26.3.1 メッセージログ	233
26.3.2 システムメッセージログ	234
26.4 メッセージの承認	234
26.4.1 メッセージの承認	235
26.4.2 複数メッセージの承認	235
26.4.3 指定の時刻にログされたメッセージの承認	235
26.5 メッセージの削除	236
26.5.1 メッセージの削除	236
26.5.2 複数メッセージの削除	237
26.5.3 指定の時刻にログされたメッセージの削除	237
26.6 事前定義されたレポートの表示	238
A ZENworks コントロールセンターの命名規則	241

このガイドについて

この『システム管理リファレンス』では、Novell® ZENworks® Configuration Management SP2 (10.2) システムを管理するために必要な一般的な管理タスクに関する情報について説明します。このガイドの情報は、次のように構成されます。

- ◆ 15 ページのパート I 「ZENworks コントロールセンター」
- ◆ 61 ページのパート II 「ZENworks サーバと ZENworks Adaptive Agent」
- ◆ 105 ページのパート III 「ZENworks のシステム更新」
- ◆ 157 ページのパート IV 「ユーザ」
- ◆ 173 ページのパート V 「ZENworks 製品のライセンス登録」
- ◆ 179 ページのパート VI 「データベース管理」
- ◆ 209 ページのパート VII 「ゾーン管理」
- ◆ 219 ページのパート VIII 「メッセージログ」
- ◆ 241 ページの付録 A 「ZENworks コントロールセンターの命名規則」

対象読者

このガイドは、ZENworks 管理者を対象としています。

フィードバック

本マニュアルおよびこの製品に含まれているその他のマニュアルについて、皆様のご意見やご要望をお寄せください。オンラインマニュアルの各ページの下部にあるユーザコメント機能を使用するか、または [Novell Documentation Feedback サイト \(http://www.novell.com/documentation/feedback.html\)](http://www.novell.com/documentation/feedback.html) にアクセスして、ご意見をお寄せください。

追加のマニュアル

マニュアルの表記規則

Novell のマニュアルでは、「より大きい」記号 (>) を使用して手順内の操作と相互参照パス内の項目の順序を示します。

商標記号 (®、™ など) は、Novell の商標を示します。アスタリスク (*) は、サードパーティの商標を示します。

パス名の表記に円記号 (l) を使用するプラットフォームとスラッシュ (/) を使用するプラットフォームがありますが、このマニュアルでは円記号を使用します。Linux* など、スラッシュを使用するプラットフォームの場合は、必要に応じて円記号をスラッシュに置き換えてください。

ZENworks コントロールセンター

このセクションでは、ZCC(ZENworks® Control Center:ZENworks® コントロールセンター)の使用により、システム設定を行い、管理ゾーンで管理タスクを実行する方法について説明します。

- ◆ 17 ページの第 1 章「ZENworks コントロールセンター」
- ◆ 25 ページの第 2 章「管理者」
- ◆ 51 ページの第 3 章「ZENworks ニュース」
- ◆ 57 ページの第 4 章「資格情報ポータル」

ZENworks コントロールセンター

1

管理ゾーンでシステム設定を設定したり、管理タスクを実行したりするには、ZENworks[®] コントロールセンターを使用します。

ZENworks コントロールセンターは、管理ゾーンのすべての ZENworks サーバにインストールされます。どの ZENworks サーバでも、すべての管理タスクを実行できます。

- ◆ 17 ページのセクション 1.1 「ZENworks コントロールセンターへのアクセス」
- ◆ 18 ページのセクション 1.2 「Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス」
- ◆ 19 ページのセクション 1.3 「ZENworks コントロールセンターの操作」
- ◆ 20 ページのセクション 1.4 「デフォルトのログインを無効にする値の変更」
- ◆ 20 ページのセクション 1.5 「ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更」
- ◆ 21 ページのセクション 1.6 「Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定変更」
- ◆ 22 ページのセクション 1.7 「ZENworks コントロールセンターの場所のブックマーク」

1.1 ZENworks コントロールセンターへのアクセス

- 1 『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「管理ブラウザ要件」に記載されている要件を満たす Web ブラウザを使用して、次の URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address:port`

ZENworks `Server_Address` は、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に置き換えてください。デフォルトポート (80 または 443) を使用していない場合は、`port` の指定が必要です。ZENworks コントロールセンターには HTTPS 接続が必要です。HTTP 要求は、HTTPS にリダイレクトされます。

[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。

Novell ZENworks ログイン		ヘルプ
管理ゾーン	DOC_20070601B	
ユーザ名:	<input type="text"/>	
パスワード:	<input type="password"/>	
使用言語:	日本語	
<input type="button" value="ログイン"/>		
		N

- 2 [ユーザ名] フィールドで、「Administrator (デフォルト)」と入力するか、ZENworks コントロールセンターで以前作成した管理者の名前を入力します。

3 [パスワード] フィールドで、次のいずれかを行います。

- ◆ デフォルトの管理者アカウントでログインしている場合は、インストール時に作成した管理者用のパスワードを指定します。
- ◆ ZENworks コントロールセンターで作成した管理者名に対するパスワードを指定します。

認可されていないユーザが ZENworks コントロールセンターにアクセスできないようにするために、ログインの試行で 3 回失敗した場合、管理者アカウントが無効化されます。また、ログインを再度試行するまでに、60 秒のタイムアウトが実施されます。これらのデフォルト値を変更するには、[20 ページのセクション 1.4 「デフォルトのログインを無効にする値の変更」](#) を参照してください。

4 [ログイン] をクリックして ZENworks コントロールセンターを表示します。

別の管理者として再ログインするには、ZENworks コントロールセンターウィンドウの右上隅にある [ログアウト] オプションをクリックし、ログインダイアログボックスが表示されたら、別の管理者としてログインします。

[ログアウト] オプションには、その一部として、ログインしている管理者の名前が含まれます。たとえば、[Logout John (John をログアウト)] などです。

1.2 Novell iManager を使用した ZENworks コントロールセンターへのアクセス

ZENworks 10 Management には、Novell® プラグインモジュール (.npm) が含まれています。このモジュールを使用して、多くの Novell 製品によって使用される管理コンソール Novell iManager から ZENworks コントロールセンターにアクセスすることができます。

ZENworks コントロールセンタープラグインは、iManager 2.7 のみをサポートしています。iManager 2.6 または 2.5 はサポートされていません。これらのバージョンもインストールされますが、動作しません。

iManager 用に ZENworks コントロールセンタープラグインをインストールするには、次の手順に従います。

1 iManager があるサーバ (または iManager サーバにアクセスできるデバイス) で、Web ブラウザの ZENworks ダウンロードページを開きます。

`https://server/zenworks-setup`

`server` は ZENworks サーバの DNS 名または IP アドレスです。

2 左側のナビゲーションペインで、[管理ツール] をクリックします。

3 [zcc.npm] をクリックし、iManager サーバ上の場所にファイルを保存します。

4 『[Novell iManager 2.7 管理者ガイド](http://www.novell.com/documentation/imanager27/imanager_admin_27/data/b8qrsg0.html) (http://www.novell.com/documentation/imanager27/imanager_admin_27/data/b8qrsg0.html)』の説明に従って、プラグインモジュールをインストールして設定します。

5 iManager にログインします。

6 ページ上位の [ZENworks] アイコンをクリックします。

7 ZENworks コントロールセンターの URL を入力します。

`https://ZENworks_Server_Address:port`

1.4 デフォルトのログインを無効にする値の変更

デフォルトで、管理者のアカウントは、ログインの試行に3回失敗すると、60秒間、無効になります。このログインの試行回数とタイムアウトの長さは、環境設定ファイルを編集して変更できます。変更は、設定ファイルを開いたり変更したりするサーバから実行される、ZENworks コントロールセンターのインスタンスにのみ適用されます。変更内容をすべてのZENworks プライマリサーバに適用するには、各サーバにあるこのファイルのコピーに同じ変更を行う必要があります。

重要: 管理者アカウントごとのログインの試行回数は、ZENworks データベースに保持されています。ZENworks データベースは、管理ゾーンにつき1つあります。したがって、管理者が1つのプライマリサーバへのログインに失敗すると、その管理者は、管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバからロックアウトされます。ロックアウト期間は、ログインの試行が失敗したサーバの環境設定によって決まります。

ログインの試行およびタイムアウト値を変更するには、次の手順に従います。

- 1 テキストエディタで、次のファイルを開きます。

Windows: `installation_location\novell\zenworks\conf\datamodel\zdm.xml`

Linux: `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel/zdm.xml`

- 2 ファイルに次の行を追加します。

```
<entry key="allowedLoginAttempts">5</entry>
```

```
<entry key="lockedOutTime">300</entry>
```

この例の「5」は、ログインできなくなるまでの再試行回数を表しています。「300」は、秒数を表しています(デフォルトは60秒、つまり1分)。

設定済みの失敗の回数(5回など)の後に、再ログインを許可するまでの遅延が長くなればなるほど、ZENworks コントロールセンターにアクセスするために待機する時間が長くなります。

重要: ログインの試行の値として「0」を入力すると、ロックアウト機能が無効になり、ログインの無制限の試行が可能になります。

- 3 ファイルを保存し、プライマリサーバの zenloader サービスおよび zenserver サービスを再起動して変更を有効にします。

サービスの再起動の詳細については、[67 ページのセクション 5.2.4 「ZENworks サービスの再起動」](#)を参照してください。

1.5 ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更

デフォルトでは、ZENworks コントロールセンターには30分のタイムアウト値があります。したがって、コンピュータ上のZENworks コントロールセンターを30分を超える期間アイドル状態にしておくと、続行するには再度ログインするよう求められます。

タイムアウトの目的は、メモリのリソースをクリアすることです。タイムアウト値を大きくすると、ZENworks コントロールセンターがメモリのリソースを保持する期間が長くなり、ZENworks コントロールセンターを起動したデバイスの長期的なパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。また、ZENworks サーバをローカルで実行している場合は、ZENworks サーバにも影響する場合があります。

タイムアウト値を増加させたり減少させたりするには、ZENworks サーバの 2 つの XML ファイルを変更します。そのサーバの ZENworks コントロールセンターにのみ、変更が適用されます。したがって、そのサーバから ZENworks コントロールセンターを起動するデバイスは、同じタイムアウト値になります。

管理ゾーンの各 ZENworks サーバで、異なる ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値を設定できます。

ZENworks サーバで ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値を変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks サーバで、テキストエディタを使用して config.xml ファイルを開きます。
 - ◆ **Windows:** \Novell\ZENworks\share\tomcat\webapps\zenworks\WEB-INF\config.xml
 - ◆ **Linux:** /opt/novell/zenworks/share/tomcat/webapps/zenworks/WEB-INF/config.xml
- 2 <setting id="timeout"> エントリを見つけます。
- 3 必要に応じて、タイムアウト値を調整します。
タイムアウト値を分で指定します。
- 4 config.xml ファイルを保存します。
- 5 custom-config.xml ファイルをテキストエディタで開きます。
このファイルに含まれた情報が config.xml ファイル内の対応する情報を上書きするので、このファイルを使用すると、ZENworks コントロールセンターのカスタマイズの内容を保持することができます。したがって、ソフトウェアの更新やアップグレード時に config.xml ファイルが上書きされても、このファイルで行われた変更が失われることはありません。
custom-config.xml ファイルは、config.xml ファイルと同じディレクトリにあります。
 - ◆ **Windows:** \Novell\ZENworks\share\tomcat\webapps\zenworks\WEB-INF\custom-config.xml
 - ◆ **Linux:** /opt/novell/zenworks/share/tomcat/webapps/zenworks/WEB-INF/custom-config.xml
- 6 <setting id="timeout"> エントリを見つけます。
- 7 タイムアウト値を、config.xml ファイルに入力したものと同じ数に設定します。
- 8 <setting id="timeout"> エントリを囲むコメントを削除します (<!-- および -->)。
- 9 custom-config.xml ファイルを保存します。
- 10 zen-server サービスを再起動して、ZENworks サーバを再起動します。
手順については、[63 ページの第 5 章「ZENworks サーバ」](#)を参照してください。

1.6 Config.xml ファイルを使用した ZENworks コントロールセンターの設定変更

config.xml ファイルを使用すると、ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値を設定できることに加え ([20 ページのセクション 1.5「ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更」](#)を参照)、いくつかの追加の環境設定を制御できます。ただし、タイムアウト値を除いて、config.xml 設定を変更する必要はありません。

- 1 ZENworks サーバで、テキストエディタを使用して config.xml ファイルを開きます。
 - ◆ **Windows** サーバのパス : \Novell\ZENworks\share\tomcat\webapps\zenworks\WEB-INF\config.xml

- ◆ **Linux サーバのパス** : opt/novell/zenworks/share/tomcat/webapps/zenworks/WEB-INF/config.xml

2 目的の設定を変更します。すべての設定は、<setting id= で始まります。

タイムアウト: タイムアウト値を分で指定します。タイムアウト値を大きくすると、ZENworks コントロールセンターがメモリのリソースを保持する期間が長くなり、ZENworks コントロールセンターを起動したデバイスの長期的なパフォーマンスに悪影響を与える可能性があります。この値を変更した場合、custom-config.xml ファイル内のタイムアウトエントリも変更する必要があります。**20 ページのセクション 1.5 「ZENworks コントロールセンターのタイムアウト値の変更」**を参照してください)。

debug.enabled: ZENworks コントロールセンターのログファイルにメッセージが書き込まれないようにするには、値を *false* に変更します。デフォルトの値である *true* の場合、ログファイルにメッセージが書き込まれます。

debug.tags: これらの設定により、デバッグ情報が制御されます。Novell サポートの指示がない限り、変更しないでください。

debug.log.viewstate: この設定は、デバッグ情報を制御します。Novell サポートの指示がない限り、変更しないでください。

hideGettingStarted: [はじめに] ページを表示しません。この設定は、現時点では機能していません。ページが表示されないように手動で設定するには、ZENworks コントロールセンターを開いて [はじめに] ページを表示し、[これを再表示しない] を選択します。

noQuickTaskAutoRefresh: この設定により、[クイックタスクステータス] ダイアログボックスの自動更新が無効になります。これは、クイックタスクステータスの更新の問題を検出するために使用されます。Novell サポートの指示がない限り、この設定を変更しないでください。

3 config.xml ファイルを保存します。

4 zen-server サービスを再起動して、ZENworks サーバを再起動します。ステップについては、**63 ページの第 5 章 「ZENworks サーバ」**を参照してください。

1.7 ZENworks コントロールセンターの場所のブックマーク

ブックマーク機能によって、通常のナビゲーションのようにクリックしなくても、Web ブラウザを使用して ZENworks コントロールセンター () のさまざまな場所に直接アクセスできます。この機能を使用すると、見つけにくい場所もブックマークできます。

Web ブラウザで、ZENworks コントロールセンターの次のセクション内の場所へのブックマークを作成できます。

- ◆ [デバイス] タブの [管理対象] タブ
- ◆ [環境設定] タブの [管理ゾーンの設定]

ブックマークできる場所には、リストなどのアイテム、オブジェクトの詳細、構成設定があります。

[リンク] アイコン ( ▼) が表示されるのであればどこでもブックマークを作成できます。アイコンは、ページの右上にあります。アイコンが表示されない場合は、その場所にはブックマークを作成できません。

ブックマークをクリックしたとき、ZCC にログインしていた場合は、その場所が即座に表示されます。

ブックマークをクリックしたときに ZCC にログインしていなかった場合、[ログイン] ダイアログボックスが表示されます。有効な資格情報を入力すると、その場所がすぐに表示されます。

ブックマークを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、ブックマークを作成したい場所へ移動します。
- 2  をクリックします。

次のようなダイアログボックスが開き、現在の場所の URL がハイライトされています。



- 3 Ctrl+C を押して URL をコピーし、[OK] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
- 4 URL を Web ブラウザの新規ブックマークとして貼り付けます。

インストール時に、デフォルトの ZENworks 管理者アカウント (Administrator) が作成されます。このアカウントはスーパー管理者アカウントと呼ばれ、管理ゾーンに対するフル管理権を提供します。

通常、管理タスクを実行する各ユーザに対して管理者アカウントを作成します。これらのアカウントは、スーパー管理者アカウントとして定義したり、制限された権限を持つ管理者アカウントとして定義できます。たとえば、管理ゾーン内のデバイスの検出と登録のみを許可する管理者アカウントをユーザに付与できます。ユーザに、契約、ライセンス、ドキュメントの管理などのアセット管理タスクのみに使用を制限することも可能です。

重要: デフォルトの管理者アカウントのほかに、少なくとももう 1 つのスーパー管理者アカウントが必要です。これは、管理者アカウントのパスワードが忘れられたり、失われた場合に冗長性を提供します。スーパー管理者アカウントの作成方法については、[28 ページのセクション 2.2.1 「スーパー管理者の権限の割り当て」](#) を参照してください。さらにヘルプが必要な場合は、[Novell サポート \(http://www.novell.com/support\)](http://www.novell.com/support) にご連絡ください。

場合によっては、複数の管理者アカウントに同じ管理権が必要になることがあります。各アカウントに個別に権限を割り当てるのではなく、管理者の役割を作成して、役割に管理権を割り当て、アカウントを役割に追加できます。たとえば、数人の管理者が必要とする管理権を提供するヘルプデスク役割を作成します。

ZENworks コントロールセンター (ZCC) または zman コマンドラインユーティリティを使用して、管理者アカウントを作成および変更したり、役割を割り当てることができます。次の手順では、ZCC を使用してこれらのタスクを実行する方法について説明します。zman コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『[ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[管理者コマンド](#)」を参照してください。

- ◆ [25 ページのセクション 2.1 「管理者アカウントの管理」](#)
- ◆ [28 ページのセクション 2.2 「管理者権限の管理」](#)
- ◆ [29 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#)
- ◆ [38 ページのセクション 2.4 「管理者の役割の管理」](#)

2.1 管理者アカウントの管理

次のセクションでは、管理者アカウントの作成および管理について説明します。

- ◆ [26 ページのセクション 2.1.1 「管理者の作成」](#)
- ◆ [27 ページのセクション 2.1.2 「管理者の削除」](#)
- ◆ [27 ページのセクション 2.1.3 「管理者の名前変更」](#)
- ◆ [27 ページのセクション 2.1.4 「管理者のパスワードの変更」](#)

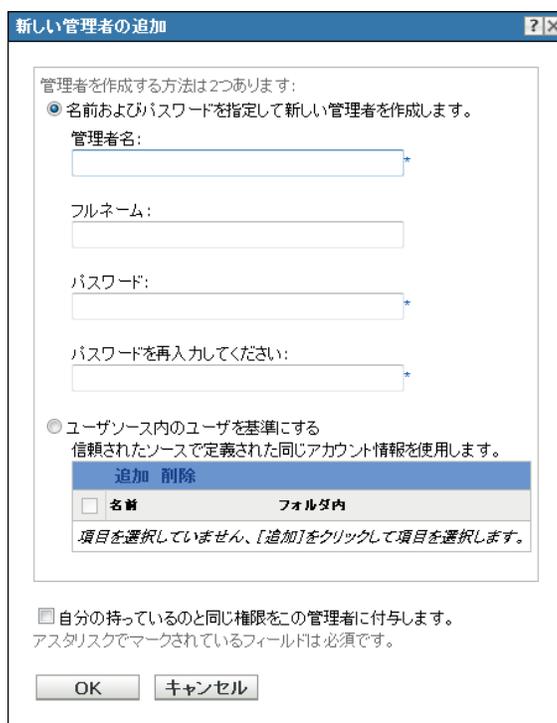
2.1.1 管理者の作成

管理者アカウントを作成するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。



- 2 [管理者] パネルで、[新規] をクリックして [新しい管理者の追加] ダイアログボックスを表示します。



[新しい管理者の追加] ダイアログボックスでは、名前またはパスワードを提供して新しい管理者アカウントを作成できます。またはユーザソースの既存のユーザに基づいて新しい管理者を作成できます。オプションで、ログインしている管理者同じ権限を新しい管理者に付与できます。

- 3 次のフィールドに入力します：

名前とパスワードを提供して新しい管理者を作成する： このオプションは、手動で名前およびパスワードを指定して新しい管理者アカウントを作成する場合にのみ選択してください。

Unicode* 文字を使用した管理者のログイン名では大文字と小文字が区別されます。ログイン名に Unicode 文字を含む場合は、文字ごとに大文字と小文字を正しく使用しているかを確認してください。

新規管理者は、ZENworks コントロールセンターの右上隅の [ログアウト] リンクの隣にあるキーアイコンをクリックすることで、最初のログイン時にパスワードを変更できます。

ユーザソースのユーザに基づく：ユーザソースの情報に基づいて新規管理者のアカウントを作成する場合、このオプションを選択します。これを行うには、[追加] をクリックして、目的のユーザを参照して選択します。

新しく作成された管理者アカウントには、管理ゾーンのすべてのオブジェクトに対する表示権限が付与されます。追加の権限を付与したり、または管理者の権限を特定のフォルダのみに制限したりするには、**権限を修正**する必要があります。

自分の持っているのと同じ権限をこの管理者に付与します：現在ログイン中の管理者と同じ権限を新規管理者に割り当てる場合、このオプションを選択します。

4 フィールドへの入力終了したら、[OK] をクリックして新規管理者を追加します。

また、zman の admin-create コマンドを使用して、管理者アカウントを作成することもできます。詳細については、「**管理者コマンド**」(『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

2.1.2 管理者の削除

1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

2 [管理者] パネルで、管理者の名前の隣にあるチェックボックスをオンにし、[削除] をクリックします。

また、zman の admin-delete コマンドを使用して、管理者アカウントを削除することもできます。詳細については、「**管理者コマンド**」(『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

2.1.3 管理者の名前変更

1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

2 [管理者] パネルで、管理者の名前の隣にあるチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックし、次に [名前変更] をクリックします。

3 新しい名前を指定し、[OK] をクリックします。

また、zman の admin-rename コマンドを使用して、管理者アカウントを名前変更することもできます。詳細については、「**管理者コマンド**」(『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』)を参照してください。

2.1.4 管理者のパスワードの変更

デフォルト以外の管理者アカウントのパスワードを変更するには、次の手順に従います。

1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

- 2 [管理者] パネルで、管理者の隣にあるチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックします。次に、[パスワードの設定] をクリックして、[管理者パスワードの変更] ダイアログボックスを表示します。
- 3 フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

現在ログインしている管理者のパスワードを変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、右上隅の [ログアウト管理者] オプションの横にある  をクリックします。
[管理者パスワードの変更] ダイアログボックスが表示されます。
- 2 フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

デフォルト管理者アカウントのパスワードを変更するには、次の手順に従います。:

- 1 デフォルト管理者アカウントを使用してログインします。
- 2 右上隅の [ログアウト管理者] オプションの横にある  アイコンをクリックします。
[管理者パスワードの変更] ダイアログボックスが表示されます。
- 3 フィールドに入力し、[OK] をクリックします。

2.2 管理者権限の管理

次のセクションでは、既存の管理者アカウントおよび割り当てられた権限の管理について説明します。

- [28 ページのセクション 2.2.1 「スーパー管理者の権限の割り当て」](#)
- [28 ページのセクション 2.2.2 「追加の権限の割り当て」](#)
- [29 ページのセクション 2.2.3 「割り当てられた権限の変更」](#)
- [29 ページのセクション 2.2.4 「割り当てられた権限の削除」](#)

2.2.1 スーパー管理者の権限の割り当て

スーパー管理者は、ZENworks コントロールセンターですべてのアクションを実行するためのすべての権限を持っています。スーパー管理者のすべての権限の詳細については、[29 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#) を参照してください。管理者にスーパー管理者の権限を与える場合、許可、拒否、または設定されなかったすべての割り当てられた権限は優先しません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルで、管理者の名前をクリックします。
- 3 [スーパー管理者] チェックボックスをオンにします。
- 4 [適用] をクリックします。

2.2.2 追加の権限の割り当て

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルの [名前] カラムで、管理者をクリックします。

- 3 [割り当て済みの役割] パネルで、[追加] をクリックし、割り当てる権利を選択します。
- 4 次のフィールドに情報を入力します。
詳細については、[29 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#) を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

また、zman の admin-rights-set コマンドを使用して、管理者アカウントの追加の権限を割り当てることもできます。詳細については、「[管理者コマンド](#)」(『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』) を参照してください。

2.2.3 割り当てられた権限の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] パネルの [名前] カラムで、管理者をクリックします。
- 3 [割り当てられた権利] パネルで、割り当てる権利の横のチェックボックスを選択します。
- 4 [編集] をクリックして、設定を修正します。
詳細については、[29 ページのセクション 2.3 「権限の説明」](#) を参照してください。
- 5 [OK] をクリックします。

2.2.4 割り当てられた権限の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] ペインの [名前] 列で管理者をクリックします。
- 3 割り当てられた権限の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [削除] をクリックします。

また、zman の admin-rights-delete コマンドを使用して、管理者アカウント用に割り当てられた権限を削除することもできます。詳細については、「[管理者コマンド](#)」(『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』) を参照してください。

2.3 権限の説明

追加管理者のアカウントを作成するとき、管理者のゾーンに対するフルアクセスを提供したり、権限が制限されたアカウントを作成したりできます。たとえば、管理ゾーン的环境設定(ユーザーソース、登録、構成の設定など)に関するタスク以外のすべての管理タスクにアクセス可能な管理者アカウントを作成することができます。追加管理者の作成の詳細については、[26 ページの「管理者の作成」](#) を参照してください。

管理者の役割のみの場合、権限オプションの3番目のカラムが各権限の割り当てのダイアログボックスに追加されます。[設定解除]により、ZENworks のほかの場所で設定された権限をその役割で使用できます。

ZENworks でもっとも制限の厳しい権限セットが適用されます。したがって、[拒否] オプションを選択すると、管理者が ZENworks のすべての場所でその権限が許可されている場合でも、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

[設定解除] オプションを選択すると、管理者は ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

また、既存の管理者に割り当てられた権限を追加、編集、または削除することもできます。詳細については、28 ページのセクション 2.2.2 「追加の権限の割り当て」、29 ページのセクション 2.2.3 「割り当てられた権限の変更」、または 29 ページのセクション 2.2.4 「割り当てられた権限の削除」を参照してください。

次のセクションでは、割り当てることができるさまざまな権限に関する追加詳細について説明します。

- ◆ 30 ページのセクション 2.3.1 「管理者権限」
- ◆ 31 ページのセクション 2.3.2 「契約管理権限」
- ◆ 31 ページのセクション 2.3.3 「アカウント情報権限」
- ◆ 32 ページのセクション 2.3.4 「展開権限」
- ◆ 32 ページのセクション 2.3.5 「デバイス権限」
- ◆ 32 ページのセクション 2.3.6 「検出権限」
- ◆ 33 ページのセクション 2.3.7 「ドキュメント権限」
- ◆ 33 ページのセクション 2.3.8 「LDAP インポート権利」
- ◆ 33 ページのセクション 2.3.9 「インベントリデバイス権限」
- ◆ 34 ページのセクション 2.3.10 「ライセンス管理権限」
- ◆ 35 ページのセクション 2.3.11 「パッチ管理権限」
- ◆ 35 ページのセクション 2.3.12 「クイックタスク権限」
- ◆ 36 ページのセクション 2.3.13 「レポートイング権」
- ◆ 36 ページのセクション 2.3.14 「ユーザ権限」
- ◆ 37 ページのセクション 2.3.15 「ZENworks ユーザグループ権限」
- ◆ 37 ページのセクション 2.3.16 「ゾーンの権限」

2.3.1 管理者権限

[管理者権限] ダイアログボックスでは、選択した管理者が他の管理者に権限を与えたり、管理ゾーンの管理者アカウントを作成または削除したりできるようにします。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **権利の付与** : 他の管理者に権限を付与するために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除** : 管理者アカウントの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.2 契約管理権限

[契約管理権限] ダイアログボックスでは、契約を含むフォルダを選択して、契約およびフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 31 ページの「コンテキスト」
- ◆ 31 ページの「特権」

コンテキスト

権限を割り当てる契約が含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

- ◆ **変更**：既存の契約の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：契約の作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.3 アカウント情報権限

[アカウント情報権限] ダイアログボックスでは、アカウント情報を含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 31 ページの「コンテキスト」
- ◆ 31 ページの「特権」

コンテキスト

[追加] をクリックして、権利を割り当てるアカウント情報を含むフォルダを選択します。

特権

[特権] セクションでは、アカウント情報を作成または修正、グループを作成または修正、およびフォルダを作成または修正する権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更**：既存のアカウント情報の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：アカウント情報の作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

アカウント情報で実行できるタスクの詳細については、57 ページの第 4 章「資格情報ポータル」を参照してください。

2.3.4 展開権限

[展開権限] ダイアログボックスでは、展開操作に必要な管理者権限を許可または拒否できます。

[展開] では、ネットワークデバイスを検出し、ZENworks Adaptive Agent を検出されたデバイスに展開することができ、それらのデバイスは管理ゾーン内の管理対象デバイスになります。詳細については、『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』の「ZENworks Adaptive Agent の展開」を参照してください。

2.3.5 デバイス権限

[デバイス権限] ダイアログボックスでは、デバイスを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ 32 ページの「コンテキスト」
- ◆ 32 ページの「特権」

コンテキスト

権限を割り当てるデバイスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[特権] セクションでは、デバイスグループおよびフォルダ。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更**：既存のデバイスオブジェクトの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：デバイスオブジェクトの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ変更**：既存のグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除**：グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループメンバーシップの変更**：デバイスグループに含まれているデバイスのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定の変更**：デバイス設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.6 検出権限

[検出権限] ダイアログボックスでは、検出操作に必要な管理者権限を許可または拒否できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **調査**：検出の実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **検出済みデバイスの編集** 検出デバイスの編集に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.7 ドキュメント権限

[ドキュメント権限] ダイアログボックスでは、ドキュメントを含むフォルダを選択して、ドキュメントおよびフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [33 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [33 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるドキュメントが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

- ◆ **変更**：既存のドキュメントの再割り当てに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：ドキュメントのインポートまたは削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.8 LDAP インポート権利

[LDAP インポート権利] ダイアログボックスでは、LDAP 情報のインポートを許可または拒否できます。

2.3.9 インベントリデバイス権限

[インベントリデバイス権限] ダイアログボックスでは、デバイスを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [33 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [34 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるインベントリデバイスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[**特権**] セクションでは、デバイスグループおよびフォルダを含む、インベントリデバイスを使用できる権限を、選択した管理者に付与できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **変更**：インベントリデバイスオブジェクトの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：インベントリデバイスオブジェクトの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ変更**：既存のグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除**：グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループメンバーシップの変更**：デバイスグループに含まれているデバイスのリストの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定の変更**：インベントリデバイス設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.10 ライセンス管理権限

[**ライセンス管理権限**] ダイアログボックスでは、ライセンスを含むフォルダを選択して、ライセンスおよびフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [34 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [34 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるライセンスが含まれているフォルダを選択するには、[**追加**] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

- ◆ **変更**：既存のライセンスの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **作成 / 削除**：ライセンスの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **変更**：フォルダの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **フォルダの作成 / 削除**：フォルダの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.11 パッチ管理権限

[パッチ管理権限] ダイアログボックスでは、管理者が所有できるパッチ管理機能を決定できます。

使用できる権限は次のとおりです：

- ◆ **パッチの展開**：パッチの展開に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチを有効にする**：パッチを有効にするために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチを無効にする**：パッチを無効にするために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチを更新する**：パッチのキャッシュに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ベースラインに割り当て**：パッチをベースラインに割り当てるのに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ベースラインから削除**：ベースラインに割り当てられたパッチを削除するのに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **View Patch Details(パッチ詳細の表示)**：パッチ詳細の表示に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチのエクスポート**：パッチのエクスポートに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **今すぐスキャン**：スキャンの開始に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **パッチの削除**：パッチを削除するために必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ベースラインの再計算**：ベースラインの再計算に必要な権利を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定**：パッチの設定に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.12 クイックタスク権限

[クイックタスク権限] ダイアログボックスでは、デバイスを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられているクイックタスク権限を修正できます。

クイックタスクとは、ZENworks コントロールセンターのタスクリストに表示されるタスクです(たとえば、サーバタスク、ワークステーションタスクなど)。タスクをクリックすると、ウィザードが起動されてタスクを通じて次のタスクに進むか、またはタスクを完了するために情報を入力するダイアログボックスが表示されます。

[クイックタスク権限] ダイアログボックスでは、クイックタスクを使用した特定タスクの実行権限を、選択した管理者に許可または拒否できます。

- ◆ 36 ページの「コンテキスト」
- ◆ 36 ページの「特権」

コンテキスト

権限を割り当てるデバイスが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **デバイスのシャットダウン / 再起動 / 起動** : リストで選択したフォルダのデバイスを、管理者がシャットダウン、再起動、または起動できるかどうかを指定します。
- ◆ **プロセスの実行** : デバイスのプロセスの実行に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ZENworks Adaptive エージェントの更新** : デバイスの ZENworks Adaptive Agent のリフレッシュに必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **インベントリ** : デバイスのインベントリに必要な権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.13 レポート権

[レポート権] ダイアログボックスでは、レポートを作成、削除、実行、または発行する権限を管理者に許可または拒否します。

2.3.14 ユーザ権限

[ユーザ権限] ダイアログボックスでは、ユーザを含むフォルダを選択して、それらのフォルダに関連付けられている権限を修正できます。

- ◆ [36 ページの「コンテキスト」](#)
- ◆ [36 ページの「特権」](#)

コンテキスト

権限を割り当てるユーザが含まれているフォルダを選択するには、[追加] をクリックして [コンテキスト] ダイアログボックスを表示します。次に、権限を割り当てるフォルダを参照して選択します。

特権

[特権] セクションでは、デバイスグループおよびフォルダ。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **ZENworks グループメンバーシップの変更** : ZENworks グループメンバーシップの変更に必要な権限を許可または拒否します。このオプションを選択した場合、[ZENworks ユーザグループ権限] の下で [ZENworks グループメンバーシップの変更] の権限も許可しておく必要があります。

2.3.15 ZENworks ユーザグループ権限

[ZENworks ユーザグループ権限] ダイアログボックスでは、グループを作成、削除、変更、およびグループメンバーシップを変更する権限を管理者に許可または拒否できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **グループ変更**：既存のグループの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **グループ作成 / 削除**：グループの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **ZENworks グループメンバーシップの変更**：ZENworks グループメンバーシップの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。このオプションを選択した場合、[ユーザ権限] の下で [ZENworks グループメンバーシップの変更] の権限も許可しておく必要があります。

2.3.16 ゾーンの権限

[ゾーンの権限] ダイアログボックスでは、ZENworks 管理ゾーンの設定を管理する管理者の権限を変更できます。

使用できる権限は次のとおりです。

- ◆ **ユーザソースの変更**：ユーザソースの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。

ユーザソースは、ZENworks 管理ゾーンで参照したいユーザを含む LDAP ディレクトリです。ユーザソースを定義する場合は、ユーザおよびユーザグループの読み込み元のソースコンテナも定義します。

- ◆ **ユーザソースの作成 / 削除**：ユーザソースの作成または削除に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
- ◆ **設定の変更**：管理ゾーン設定の変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
[管理ゾーンの設定] では、管理ゾーンに関するグローバル構成の設定を管理できます。これらのグローバル構成の設定は、管理ゾーンの中の他のオブジェクト (デバイス、ユーザ、およびフォルダ) に継承され、それらのオブジェクトによって上書きされない限り効力を有します。
- ◆ **ゾーンインフラストラクチャの変更**：ゾーンインフラストラクチャの変更に必要な権限を管理者に許可または拒否します。この権限には、[環境設定] タブの [サーバ階層] セクションで次のアクションを実行する権限が含まれます。
 - ◆ デバイスにコンテンツを指定する
 - ◆ デバイスを階層内で移動する
 - ◆ サテライトを設定する
 - ◆ サテライトを追加する
 - ◆ サテライトを削除する

その他のアクションは [サーバ階層] セクションで実行できます。ただし、これらのアクションの権限を個別に指定する必要があります。これは「ゾーンインフラストラクチャの変更」権限に自動的に含まれます。次のようなイベントがあります。

- ◆ ZENworks サーバの削除
- ◆ デバイスのリフレッシュ
- ◆ **登録の設定**：デバイス登録の設定に必要な権限を管理者に許可または拒否します。
[登録] では、管理ゾーン内の管理対象デバイスとしてデバイスを登録するためのさまざまな構成設定を管理できます。これを使用すると、登録キーまたは登録ルールを作成して、デバイスを登録に役立てることもできます。登録キーを使用すると、登録時に、グループおよびフォルダ割り当てをデバイスに適用できます。登録ルールを使用すると、デバイスがルールの条件を満たしている場合に、グループおよびフォルダの割り当てをフォルダに適用できます。
- ◆ **ニュースアラートの削除**：ニュースアラートの削除に必要な権利を管理者に許可、または拒否します。
- ◆ **ニュースアラートの更新**：ニュースアラートの更新に必要な権利を管理者に許可、または拒否します。

2.4 管理者の役割の管理

管理ゾーンで管理者の役割を管理するには、次のタスクを実行します。

- ◆ 38 ページのセクション 2.4.1 「管理者の役割について」
- ◆ 41 ページのセクション 2.4.2 「役割の作成」
- ◆ 43 ページのセクション 2.4.3 「役割の割り当て」
- ◆ 48 ページのセクション 2.4.4 「役割の編集」
- ◆ 50 ページのセクション 2.4.5 「役割の名前変更」
- ◆ 50 ページのセクション 2.4.6 「役割の削除」

2.4.1 管理者の役割について

役割機能を使用すると、ZENworks 管理者の役割として割り当てることができる権限を指定することができます。特殊な役割を作成し、その役割に管理者を割り当てて、その役割に指定した ZENworks コントロールセンターの権限を許可または拒否することができます。たとえば、ZENworks コントロールセンター権限を持つヘルプデスクの役割を作成して、ヘルプデスクの操作を行わせる場合などです。

次のセクションでは、役割を管理できる、ZENworks コントロールセンターの異なる場所について説明します。

- ◆ 39 ページの 「[役割] パネル」
- ◆ 40 ページの 「[役割の設定] ページ」
- ◆ 41 ページの 「[管理者の設定] ページ」

[役割] パネル

[役割] パネルには、次の情報が表示されます。

図 2-1 [役割] パネル



<input type="checkbox"/>	名前	タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/>	Bundles Role	バンドル権限 管理者権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS GR CD	
<input type="checkbox"/>	Devices Role	デバイス権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS AP AB	

- ◆ **名前**: 役割を作成したときに、これを指定しました。役割の名前をここで変更できます。また、役割名をクリックして、その権限の設定を編集することもできます。
- ◆ **種類**: 役割が設定されている各 ZENworks コントロールセンター権限の種類ごとに一覧表示されます。
- ◆ **許可**: 一覧表示された各種類ごとに、その役割に対して許可されている権限を示す省略形が表示されます。
- ◆ **拒否**: 一覧表示された各種類ごとに、その役割に対して拒否される権限を示す省略形が表示されます。

権限が [設定解除] として設定されている場合、省略形は [許可] または [拒否] カラムのどちらにも表示されません。

[役割] パネルで、役割の追加、割り当て、編集、名前変更、および削除を行うことができます。

[役割の設定] ページ

[役割] パネルの [名前] カラムで役割をクリックすると、[役割の設定] ページに次の情報が表示されます。

図 2-2 [役割の設定] ページ

環境設定 > Bundles Role

全般

オブジェクトタイプ: 役割

GUID: 4637ff3d38c6de7d0c399af6d357c7d6

説明:

権限

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> バンドル 権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS	
<input type="checkbox"/> 管理者 権限	GR CD	

1 - 2/2 5 項目の表示

割り当て済みの管理者

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> 管理者	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Admin1	バンドル 権限 管理者 権限	バンドル ゾーン

1 - 1/1 5 項目の表示

適用 リセット

- ◆ [全般] パネル: ZENworks コントロールセンターのオブジェクトタイプ (役割)、その GUID、および説明が表示されます。説明は、ここで編集することができます。
- ◆ [権限] パネル: この役割用に設定された ZENworks コントロールセンターの権限が表示されます。このパネルで権限を追加、編集、および削除できます。
- ◆ [割り当て済みの管理者] パネル: この役割に割り当てられている管理者を一覧表示します。このパネルで管理者を追加、編集、または削除できます。

[管理者の設定] ページ

[役割の設定] ページの [管理者] カラムで管理者をクリックすると、[管理者の設定] ページに次の情報が表示されます。

図 2-3 [管理者の設定] ページ

環境設定 > Admin1

全般

管理者のフルネーム:

スーパー管理者

メモ: [スーパー管理者] チェックボックスがオンになっている場合は、この管理者はすべての権限があるスーパー管理者です。これにより、(許可される、拒否される、または設定されない)割り当て済みのすべての権限が上書きされます。

割り当てられた権利

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> タイプ	コンテキスト	許可	拒否
使用できる項目がありません。			

メモ: 各管理者には表示権限が与えられ、それらは削除できません。

割り当て済みの役割

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> 役割	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/>	Bundles Role	バンドル権限 管理者権限
		バンドル ゾーン

1 - 1/1 5 項目の表示

適用 リセット

- ◆ [全般] パネル: 管理者のフルネームが表示され、管理者をスーパー管理者に指定するオプションが表示されます。これにより、その役割に対して何が設定されたにかかわらず、すべての ZENworks コントロールセンターの権限がその管理者に与えられます。
- ◆ [権限] パネル: 管理者に割り当てられた役割によって付与または拒否された権限とは関係なく、管理者に割り当てられている権限を一覧表示します。このパネルに一覧表示されている権限は、役割によって割り当てられた権限よりも優先します。このパネルで権限を追加、編集、および削除できます。
- ◆ [割り当て済みの役割] パネル: この管理者に割り当てられている役割を一覧表示します。このパネルで役割を追加、編集、および削除できます。

2.4.2 役割の作成

役割には、1 つ以上の権限タイプを含めることができます。必要な数だけ役割を設定できます。役割機能を設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで [新規] をクリックし、[新しい役割を追加] ダイアログボックスを開きます。

新しい役割を追加

名前:

説明:

権限

追加 ▾ 編集 削除

<input type="checkbox"/>	タイプ	許可	拒否
使用できる項目がありません。			

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

- 2 役割の名前と説明を指定します。
- 3 役割の権限を設定するには、[追加] をクリックし、ドロップダウンリストから権限のタイプを選択します。

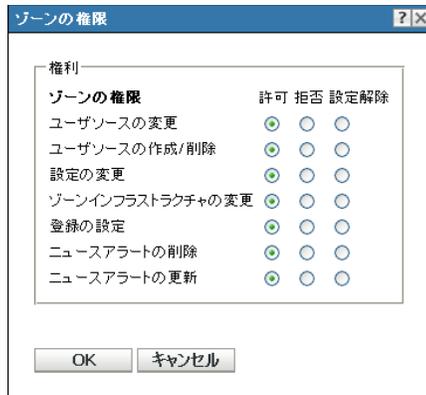
権限

追加 ▾ 編集 削除

<input type="checkbox"/>	タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/>	LDAPインポート権限		
<input type="checkbox"/>	ZENworksユーザーグループ権限		
<input type="checkbox"/>	アカウント情報権限		
<input type="checkbox"/>	インベントリ済みデバイスの権利		
<input type="checkbox"/>	クイックタスク権限		
<input type="checkbox"/>	ゾーンの権限		
<input type="checkbox"/>	デバイス権限		
<input type="checkbox"/>	ドキュメント権限		
<input type="checkbox"/>	バンドル権限		
<input type="checkbox"/>	バッチ管理権限		
<input type="checkbox"/>	ポリシー権限		
<input type="checkbox"/>	ユーザー権限		
<input type="checkbox"/>	ライセンス管理権限		
<input type="checkbox"/>	リモート管理権		
<input type="checkbox"/>	レポート生成権		
<input type="checkbox"/>	契約管理権限		
<input type="checkbox"/>	展開権限		
<input type="checkbox"/>	検出権限		
<input type="checkbox"/>	管理者権限		
			ライセンス状態
			アクティブ

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

- 4 次のダイアログボックスで、各特権を許可するのか、拒否するのか、または設定しないのかを選択します。



ZENworks で最も制限の厳しい権限セットが適用されます。[拒否] オプションを選択した場合、ZENworks のすべての場所で管理者に対してその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで権限が拒否されていない場合、管理者はその役割の権限があります。

[設定解除] オプションを選択すると、管理者は ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

- 5 続行するには、[OK] をクリックします。
 - 6 役割に別の権限タイプを追加するには、**ステップ 3** から**ステップ 5** を繰り返します。
 - 7 [OK] をクリックし、[新しい役割を追加] ダイアログボックスを閉じます。
- [役割] パネルに役割が表示されます。これを管理者に割り当てるには、**43 ページのセクション 2.4.3 「役割の割り当て」** を参照してください。

2.4.3 役割の割り当て

管理者に役割を割り当てたり、役割に管理者を割り当てたりすることができます。

- ◆ **43 ページの「管理者への役割の割り当て」**
- ◆ **45 ページの「役割への管理者の割り当て」**

管理者への役割の割り当て

管理者を含む権限は、ZENworks コントロールセンターの複数の場所で設定できます。管理者を複数の役割に割り当てることができます。

ZENworks コントロールセンターの特定の権限について異なる条件が設定されているために、管理者の権限が競合している場合、[拒否] オプションが管理者に対して設定されていればこれが使用されます。つまり、権限が競合している場合、[拒否] は、[許可] よりも常に優先します。

管理者に役割を割り当てるには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[管理者] パネルで [名前] カラムの管理者名をクリックし、管理者の設定ページを開きます。

全般

管理者のフルネーム:

スーパー管理者

メモ: [スーパー管理者] チェックボックスがオンになっている場合は、この管理者はすべての権限があるスーパー管理者です。これにより、(許可される、拒否される、または設定されない)割り当て済みのすべての権限が上書きされます。

割り当てられた権利

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> タイプ	コンテキスト	許可	拒否
使用できる項目がありません。			

メモ: 各管理者には表示権限が与えられ、それらは削除できません。

割り当て済みの役割

追加 編集 削除

<input type="checkbox"/> 役割	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Bundles Role	バンドル権限 管理者権限	バンドル ゾーン

1 - 1/1 5 項目の表示

適用 リセット

- 2 [割り当て済みの役割] パネルで、[追加] をクリックして [役割の選択] ダイアログボックスを表示します。

役割の選択

役割を選択します

検索対象:

名前フィルタ: 項目のタイプ:

名前	タイプ
Bundles Role	役割
Devices Role	役割

1 - 2/2 25 項目の表示

OK キャンセル

- 3 管理者の役割を参照および選択し、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] ダイアログボックスを表示します。



[役割の割り当ての追加] ダイアログボックスが表示され、役割に含まれた役割タイプのコンテキストを定義できます。コンテキストを使用すると、与えられた権限を使用できる場所を制限することができます。たとえば、管理者のクイックタスク権限の役割を ZENworks コントロールセンターの [デバイス] フォルダに限定するよう指定できます。

コンテキストは必要ありません。ただし、コンテキストを指定しない場合は、権限を適用できる場所について情報がないので、権限は与えられません。

グローバルな権限は自動的にコンテキストとして Zone を表示します。

- 4 必要な場合は、次の手順に従って、コンテキストのない役割タイプにコンテキストを割り当てます。
- 4a [タイプ] カラムで、役割タイプをクリックします。
ゾーンコンテキストに指定されている役割は、全般的に使用可能であるためクリックすることはできません。
 - 4b 後続の [コンテキストの選択] ダイアログボックスで、[追加] をクリックして ZENworks コントロールセンターコンテキストを参照します。
参照する際、[参照] ダイアログボックスでは複数のコンテキストを選択できます。
 - 4c 特定の役割にコンテキストの選択を完了したら、[OK] をクリックして [コンテキストの選択] ダイアログボックスを閉じます。
 - 4d 必要に応じて、**ステップ 4a** から **ステップ 4c** までを繰り返して、役割にコンテキストを割り当てます。
 - 4e 完了したら、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] ダイアログボックスを閉じます。
- 5 別の管理者を追加するには、**ステップ 2** から **ステップ 4** を繰り返します。
- 6 [適用] をクリックして変更を保存します。

役割への管理者の割り当て

権限は、ZENworks コントロールセンターの複数の箇所で設定できます。管理者を複数の役割に割り当てることができます。

ZENworks コントロールセンターの特定の権限について異なる条件が設定されているために、管理者の権限が競合している場合、[拒否] オプションが管理者に対して設定されていればこれが使用されます。つまり、権限が競合している場合、[許可] は、[拒否] よりも常に優先します。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで [名前] カラムの役割名をクリックし、役割の設定ページを開きます。

環境設定 > Bundles Role

全般

オブジェクトタイプ: 役割

GUID: 4637ff3d38c6de7d0c399af6d357c7d6

説明:

権限

追加 編集 削除

タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS	
<input type="checkbox"/> 管理者権限	GR CD	

1 - 2/2 5 項目の表示

割り当て済みの管理者

追加 編集 削除

管理者	タイプ	コンテキスト
<input type="checkbox"/> Admin1	バンドル権限 管理者権限	バンドル ゾーン

1 - 1/1 5 項目の表示

適用 リセット

- 2 [割り当て済みの管理者] パネルで、[追加] をクリックして [管理者の選択] ダイアログボックスを表示します。

管理者の選択

管理者を選択する

検索対象:

名前フィルタ: 項目のタイプ:

名前	タイプ
<input type="checkbox"/> admin1	管理者
<input type="checkbox"/> admin2	管理者

1 - 2/2 25 項目の表示

OK キャンセル

- 3 役割に割り当てる管理者を参照および選択し、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] を表示します。



[役割の割り当ての追加] ダイアログボックスが表示され、役割に含まれた役割タイプのコンテキストを定義できます。コンテキストを使用すると、与えられた権限を使用できる場所を制限することができます。たとえば、管理者のクイックタスク権限の役割を ZENworks コントロールセンターの [デバイス] フォルダに限定するよう指定できます。

コンテキストは必要ありません。ただし、コンテキストを指定しない場合は、権限を適用できる場所について情報がないので、権限は与えられません。

グローバルな権限は自動的にコンテキストとして Zone を表示します。

- 4 必要な場合は、次の手順に従って、コンテキストのない役割タイプにコンテキストを割り当てます。
- 4a [タイプ] カラムで、役割タイプをクリックします。
ゾーンコンテキストに指定されている役割は、全般的に使用可能であるためクリックすることはできません。
 - 4b 後続の [コンテキストの選択] ダイアログボックスで、[追加] をクリックして ZENworks コントロールセンターコンテキストを参照します。
参照する際、[参照] ダイアログボックスでは複数のコンテキストを選択できます。
 - 4c 特定の役割にコンテキストの選択を完了したら、[OK] をクリックして [コンテキストの選択] ダイアログボックスを閉じます。
 - 4d 必要に応じて、**ステップ 4a** から **ステップ 4c** までを繰り返して、役割にコンテキストを割り当てます。
 - 4e 完了したら、[OK] をクリックして [役割の割り当ての追加] ダイアログボックスを閉じます。
- 5 別の役割を追加するには、**ステップ 2** から **ステップ 4** を繰り返します。
- 6 [適用] をクリックして変更を保存します。

2.4.4 役割の編集

役割の設定はいつでも編集できます。編集された役割を適用したら、すべての割り当て済みの管理者に対してその変更が有効になります。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで [編集] をクリックし、[役割を編集] ダイアログボックスを開きます。

名前: Bundles Role

説明:

権限		
タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/> バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS	
<input type="checkbox"/> 管理者権限	GR CD	

1 - 2/2 20 項目の表示

アスタリスクでマークされているフィールドは必須です。

OK キャンセル

- 2 説明を編集するには、[説明] フィールドを直接変更します。
- 3 既存の権限を編集するには、次の操作を行います。
 - 3a [権限] パネルで、権限タイプのチェックボックスをオンにし、[編集] をクリックして、次のダイアログボックスを開きます。

権利	許可	拒否	設定解除
ゾーンの権限			
ユーザーの変更	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ユーザーの作成/削除	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
設定の変更	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ゾーンインフラストラクチャの変更	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
登録の設定	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ニュースアラートの削除	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ニュースアラートの更新	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

OK キャンセル

- 3b 各特権に対して、許可するのか、拒否するのか、または設定しないのかを選択します。

ZENworks でもっとも制限の厳しい権限セットが適用されます。[拒否] オプションを選択した場合、ZENworks のすべての場所で管理者に対してその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで権限が拒否されていない場合、管理者はその役割の権限があります。

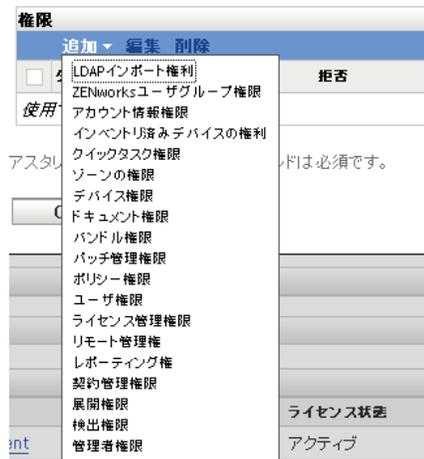
[設定解除] オプションを選択すると、管理者は ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

3c 続行するには、[OK] をクリックします。

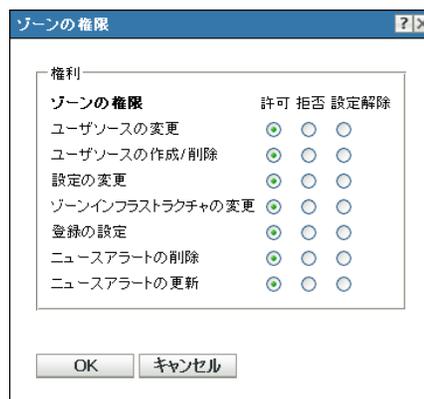
3d 別の既存の役割を編集するには、**ステップ 3a** から**ステップ 3c** を繰り返します。

4 (オプション) 新しい権限を追加するには、次の手順に従います。

4a [権限] パネルで、[追加] をクリックし、ドロップダウンリストから権限タイプの 1 つを選択します。



4b [権限] ダイアログボックスで、各特権を許可するのか、拒否するのか、または設定しないのかを選択します。



ZENworks でもっとも制限の厳しい権限セットが適用されます。[拒否] オプションを選択した場合、ZENworks のすべての場所で管理者に対してその権限が許可されていても、その役割が割り当てられているすべての管理者の権限は拒否されます。

[許可] オプションを選択し、ZENworks のどこかで権限が拒否されていない場合、管理者はその役割の権限があります。

[設定解除] オプションを選択すると、管理者は ZENworks のどこかで役割が許可されていない限り、その管理者は役割の権限が許可されません。

4c 続行するには、[OK] をクリックします。

4d 役割に別の権限タイプを追加するには、**ステップ 4a** から **ステップ 4c** を繰り返します。

5 ダイアログボックスを閉じ、役割に変更を保存するには、[OK] をクリックします。

2.4.5 役割の名前変更

役割名はいつでも変更できます。変更された役割名は、ZENworks コントロールセンターで表示される際に自動的に複製されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで名前変更される役割のチェックボックスをオンにします。

名前	タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/>	Bundles Role	バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS
<input type="checkbox"/>		管理者権限	GR CD
<input type="checkbox"/>	Devices Role	デバイス権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS AP AB

- 2 [役割の名前変更] ダイアログボックスを開くには、[編集] > [名前変更] の順にクリックします。
- 3 新しい役割名を指定し、[OK] をクリックします。

2.4.6 役割の削除

役割を削除すると、その権限の設定も、その役割が割り当てられたすべての管理者に対して適用されなくなります。

削除した役割は復元できません。再作成する必要があります。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。次に、[役割] パネルで、削除される役割のチェックボックスをオンにします。

名前	タイプ	許可	拒否
<input type="checkbox"/>	Bundles Role	バンドル権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS
<input type="checkbox"/>		管理者権限	GR CD
<input type="checkbox"/>	Devices Role	デバイス権限	M CD MG CDG MGM mf CDF MS AP AB

- 2 [削除] をクリックし、役割の削除を確定します。

ZENworks ニュース

3

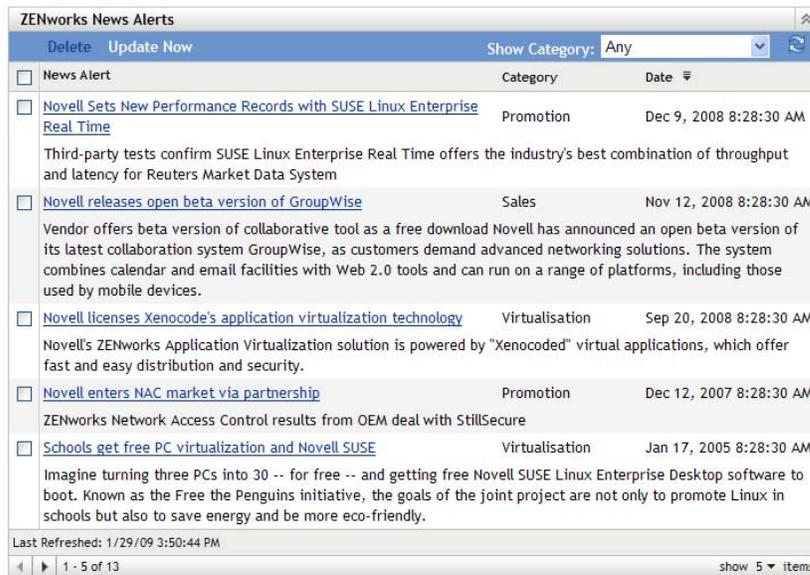
Novell® ZENworks® 10 Management は、現在の最重要課題、最新ニュース、プロモーションなど、Novell からの情報を ZENworks コントロールセンターのホームページに表示します。

次のセクションでは、ニュースアラートの削除、更新、ソートと、ニュースの表示に関する情報を提供します。サーバでニュースのダウンロードスケジュールを設定しておくこともできます。

- ◆ 51 ページのセクション 3.1 「ZENworks ニュースアラートの管理」
- ◆ 52 ページのセクション 3.2 「ZENworks ニュースの設定」

3.1 ZENworks ニュースアラートの管理

図 3-1 ZENworks ニュースアラート



ZENworks News Alerts		
Delete Update Now	Show Category: Any	
News Alert	Category	Date
<input type="checkbox"/> Novell Sets New Performance Records with SUSE Linux Enterprise Real Time Third-party tests confirm SUSE Linux Enterprise Real Time offers the industry's best combination of throughput and latency for Reuters Market Data System	Promotion	Dec 9, 2008 8:28:30 AM
<input type="checkbox"/> Novell releases open beta version of GroupWise Vendor offers beta version of collaborative tool as a free download Novell has announced an open beta version of its latest collaboration system GroupWise, as customers demand advanced networking solutions. The system combines calendar and email facilities with Web 2.0 tools and can run on a range of platforms, including those used by mobile devices.	Sales	Nov 12, 2008 8:28:30 AM
<input type="checkbox"/> Novell licenses Xenocode's application virtualization technology Novell's ZENworks Application Virtualization solution is powered by "Xenocoded" virtual applications, which offer fast and easy distribution and security.	Virtualisation	Sep 20, 2008 8:28:30 AM
<input type="checkbox"/> Novell enters NAC market via partnership ZENworks Network Access Control results from OEM deal with StillSecure	Promotion	Dec 12, 2007 8:28:30 AM
<input type="checkbox"/> Schools get free PC virtualization and Novell SUSE Imagine turning three PCs into 30 -- for free -- and getting free Novell SUSE Linux Enterprise Desktop software to boot. Known as the Free the Penguins initiative, the goals of the joint project are not only to promote Linux in schools but also to save energy and be more eco-friendly.	Virtualisation	Jan 17, 2005 8:28:30 AM

Last Refreshed: 1/29/09 3:50:44 PM
1 - 5 of 13 show 5 items

ZENworks ニュースアラートを管理するには、次のセクションを参照してください。

- ◆ 51 ページのセクション 3.1.1 「ニュースアラートの削除」
- ◆ 52 ページのセクション 3.1.2 「ニュースアラートの更新」
- ◆ 52 ページのセクション 3.1.3 「選択したカテゴリに基づくニュースアラートの表示」
- ◆ 52 ページのセクション 3.1.4 「ニュースの表示」
- ◆ 52 ページのセクション 3.1.5 「ニュースアラートのソート」

3.1.1 ニュースアラートの削除

1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。

- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、削除するニュースアラートの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

3.1.2 ニュースアラートの更新

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、[今すぐ更新] をクリックします。
プライマリサーバがダウンロードした最新の ZENworks ニュース更新が、[ZENworks ニュースアラート] パネルに表示されます。これには少し時間がかかることがあります。

3.1.3 選択したカテゴリに基づくニュースアラートの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、[Show Category (カテゴリの表示)] の隣のドロップダウンリストからカテゴリを選択すると、そのカテゴリのすべてのニュースアラートが表示されます。

3.1.4 ニュースの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、新しいブラウザウィンドウに表示するニュースアラートをクリックします。

3.1.5 ニュースアラートのソート

デフォルトでは、ニュースアラートは発行日付順にソートされています。タイトルまたはカテゴリごとにアルファベット順でニュースアラートをソートすることもできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] をクリックします。
- 2 [ZENworks ニュースアラート] パネルで、[ニュースアラート] をクリックすると、ニュースアラートがアルファベット順にソートされます。
または
[カテゴリ] をクリックして、ニュースアラートをカテゴリ別にソートします。
または
[日付] をクリックして、ニュースアラートを日付順にソートします。

3.2 ZENworks ニュースの設定

[ZENworks ニュースの設定] ページでは、専用のニュースサーバと ZENworks ニュースをダウンロードするスケジュールを設定できます。デフォルトでは、ニュースは、管理ゾーンのプライマリサーバによって真夜中にダウンロードされます。

図 3-2 ニュースのダウンロードスケジュール



ニュースのダウンロードを設定するには、次のセクションを参照してください。

- ◆ 53 ページのセクション 3.2.1 「ニュース専用サーバ」
- ◆ 54 ページのセクション 3.2.2 「スケジュールタイプ」

3.2.1 ニュース専用サーバ

デフォルトでは、管理ゾーン内の利用可能なサーバを使用してニュース更新をダウンロードすることができます。ただし、ニュースのダウンロードを専用で処理するために、1つの ZENworks サーバを指定できます。選択したサーバは、直接、またはプロキシサーバ経由でインターネットにアクセスできる必要があります。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 53 ページの 「ニュース専用サーバの指定」
- ◆ 54 ページの 「ニュース専用サーバのクリア」

ニュース専用サーバの指定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] セクションを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[ZENworks ニュース設定] をクリックし、[ニュースのダウンロードスケジュール] パネルを表示します。
- 3 [ニュース専用サーバ] フィールドで、サーバを参照して選択し、[OK] をクリックします。

サーバの ID は、[ニュース専用サーバ] フィールドに表示されます。

- 4 (条件付き) 最後に保存した専用サーバの設定に戻す必要がある場合は、[リセット] をクリックします。

これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした場合などの最終的な保存設定に専用サーバがリセットされます。

- 5 [適用] をクリックして、変更を有効にします。

- 6 [OK] をクリックしてページを閉じるか、引き続き **スケジュールタイプ** の設定に進みます。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

ニュース専用サーバのクリア

ニュース専用サーバをクリアすると、ニュース更新は管理ゾーンのサーバからランダムに再試行されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] セクションを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[ZENworks ニュース設定] をクリックし、[ニュースのダウンロードスケジュール] パネルを表示します。
- 3 **X** をクリックして、[ニュース専 用サーバ] フィールドから専用サーバを削除します。
- 4 (条件付き) 最後に保存した専用サーバの設定に戻す場合は、[リセット] をクリックします。
これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした場合などの最終的な保存設定に専用サーバがリセットされます。
- 5 [適用] をクリックして、変更を有効にします。

3.2.2 スケジュールタイプ

ニュースのダウンロードスケジュールを設定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] をクリックしてオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックしてオプションを展開し、次に、[ZENworks ニュースの設定] を選択します。
- 3 (条件付き) ニュース更新をスケジュールに従って確認しないようにするには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[スケジュールなし] を選択します。次に、[適用] をクリックしてスケジュールの変更を保存し、**ステップ 6** に進んでください。
このオプションを選択した場合、ニュース更新を手動でダウンロードする必要があります。詳細については、**52 ページの「ニュースアラートの更新」**を参照してください。
- 4 (条件付き) ニュース更新を繰り返し確認するスケジュールを設定するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[繰り返し] を選択します。
- 5 次のフィールドに入力します。
 - 5a ニュース更新を確認する曜日のチェックボックスを1つ以上オンにします。
 - 5b [開始時刻] ボックスで、確認する時刻を指定します。

5c (オプション) [詳細オプション] をクリックし、必要に応じて、次に示すオプションを選択します。

- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : スケジュールに従って確認が行われない場合、可能な限り速やかに最新ニュースを確認します。たとえば、スケジュールされた時間にサーバが停止している場合、サーバがオンラインに戻った直後にニュース更新の確認が発生します。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 指定するスケジュール時刻がローカルタイムの代わりに UTC で解釈されます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : ここで指定した時間と **ステップ 5b** で指定した時間との間で、ランダムにニュース更新が確認されます。[終了時刻] フィールドに入力します。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定** : 他のオプションに加えて、最新ニュースの確認を行う日付範囲を指定できます。

5d (条件付き) 最後に保存したスケジュールに戻す場合は、ページの最下部にある [リセット] をクリックします。

これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした場合などの最終的な保存状態にすべてのデータがリセットされます。

5e 繰り返しスケジュールの設定を終えたら、[適用] をクリックして、スケジュールの変更を保存します。

6 このページを終了するには、スケジュールの設定を終了したら、[OK] をクリックします。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更は失われます。

資格情報ポータル

4

ZENworks コントロールセンターまたは zman コマンドラインユーティリティを使用して、アカウント情報を管理できます。このセクションでは、ZENworks コントロールセンターを使用してアカウント情報を管理する方法について説明します。zman コマンドラインユーティリティを使用する場合は、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「資格情報コマンド」を参照してください。

現在、サードパーティのイメージングではアカウント情報ポータルに保存されているアカウント情報を使用します。

次のセクションには、アカウント情報を管理するために役立つ情報が含まれています。

- ◆ 57 ページのセクション 4.1 「アカウント情報の追加」
- ◆ 58 ページのセクション 4.2 「アカウント情報用のフォルダの作成」
- ◆ 58 ページのセクション 4.3 「アカウント情報権限の割り当て」
- ◆ 59 ページのセクション 4.4 「アカウント情報の編集」
- ◆ 59 ページのセクション 4.5 「アカウント情報の名前変更」
- ◆ 59 ページのセクション 4.6 「別のフォルダへのアカウント情報の移動」
- ◆ 59 ページのセクション 4.7 「アカウント情報の削除」

4.1 アカウント情報の追加

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、[新規] > [アカウント情報] の順にクリックし、[アカウント情報の追加] ダイアログボックスが表示されます。

アカウント情報の追加

アカウント情報名 *

ログイン名 *

パスワード:

パスワードの再入力:

説明:

OK キャンセル

- 3 次のフィールドに情報を入力します。
ヘルプを表示する場合、[ヘルプ] ボタンをクリックします。

4.2 アカウント情報用のフォルダの作成

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、[新規] > [フォルダ] の順にクリックし、[新規フォルダ] ダイアログボックスを表示します。

- 3 [名前] フィールドに、フォルダの一意の名前を指定します。
フォルダは、それを作成しているフォルダの中に既に存在する既存のフォルダや資格情報と同じ名前にすることはできません。
- 4 [フォルダ] フィールドで、 をクリックして、新しいフォルダの作成先となるフォルダを参照して選択します。
- 5 必要に応じて、新しいフォルダの説明を入力します。
- 6 [OK] をクリックしてフォルダを作成します。

4.3 アカウント情報権限の割り当て

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理者] セクションで、権限を変更する管理者の下線付きのリンクをクリックします。
- 3 [割り当てられた権利] セクションで、[追加] > [アカウント情報権限] の順にクリックします。
- 4 [追加] をクリックしてアカウント情報を含むフォルダを選択し、次に、それらのフォルダに関連付けられている権限を変更します。
ヘルプを表示する場合、[ヘルプ] ボタンをクリックします。

4.4 アカウント情報の編集

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] をクリックします。
- 4 フィールドを編集します。
ヘルプを表示する場合、[ヘルプ] ボタンをクリックします。
- 5 [OK] をクリックします。

4.5 アカウント情報の名前変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] > [名前変更] の順にクリックします。
- 4 資格情報の新しい名前を入力します。
- 5 [OK] をクリックします。

4.6 別のフォルダへのアカウント情報の移動

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [編集] > [移動] の順にクリックします。
- 4 [フォルダ] フィールドで、 をクリックして、資格情報の移動先となるフォルダを参照して選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

4.7 アカウント情報の削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [アカウント情報ポータル] パネルで、アカウント情報の隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

ZENworks サーバと ZENworks Adaptive Agent



このセクションでは、ZENworks[®] サーバおよび ZENworks Adaptive Agent の設定に関する情報を提供します。

- ◆ 63 ページの第 5 章「ZENworks サーバ」
- ◆ 71 ページの第 6 章「サテライト」
- ◆ 81 ページの第 7 章「サーバの階層」
- ◆ 85 ページの第 8 章「ZENworks Adaptive Agent」
- ◆ 93 ページの第 9 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」
- ◆ 97 ページの第 10 章「障害復旧」

ZENworks[®] サーバは、ZENworks システムのバックボーンです。ZENworks サーバは、管理対象デバイス上の ZENworks Adaptive Agent との通信によって、管理タスクを実行します。ZENworks サーバは、他の ZENworks サーバおよび ZENworks サテライトとの通信により、管理ゾーン全体に渡って、の複製や受信を行います。

次のセクションでは、ZENworks サーバに関する追加詳細について説明します。

- ◆ 63 ページのセクション 5.1 「Windows サーバ上の ZENworks サービス」
- ◆ 65 ページのセクション 5.2 「Linux サーバ上の ZENworks サービス」
- ◆ 67 ページのセクション 5.3 「ZENworks サーバへの追加のアクセスの設定」
- ◆ 68 ページのセクション 5.4 「サーバにインストールされている ZENworks ソフトウェアバージョンの確認」
- ◆ 68 ページのセクション 5.5 「ZENworks サーバのアンインストール」
- ◆ 69 ページのセクション 5.6 「ZENworks プライマリサーバの削除」
- ◆ 69 ページのセクション 5.7 「ZENworks サーバレポート」

5.1 Windows サーバ上の ZENworks サービス

Windows^{*} サーバで実行される ZENworks サーバには、次の表に示すサービスが含まれています。サービスはすべて、ZENworks 10 製品 (Configuration Management、Asset Management、および Patch Management) のライセンスングやアクティベーションの状況に関わらず、常にインストールされます。使用する製品に必要なないサービスは、無効化されます。

表 5-1 Windows 上の ZENworks サービス

サービス	サービス名	説明
プロキシ DHCP サービス	novell-proxydhcp	標準 DHCP サーバとともに使用して、Novell [®] TFTP サーバの IP アドレスを、PXE が有効なデバイスに通知します。
TFTP サービス	novell-tftp	イメージングタスクの実行に必要なファイルを要求するために、PXE が有効なデバイスによって使用されます。
ZENworks エージェントサービス	zenworkswindowsservice novell-zmd	管理対象デバイスとしてサーバを有効にするために使用します。
ZENworks データストア	dbsrv10	ZENworks オブジェクトおよびリソースの保存に使用される、組み込みデータベースです。
ZENworks ローダ	ZENLoader	ZENworks サーバタスクを実行する Java [*] サービスをロードおよび制御するために使用されます。

サービス	サービス名	説明
ZENworks Preboot ポリシーサービス	novell-zmgprebootpolicy	割り当てられた Preboot ポリシーおよびプレブートワークを確認するために、PXE が有効なデバイスによって使用されます。
ZENworks Preboot サービス	novell-pbserv	イメージングサービスをデバイスに提供するために使用されます。これには、イメージファイルの送受信、割り当てられたプレブートバンドルの検出、マルチキャストイメージングのセッションマスタとしての機能などがあります。
ZENworks Remote Management(ZENworks リモート管理)	nzrwinvc	サーバのリモート管理を有効にするために使用されます。
ZENworks サーバ	zenserver	ZENworks エージェントと通信するために使用されます。
ZENworks Services Monitor	zenwatch	ZENworks サービスのステータスを監視するために使用されます。
ZENworks Imaging Agent	ziswin	(管理対象デバイスとして)サーバにイメージセーフデータを保存および復元するために使用されます。ZENworks エージェントによって起動された場合のみ実行されます。

ZENworks サーバの `\novell\zenworks\bin` ディレクトリにあるサービスです。ZENworks サービスの制御の詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 64 ページのセクション 5.1.1 「ZENworks サービスのステータスの確認」
- ◆ 64 ページのセクション 5.1.2 「ZENworks サービスの開始」
- ◆ 65 ページのセクション 5.1.3 「ZENworks サービスの停止」

5.1.1 ZENworks サービスのステータスの確認

- 1 サーバで [スタート] をクリックし、[管理ツール] > [サービス] の順に選択します。次に、「63 ページの 図表 5-1」に一覧表示されているサービスのステータスを確認します。

5.1.2 ZENworks サービスの開始

- 1 サーバで [スタート] をクリックし、[管理ツール] > [サービス] の順に選択します。
- 2 開始するサービスを選択し (63 ページの 図表 5-1 を参照)、[サービスの開始] をクリックします。

ZENworks サービスは ZENworks サーバの起動時に開始するので、通常は再起動する必要はありません。サービスを頻繁に再起動する必要がある場合は、サーバのハードウェアが ZENworks の最小要件を満たしていることを確認してください。サーバの

RAM が不足すると、ZENworks サービスの実行を続行できない場合があります。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「プライマリサーバ要件」を参照してください。

5.1.3 ZENworks サービスの停止

- 1 サーバ上で、[開始] をクリックし、次に、[管理ツール] > [サービス] の順にクリックします。
- 2 中止するサービスを選択し (63 ページの 図表 5-1 を参照)、[サービスの中止] をクリックします。

5.2 Linux サーバ上の ZENworks サービス

Linux サーバで実行される ZENworks サーバには、次の表に示すサービスが含まれています。サービスはすべて、ZENworks 10 製品 (Configuration Management、Asset Management、および Patch Management) のライセンスングやアクティベーションの状況に関わらず、常にインストールされます。使用する製品に必要なのないサービスは、無効化されます。

表 5-2 Linux 上の ZENworks サービス

サービス	サービス名	説明
プロキシ DHCP サービス	novell-proxydhcp	標準 DHCP サーバとともに使用して、Novell TFTP サーバの IP アドレスを、PXE が有効なデバイスに通知します。
TFTP サービス	novell-tftp	イメージングタスクの実行に必要なファイルを要求するために、PXE が有効なデバイスによって使用されます。
ZENworks エージェントサービス	novell-zmd	管理対象デバイスとしてサーバを有効にするために使用します。
ZENworks データストア	sybase-asa	組み込みの SQL Anywhere* データベースを実行するために使用されます。
ZENworks ローダ	novell-zenloader	ZENworks サーバタスクを実行する Java サービスのロードおよび制御に使用されます。
ZENworks Preboot ポリシーサービス	novell-zmgprebootpolicy	割り当てられた Preboot ポリシーおよびプレブートワークを確認するために、PXE が有効なデバイスによって使用されます。
ZENworks Preboot サービス	novell-pbserv	イメージングサービスをデバイスに提供するために使用されます。これには、イメージファイルの送受信、割り当てられたプレブートバンドルの検出、マルチキャストイメージングのセッションマスタとしての機能などがあります。
ZENworks サーバ	novell-zenserver	ZENworks エージェントと通信するために使用されます。

サービス	サービス名	説明
ZENworks Services Monitor	novell-zenmtr	ZENworks サービスのステータスを監視するために使用されます。
ZENworks Imaging Agent	novell-zenagent	(管理対象デバイスとして) サーバにイメージセーフデータを保存および復元するために使用されます。ZENworks エージェントによって起動された場合のみ実行されます。

/etc/init.d ディレクトリにあるサービスです。ZENworks サービスの制御の詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [66 ページのセクション 5.2.1 「ZENworks サービスのステータスの確認」](#)
- ◆ [66 ページのセクション 5.2.2 「ZENworks サービスの開始」](#)
- ◆ [66 ページのセクション 5.2.3 「ZENworks サービスの停止」](#)
- ◆ [67 ページのセクション 5.2.4 「ZENworks サービスの再起動」](#)

5.2.1 ZENworks サービスのステータスの確認

- 1 サーバのコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/servicename status
```

servicename を、「[65 ページの 図表 5-2](#)」に一覧表示されているサービスの名前に置換します。

5.2.2 ZENworks サービスの開始

- 1 サーバのコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
/etc/init.d/servicename start
```

servicename を、「[65 ページの 図表 5-2](#)」に一覧表示されているサービスの名前に置換します。

- 2 すべてのサービスを開始するには、次のコマンドを使用します。

```
/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure Start
```

ZENworks サービスは ZENworks サーバの起動時に開始するので、通常は再起動する必要はありません。サービスを頻繁に再起動する必要がある場合は、サーバのハードウェアが ZENworks の最小要件を満たしていることを確認してください。サーバの RAM が不足すると、ZENworks サービスの実行を続行できない場合があります。詳細については、『[ZENworks 10 Asset Management インストールガイド](#)』の「[プライマリサーバ要件](#)」を参照してください。

5.2.3 ZENworks サービスの停止

サービスを中止するには、次のコマンドを使用します。

```
/etc/init.d/servicename stop
```

`servicename` を、「65 ページの 図表 5-2」に一覧表示されているサービスの名前に置換します。

5.2.4 ZENworks サービスの再起動

すでに実行されているサービスを再起動するには、次のコマンド'を使用します。

```
/etc/init.d/servicename restart
```

`servicename` を、「65 ページの 図表 5-2」に一覧表示されているサービスの名前に置換します。

5.3 ZENworks サーバへの追加のアクセスの設定

ファイアウォールの外側にあるデバイス、またはプロキシサーバを使用しているデバイスなど、ZENworks サーバの IP アドレスまたは DNS 名に対して認証できない管理対象デバイスがある場合、サーバにアクセスするためのデバイスが使用できる ZENworks サーバ用に、追加の IP アドレスまたは DNS 名を指定できます。

- 67 ページのセクション 5.3.1 「検出不可能な IP アドレスの条件のアドレス指定」
- 67 ページのセクション 5.3.2 「検出不可能な DNS 名の条件のアドレス指定」

5.3.1 検出不可能な IP アドレスの条件のアドレス指定

[検出不可能 IP アドレス] パネルでは、ZENworks サーバの ID アドレスをデバイスが検出できない場合にサーバにアクセスするのに使用できるアドレスを指定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [デバイス] をクリックし、[デバイス] パネルで [サーバ] を選択し、サーバオブジェクトを選択し、[設定] タブをクリックします。次に、[インフラ管理] をクリックし、[検出不可能 IP アドレス] を選択します。
- 2 次のフィールドに情報を入力します。
IP アドレス : 標準のドット付き 10 進数表記法です。たとえば、「123.45.167.100」と入力します。
- 3 [追加] をクリックしてアドレスをリストに追加します。
- 4 IP アドレスを追加するには、**ステップ 1** から **ステップ 3** を繰り返します。
- 5 必要に応じて、[上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、リストを並べ替えます。
IP アドレスは、リストの順番に従って上から下に使用されます。
- 6 アドレスの追加が終了したら、[適用] または [OK] をクリックしてアドレスを保存します。

5.3.2 検出不可能な DNS 名の条件のアドレス指定

[追加の DNS 名] パネルでは、サーバの DNS 名がデバイスによって検出されない場合に、ZENworks サーバにアクセスするために使用される追加の名前を指定できます。

このパネルで追加された DNS 名は、すべての管理対象デバイスに配布され、デバイスがサーバに接続するのに使用されます。

DNS 名を追加するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [デバイス] をクリックし、[デバイス] パネルで [サーバ] を選択し、サーバオブジェクトを選択し、[設定] タブをクリックします。次に、[インフラ管理] をクリックし、[追加の DNS 名] を選択します。
- 2 [サーバ DNS 名のリスト] フィールドには、デバイスがアクセスできるサーバ (プロキシサーバなど) の IP アドレスに対する DNS 名を指定します。
- 3 [追加] をクリックして DNS 名をリストに追加します。
- 4 必要に応じて、[上へ移動] および [下へ移動] ボタンを使用して、リストを並べ替えます。
DNS 名は、リストの順番に従って上から下に使用されます。
- 5 アドレスの追加が終了したら、[適用] または [OK] をクリックしてアドレスを保存します。

5.4 サーバにインストールされている ZENworks ソフトウェアバージョンの確認

アップグレードとトラブルシューティングのために、ZENworks コントロールセンターを使用して管理ゾーンの ZENworks プライマリサーバ上で稼働している ZENworks Configuration Management (ZCM)、ZENworks Asset Management (ZAM)、および ZENworks Patch Management (ZPM) のバージョンを確認します。

管理ゾーン内の特定のプライマリサーバの ZENworks バージョン情報を表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] をクリックし、該当するプライマリサーバをクリックします。
- 3 *ZENworks Configuration Management* バージョン、*ZENworks Asset Management* バージョン、および *ZENworks Patch Management* バージョン行のバージョン番号を確認します。
- 4 (オプション) *ZENworks Configuration Management* バージョンの横の下線付きのバージョン番号をクリックして、インストール済みパッケージのリストを確認します。

管理ゾーン内のすべてのプライマリサーバの ZENworks バージョン情報を表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、各サーバの [ZCM バージョン]、[ZAM バージョン]、および [ZPM バージョン] の各カラムにあるバージョン情報を確認します。

5.5 ZENworks サーバのアンインストール

ZENworks サーバのアンインストールの手順については、『*ZENworks 10 Asset Management インストールガイド*』の「*ZENworks 10 Asset Management SP2 のアンインストール*」を参照してください。

5.6 ZENworks プライマリサーバの削除

アンインストールプログラムの実行で ZENworks プライマリサーバをアンインストールできない場合は、[サーバの階層] パネルから ZENworks プライマリサーバを削除できます。

警告 : ZENworks プライマリサーバを ZENworks システムから削除する場合は、最大限の注意が必要です。

ZENworks プライマリサーバを削除すると元に戻せません。プライマリサーバを廃止する場合は、サーバからアンインストールプログラムを実行する方法が推奨されます。プライマリサーバの削除は、アンインストールプログラムを実行できない場合(たとえば、プライマリサーバのハードドライブに障害が発生した場合など)に限定されます。アンインストールプログラムの実行の詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「ZENworks 10 Asset Management SP2 のアンインストール」を参照してください。

内部 ZENworks Sybase データベースをホストするプライマリサーバを削除すると、ZENworks 管理ゾーン全体が操作不能になります。

ZENworks サーバを削除すると、その ZENworks サーバは管理ゾーンから完全に削除されます。回復はできません。

管理対象のサーバ/ワークステーションデバイスは、[デバイス] タブのオプションを使用して削除できます(『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』の「ZENworks システムからのデバイスの削除」参照)

ZENworks プライマリサーバを管理ゾーンから削除するには、次の手順に従います。

- 1 ZCC では、[設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] セクションで、[プライマリサーバ] の横のチェックボックスを選択します(複数デバイスの選択が可能)。
- 3 [アクション] > [ZENworks サーバの削除] の順にクリックします。

5.7 ZENworks サーバレポート

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks レポートングサーバをインストールしておく必要があります。ZENworks レポートングサーバのインストール方法については、『ZENworks 10 Asset Management レポートングサーバインストールガイド』を参照してください。

ZENworks サーバの事前定義レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 [ZENworks Server Reporting(ZENworks サーバレポートング)] パネルで、[ZENworks レポートングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポートングサーバ InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] フォルダ > [Predefined Reports] > [ZENworks System] フォルダの順にナビゲートします。

ZENworks サーバに関して、次の事前定義レポートがあります。

ZENworks サーバ統計情報：データベース、ディスク容量、CPU 使用率、接続のさまざまな詳細 (1 日あたりの総接続数および 1 日あたりの平均接続数を含む) などのサーバ統計情報を表示します。

レポートの作成と管理の詳細は、『*ZENworks 10 Asset Management システムレポーティングリファレンス*』を参照してください。

サテライト

サテライトは、ZENworks® プライマリサーバが通常実行する特定の役割を実行できる管理対象デバイスです。サテライトは任意の管理対象 Windows デバイス (サーバまたはワークステーション) として使用できますが、プライマリサーバとしては使用できません。サテライトは、ZENworks Agent for Linux がインストールされている管理されていない Linux デバイス (サーバまたはワークステーション) として使用することもできます。詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「サテライト要件」および『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』の「エージェントの Linux サテライトへの展開」を参照してください。

サテライトを設定する際には、サテライトが実行する役割を指定します (コレクションまたはコンテンツ)。サテライトは、ZENworks 10 Management フレームワークのスナップインとなるサードパーティ製品によって追加される役割を実行することもできます。

たとえば、低速 WAN リンクのロケーションでサテライトを作成し、プライマリサーバから新しく作成されたサテライトに 1 つまたは複数の役割をオフロードする最近接サーバルールを作成して、ZENworks システムのパフォーマンスを向上させることができます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 71 ページのセクション 6.1 「サテライトの役割について」
- ◆ 72 ページのセクション 6.2 「サーバ階層へのサテライトの追加」
- ◆ 74 ページのセクション 6.3 「サーバ階層からのサテライトの削除」
- ◆ 74 ページのセクション 6.4 「サーバ階層からのサテライトの設定」
- ◆ 76 ページのセクション 6.5 「デバイスビューからのサテライトの設定」
- ◆ 78 ページのセクション 6.6 「1 つのプライマリサーバから別なプライマリサーバへのサテライトの移動」
- ◆ 78 ページのセクション 6.7 「コンテンツ役割のサテライトへの別なリポジトリの指定 (Windows のみ)」
- ◆ 79 ページのセクション 6.8 「ZENworks サーバの削除」
- ◆ 79 ページのセクション 6.9 「サテライトの更新」

6.1 サテライトの役割について

- ◆ 71 ページのセクション 6.1.1 「コレクション役割の理解」
- ◆ 72 ページのセクション 6.1.2 「コンテンツ役割の理解」

6.1.1 コレクション役割の理解

ZENworks データベースをホストしている ZENworks プライマリサーバへのトラフィックを最小化して、デバイスのグループの情報のロールアップアクセスを向上させるには、デバイスのコレクション役割を有効にします。たとえば、ネットワークセグメントの外側にあるプライマリサーバに情報をロールアップしているデバイスがある場合、そのセグメント内の他のデバイスからの情報を受諾して、ネットワークセグメント内のデバイスのコレ

クシヨソ役割を有効にすることにより、ネットワークトラフィックを最小化できます。そのコレクシヨソ役割デバイスは、情報をロールアップするそのセグメントからプライマリサーバへの、唯一のデバイスになります。

管理対象デバイスのコレクシヨソ役割を有効にできます。コレクシヨソ役割は、ZENworks Adaptive Agent とともにインストールされるコレクシヨソ役割モジュールのみを必要とします。管理対象デバイスでコレクシヨソ役割を有効にするまでは、モジュールは停止しています。

デバイスでコレクシヨソ役割を有効にすると、任意の ZENworks プライマリサーバをその親サーバに割り当てることができます。コレクシヨソ役割デバイスは、その親プライマリサーバにのみ情報をアップロードします。親プライマリサーバが別のプライマリサーバの子でない場合、データベースに情報が直接書き込まれます。親プライマリサーバが別のプライマリサーバの子である場合、その親プライマリサーバに情報が渡され、データベースに情報が書き込まれます。

ロールアップされる情報には、が含まれます。編集可能なロールアップスケジュールがあります。

6.1.2 コンテンツ役割の理解

コンテンツは、で構成されます。

別のプライマリサーバを作成することなく一組のデバイスに対してコンテンツアクセスを向上させるには、デバイスに対してコンテンツ役割を作成できます。たとえば、ネットワークセグメントの外側にあるプライマリサーバにアクセスするデバイスがある場合、これらのデバイスにサービスを提供するネットワークセグメント内のデバイスでコンテンツ役割を作成できます。

コンテンツ役割は、プライマリサーバと同じコンテンツ配信サービスを提供しますが、ZENworks Adaptive Agent とともにインストールされるコンテンツ役割のモジュールのみが必要です。管理対象デバイスでそれを有効にするまでは、モジュールは停止しています。

デバイスのコンテンツ役割を有効にするとき、プライマリサーバをその親コンテンツサーバに割り当てます。コンテンツ役割のサテライトは、その親プライマリサーバからのみコンテンツをダウンロードします。したがって、コンテンツ役割サテライト上でホストされるコンテンツは、すべて、その親プライマリサーバでもホストされる必要があります。

6.2 サーバ階層へのサテライトの追加

次の手順を完了すると、[サーバの階層] リストにデバイスを追加し、それらのデバイスにサテライト役割を設定できます。

注: Linux サテライトを作成する前に、デバイスに ZENworks Agent をインストールし、サーバの階層リストに追加してサテライト役割を設定しておく必要があります。詳細については、『ZENworks 10 検出、展開、リタイアリファレンス』の「エージェントの Linux サテライトへの展開」を参照してください。Linux デバイスに ZENworks Agent をインストールした後、このセクションに記載の手順を実行します。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

- 2 [サーバの階層] パネルで、目的のプライマリサーバの隣にあるチェックボックスをオンにします。

リストに表示されているプライマリサーバの下に、任意のネスティングの深さにサテライトを追加できます。別のサテライトの子にするためにサテライトを追加することはできません。プライマリサーバのみがサテライトの親となることができます。



- 3 [アクション] > [サテライトサーバの追加] の順にクリックします。
- 4 [推進するデバイス] フィールドで、サテライトとなるデバイス (サーバまたはワークステーション) を参照して、選択します。
- 5 [サテライトサーバの役割] セクションで、目的の役割を設定します。

すべての役割に対して [設定] リンクが無効になっている場合、その役割はこのデバイスで無効になります。たとえば、サテライトの親プライマリサーバがコレクション役割を持っていない場合、サテライトのコレクション役割は無効化し、設定できません。管理対象デバイスが実行する設定不可能な役割もダイアログボックスに一覧表示されますが、編集はできません。

- 5a (オプション) [コレクション] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、デバイスは、を収集し、その情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに情報を渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。

コレクションのロールアップスケジュールで、収集されたインベントリ情報が親のプライマリサーバにロールアップされて ZENworks データベースに含まれる頻度が決まります。情報がデータベース内にある場合は、ZENworks コントロールセンターで表示できます。

収集ロールアップ役割を使用するデバイスを指定するには、[設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最密サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

収集ロールアップのスケジュール: 収集されたインベントリデータをコレクションサーバとして使用するデバイスからロールアップする頻度を、日、時間、および分で指定します。

- 5b (オプション) [コンテンツ] の横にあるチェックボックスを選択し、[コンテンツ複製スケジュール] を入力します。

この役割によって、管理対象デバイスは、コンテンツを他のデバイスに配布できます。

コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。コンテンツ役割を持つサテライトでホストされるコンテンツは、すべて、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。コンテンツが新しいプライマリサーバでホストされていない場合は、追加されます。

このサテライトからのコンテンツが必要なデバイスを指定するには、[環境設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最近接サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

コンテンツレプリケーションスケジュール: 親プライマリサーバからサテライトのコンテンツを更新する頻度を、日数、時間、および分で指定します。

- 6 (オプション) [コンテンツまたはコレクションHTTP 要求(あるいはその両方)のポート] フィールドで、ポート番号を指定します。

デフォルトポートは 80 です。コンテンツ およびコレクションサーバは同じ Web サーバおよび同じポートを共用します。指定されたポートが使用中でないことを確認してください。

- 7 [OK] をクリックします。

6.3 サーバ階層からのサテライトの削除

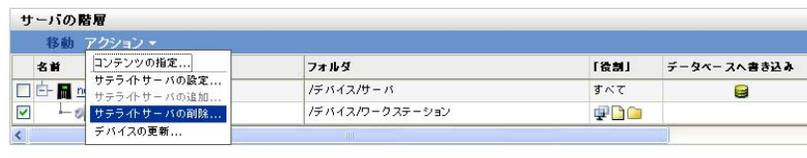
サテライトは、サテライト機能の実行に必要でなくなったとき、[サーバの階層] リストから削除できます。デバイスのオブジェクトは ZENworks から削除されません。サーバの階層リストから削除されるだけです。ただし、階層リストからサテライトを削除すると、コンテンツ、またはコレクションのロールアップ情報もデバイスから削除されます。

サテライトを削除する場合、コンテンツおよびコレクションの目的のため、これを使用していた管理対象デバイスは他のサーバを使用するよう再設定する必要があります。

このオプションを使用してリストからプライマリサーバを削除することはできません。

サテライトを削除するには、次の手順に従います。

- 1 削除するサテライトで、コンテンツおよびコレクション情報のロールアップ用に使用しているすべてのデバイスのメモを取ります。
- 2 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 3 [サーバの階層] パネルで、ゾーンから削除するサテライトの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 4 [アクション] > [サテライトサーバの削除] の順にクリックします。



- 5 削除を確定するには、[OK] をクリックします。
- 6 コンテンツおよびロールアップコレクションの情報の受信を続行できるようにするために、必要に応じて、サテライトを使用する管理対象デバイスを再設定します。

6.4 サーバ階層からのサテライトの設定

コンテンツ、およびコレクションの役割を使用してサテライトを設定したり、そのデフォルトポートを変更したり、役割のスケジュールを調整したりできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、設定するデバイスの隣にあるチェックボックスをオンにします。

一度に設定できるのは1つのサテライトのみです。

3 [アクション] > [サテライトサーバの設定] の順にクリックします。

4 [サテライトサーバの役割] セクションで、目的の役割を設定します。

すべての役割に対して [設定] リンクが無効になっている場合、その役割はこのデバイスで無効になります。たとえば、サテライトの親プライマリサーバがコレクション役割を持っていない場合、サテライトのコレクション役割は無効化し、設定できません。管理対象デバイスが実行する設定不可能な役割もダイアログボックスに一覧表示されますが、編集はできません。

4a (オプション) [コレクション] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、デバイスは、を収集し、その情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに情報を渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。

コレクションのロールアップスケジュールで、収集されたインベントリ情報が親のプライマリサーバにロールアップされて ZENworks データベースに含まれる頻度が決まります。情報がデータベース内にある場合は、ZENworks コントロールセンターで表示できます。

収集ロールアップ役割を使用するデバイスを指定するには、[設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最密サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

収集ロールアップのスケジュール: 収集されたインベントリデータをコレクションサーバとして使用するデバイスからロールアップする頻度を、日、時間、および分で指定します。

4b (オプション) [コンテンツ] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、管理対象デバイスは、コンテンツを他のデバイスに配布できます。

コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。コンテンツ役割を持つサテライトでホストされるコンテンツは、すべて、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。コンテンツが新しいプライマリサーバでホストされていない場合は、追加されます。

このサテライトからのコンテンツが必要なデバイスを指定するには、[環境設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最近接サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

コンテンツレプリケーションスケジュール: 親プライマリサーバからサテライトのコンテンツを更新する頻度を、日数、時間、および分で指定します。

5 (オプション) [コンテンツまたはコレクション HTTP 要求 (あるいはその両方) のポート] フィールドで、ポート番号を指定します。

デフォルトポートは 80 です。コンテンツ およびコレクションサーバは同じ Web サーバおよび同じポートを共有します。指定されたポートが使用中でないことを確認してください。

- 6 [OK] をクリックし、変更を保存してダイアログボックスを閉じます。
- 7 他のサテライトを設定するには、これまでの手順を繰り返します。

6.5 デバイスビューからのサテライトの設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックし、[管理対象] タブで [サーバ] または [ワークステーション] をクリックします。
- 2 [サーバ] パネルまたは [ワークステーション] パネルで、設定するサテライトのチェックボックスをオンにします。
一度に設定できるのは1つのサテライトのみです。
- 3 [アクション] > [サテライトサーバの設定] の順をクリックします。
- 4 [サテライトサーバの役割] セクションで、目的の役割を設定します。

すべての役割に対して [設定] リンクが無効になっている場合、その役割はこのデバイスで無効になります。たとえば、サテライトの親プライマリサーバがコレクション役割を持っていない場合、サテライトのコレクション役割は無効化し、設定できません。管理対象デバイスが実行する設定不可能な役割もダイアログボックスに一覧表示されますが、編集はできません。

- 4a (オプション) [コレクション] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、デバイスは、を収集し、その情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに情報を渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。

コレクションのロールアップスケジュールで、収集されたインベントリ情報が親のプライマリサーバにロールアップされて ZENworks データベースに含まれる頻度が決まります。情報がデータベース内にある場合は、ZENworks コントロールセンターで表示できます。

収集ロールアップ役割を使用するデバイスを指定するには、[設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最密サーバルール] 設定を設定します。

次のフィールドに情報を入力します。

収集ロールアップのスケジュール: 収集されたインベントリデータをコレクションサーバとして使用するデバイスからロールアップする頻度を、日、時間、および分で指定します。

- 4b (オプション) [コンテンツ] の隣にあるチェックボックスをオンにし、[設定] をクリックします。

この役割によって、管理対象デバイスは、コンテンツを他のデバイスに配布できます。

コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。コンテンツ役割を持つサテライトでホストされるコンテンツは、すべて、親プライマリサーバでもホストされる必要があります。コンテンツが新しいプライマリサーバでホストされていない場合は、追加されます。

コンテンツの役割を有効にすると、サテライトはコンテンツを受信し、コンテンツはネットワークセグメント内の他のデバイスに送信することができます。

このサテライトからのコンテンツが必要なデバイスを指定するには、[環境設定] ページの [管理ゾーン] 設定にある [最近接サーバールール] 設定を設定します。次のフィールドに情報を入力します。

コンテンツレプリケーションスケジュール：親プライマリサーバからサテライトのコンテンツを更新する頻度を、日数、時間、および分で指定します。

- 5 (オプション) [コンテンツまたはコレクション HTTP 要求 (あるいはその両方) のポート] フィールドで、ポート番号を指定します。

デフォルトポートは 80 です。コンテンツ およびコレクションサーバは同じ Web サーバおよび同じポートを共有します。指定されたポートが使用中でないことを確認してください。

- 6 [OK] をクリックし、変更を確定します。

1 つ以上の役割を有効にした場合、[役割] カラムの [サーバの階層] パネルに [サテライトの役割] アイコンが追加されます。

サーバの階層			
移動 アクション ▼			
名前	フォルダ	"役割"	データベースへ書き込み
<input type="checkbox"/> krobinsion2	/デバイスサーバ	すべて	
<input type="checkbox"/> Primary Server 1	/デバイスサーバ	すべて	
<input checked="" type="checkbox"/> Satellite Server 1	/デバイスサーバ		
<input type="checkbox"/> Satellite Server 2	/デバイスサーバ		
<input type="checkbox"/> DP 1	/デバイスサーバ		
<input type="checkbox"/> DP 2	/デバイスサーバ		
<input type="checkbox"/> RP 1	/デバイスサーバ		
<input type="checkbox"/> Primary Server 2	/デバイスサーバ	すべて	

アイコン 説明

- コレクション役割を持つサテライトを示します。この役割によって、デバイスは、これらの情報を親のプライマリサーバにロールアップします。親プライマリサーバは、その情報をデータベースに直接書き込むか、またはさらにその親のプライマリサーバに渡し、渡された親サーバが情報をデータベースに書き込みます。
- コンテンツ役割を持つサテライトを示します。この役割によって、デバイスは、システム更新を他のデバイスに配布できます。コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。

役割を無効にした場合、[サーバの階層] パネルから [サテライトの役割] アイコンが削除されます。サテライトに役割が 1 つしかない場合にそれを削除してしまうと、そのデバイスは [階層] パネルに表示されなくなります。そのサテライトサーバの機能はもう使用できません。また、そのコンテンツ、イメージング、またはコレクションロールアップ情報はデバイスから削除されました。

- 7 (オプション) すべてのサテライトの役割を無効にした場合、これらの機能で異なるサーバを認識するよう、その役割に依存しているデバイスを再設定します。

6.6 1つのプライマリサーバから別なプライマリサーバへのサテライトの移動

サテライトを親プライマリサーバから別なプライマリサーバに移動できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、移動するサテライトの隣にあるチェックボックスをオンにし、[移動] をクリックします。
- 3 サテライトの新しい親にするプライマリサーバを選択し、[OK] をクリックします。

6.7 コンテンツ役割のサテライトへの別なりポジトリの指定 (Windows のみ)

Windows サテライトの場合、コンテンツリポジトリは、次のデフォルトのパスにあります。

`installation_path\zenworks\work\content-repo`

デフォルトのパスを、サーバにアクセス可能な別の場所に変更するには、次の手順に従います。

- 1 使用するディスクドライブがサテライトに接続され、適切にフォーマットされていることを確認してください。
ドライブ名を指定する必要はありませんが、サーバはハードウェアを認識する必要があります。
- 2 次のいずれかを行って、デフォルトの場所 (`installation_path\zenworks\work\content-repo`) にコンテンツがないことを確認してください。
 - 上記のパスに `content-repo` ディレクトリがない場合、そのパスに `content-repo` ディレクトリを作成します。
 - 現在このディレクトリにあるコンテンツを保存する必要がある場合、既存のディレクトリの名前を変更し、`content-repo` という名前の新しい空のディレクトリを作成します。
後で、名前変更されたディレクトリから、新規コンテンツリポジトリの場所にコンテンツをコピーできます ([ステップ 9](#) を参照)。
 - 既存の `content-repo` ディレクトリのコンテンツが必要ない場合、ディレクトリを削除し、`content-repo` ディレクトリを再作成します。

サテライトの新規コンテンツリポジトリの場所へのポインタとして動作するためには、空の `content-repo` ディレクトリが存在している必要があります。

- 3 [スタート] をクリックして、[マイ コンピュータ] アイコンを右クリックしてから、[管理] を選択します。
[スタート] をクリックして、[実行] コマンドラインで `compmgmt.msc` を入力します。
- 4 左ペインの [ストレージ] セクションで [ディスク管理] を選択します。
[ステップ 1](#) で選択したディスクドライブが表示されます。
- 5 サテライト上でコンテンツリポジトリとして使用するディスクドライブのパーティションを右クリックし、[ドライブ文字およびパスの変更] を選択します。

これは、content-repo ディレクトリにマウントするディスクドライブです([ステップ 1](#) を参照)。

6 [追加] をクリックします。

[ドライブ名またはパスの追加] ダイアログボックスが表示されます。

7 [次の空の NTFS フォルダでマウントする] を選択し、content-repo ディレクトリを参照して選択します。

`installation_path\zenworks\work\content-repo`

8 必要に応じて [OK] をクリックして終了し、設定変更を保存します。

9 必要に応じて([ステップ 2](#) を参照)、名前変更された古い content-repo ディレクトリから、新しい content-repo ディレクトリにファイルを移動します。

これにより、新規コンテンツリポジトリとして選択したハードドライブにファイルがコピーされます。

6.8 ZENworks サーバの削除

[サーバの階層] パネルに一覧表示されている ZENworks サーバは、管理ゾーンから完全に削除することができます。これには、サーバをリストから削除する、ゾーンから非アクティブ化する、サーバのステータスを ZCC の [削除済みサーバ] フォルダ内で廃棄に変更することが含まれます。このアクションは元に戻すことはできません。元に戻したい場合は、ZENworks サーバの再インストールが必要になります。

プライマリサーバの削除の詳細については、[69 ページのセクション 5.6 「ZENworks プライマリサーバの削除」](#) を参照してください。

- 1 ZCC で、[環境設定] タブをクリックし、[サーバの階層] セクションで、削除したい ZENworks サーバの前にあるチェックボックスを選択します。
- 2 [アクション] > [ZENworks サーバの削除] の順にクリックします。
- 3 サーバを完全に削除することに同意し、[OK] をクリックします。

6.9 サテライトの更新

デバイスを更新すると、保留中のアクションをすぐに実行することができます。

- 1 更新するサテライトサーバの前にあるチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
アクションの実行中は [クイックタスクステータス] ボックスが表示されます。
- 3 (オプション) ステータスダイアログボックスを閉じるには、[非表示] をクリックします。
更新はバックグラウンドで続きます。
- 4 (オプション) 更新アクションをキャンセルするには、デバイスのチェックボックスをクリックし、[中止] をクリックし、さらに [非表示] をクリックしてダイアログボックスを閉じます。

サーバの階層

管理ゾーンのサーバ階層によって、ZENworks® プライマリサーバとサテライトの関係が決定されます。これらの関係は、ゾーン内のコンテンツと情報の流れを制御します。適切に設定すると、低速のリンクによって接続されているネットワークセグメント間のネットワークトラフィックを最小化するのに役立ちます。

- ◆ 81 ページのセクション 7.1 「プライマリサーバ：ピア対親 / 子関係」
- ◆ 81 ページのセクション 7.2 「サテライト役割の関係」
- ◆ 82 ページのセクション 7.3 「プライマリサーバの親子関係の変更」

7.1 プライマリサーバ：ピア対親 / 子関係

デフォルトでは、システムに追加した各プライマリサーバが、その他のすべてのプライマリサーバに対するピアとして作成されます。ピア関係であることで、プライマリサーバで次のことが可能になります。

- ◆ ZENworks データベースへ直接書き込みアクセスでき、情報（インベントリ、メッセージ、およびステータス）を追加できます。
- ◆ データベースからデバイスの設定情報を直接取得できます。
- ◆ コンテンツをプライマリサーバからプルできます。

ZENworks データベースへ直接書き込みアクセスするには、JDBC*/ODBC 接続が必要です。プライマリサーバがネットワーク上にあり、JDBC/ODBC 接続を経由して ZENworks データベースに効率的にアクセスできない場合、そのデータベースへの直接的な書き込みアクセス権を持たない別のプライマリサーバの子になるようにそのプライマリサーバを設定できます。ただし、ネットワーク接続で許される限り、プライマリサーバ間のピア関係を保持するようにしてください。

子の関係にあるプライマリサーバは、HTTP を使用してインベントリ、メッセージ、およびステータス情報を親プライマリサーバにロールアップし、その情報を親プライマリサーバがデータベースに書き込みます。ただし、その後も子プライマリサーバはデータベースから環境設定情報を取得してデータベースにバックアップし続けます。そのため、子プライマリサーバは ZENworks データベースに直接接続する必要があります。

WAN リンクを介して ZENworks データベースをプライマリサーバに接続することは、ネットワークのトラフィックを増大させるので、お勧めできません。WAN リンクを介してサテライトデバイスを使用することをお勧めします。詳細については、[81 ページのセクション 7.2 「サテライト役割の関係」](#) を参照してください。

7.2 サテライト役割の関係

サテライトは、ZENworks プライマリサーバが通常実行する特定の役割を実行できるデバイスです。サテライトは任意の管理対象 Windows デバイス（サーバまたはワークステーション）として使用できますが、プライマリサーバとしては使用できません。サテライトは、管理されていない Linux デバイス（サーバまたはワークステーション）として使用することもできます。サテライトを設定する場合は、サテライトが実行する役割を指定しま

す。サテライトは、ZENworks 10 Management フレームワークのスナップインとなるサードパーティ製品によって追加される役割を実行することもできます。サテライトで実行できるタスクの詳細については、71 ページの第 6 章「サテライト」を参照してください。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 82 ページのセクション 7.2.1 「コンテンツ役割サーバの関係」
- ◆ 82 ページのセクション 7.2.2 「コレクション役割サーバの関係」

7.2.1 コンテンツ役割サーバの関係

コンテンツ役割は、コンテンツを他のデバイスに配布できる管理対象デバイスを識別します。コンテンツの役割を持って機能するようにデバイスを設定する場合、プライマリサーバをその親として指定する必要があります。コンテンツ役割を持つデバイスは、親プライマリサーバからすべてのコンテンツを受信します。

7.2.2 コレクション役割サーバの関係

コレクション役割によって、管理対象デバイスは、これらの情報を親のプライマリサーバにロールアップします。次に、親プライマリサーバがその情報をデータベースに直接書き込むか、または、さらにその親のプライマリサーバに情報を渡し、渡された親プライマリサーバが情報をデータベースに書き込みます。

7.3 プライマリサーバの親子関係の変更

その他のプライマリサーバのピアまたは子になるプライマリサーバを移動できます。

- ◆ 82 ページのセクション 7.3.1 「プライマリサーバを子にする」
- ◆ 83 ページのセクション 7.3.2 「プライマリサーバをピアにする」

7.3.1 プライマリサーバを子にする

プライマリサーバを他のプライマリサーバの子として配置できます。この子プライマリサーバによってコレクションデータが ZENworks データベースに直接書き込まれることはなくなります。代わりに、その情報をその親プライマリサーバに渡し、この親プライマリサーバがデータベースに書き込みます。ただし、その後も子プライマリサーバはデータベースから環境設定情報を取得してデータベースにバックアップし続けます。そのため、子プライマリサーバは ZENworks データベースに直接接続する必要があります。

プライマリサーバを別のサーバの子にするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、子にするプライマリサーバの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [移動] をクリックして、[デバイスの移動] ダイアログボックスを表示します。
- 4 親サーバにするプライマリサーバを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

7.3.2 プライマリサーバをピアにする

これにより、プライマリサーバは階層の最初のレベルに配置されるか、または入れ子になった1つ以上のレベルの深さである場合、移動されて別のプライマリサーバの子になります。

プライマリサーバを最初のレベルに戻すと、ZENworks データベースに直接書き込みます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [サーバの階層] パネルで、ピアにするプライマリサーバの隣にあるチェックボックスをオンにします。
- 3 [移動] をクリックして、[デバイスの移動] ダイアログボックスを表示します。
- 4 次のいずれかの操作を行います。
 - ◆ リストでサーバの最初のレベルに移動するには、[なし] を選択します。
 - ◆ 親サーバになる別のプライマリサーバを選択します。
- 5 [OK] をクリックします。

ZENworks Adaptive Agent

8

ZENworks[®] Adaptive Agent は、ネットワークを介したデバイスの管理を可能にする Novell[®] ZENworks 10 Management ソフトウェアの一部です。ZENworks Adaptive Agent は、通常、Adaptive Agent と呼ばれ、個々のデバイスにアクセスしなくても次の操作を行えるサービスを提供します。

- ◆ システム更新をデバイスに配布します。
- ◆ デバイスのハードウェアおよびソフトウェアのインベントリを取得します。
- ◆ コンテンツの配布インベントリとデバイスメッセージの収集を支援するサテライトとして機能します。

各サービスは、Adaptive Agent のプラグインモジュールを使用することで提供されます。ZENworks コントロールセンターを使用すると、デバイス上でどのモジュールをアクティブにするか設定できるので、それらのデバイスでどのサービスを利用可能にするか制御できます。他にもさまざまな Adaptive Agent の設定を行うことができます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [85 ページのセクション 8.1「デバイス上の Adaptive Agent ソフトウェアとモジュールのバージョン表示」](#)
- ◆ [86 ページのセクション 8.2「特定のバージョンの Adaptive Agent がインストールされたデバイスの検索」](#)
- ◆ [86 ページのセクション 8.3 「展開後の Adaptive Agent の設定」](#)
- ◆ [90 ページのセクション 8.4 「Adaptive Agent のトラブルシューティング」](#)

8.1 デバイス上の Adaptive Agent ソフトウェアとモジュールのバージョン表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] をクリックすると、サーバの Adaptive Agent ソフトウェアのバージョンが表示されます。
または
[ワークステーション] をクリックすると、ワークステーションの Adaptive Agent ソフトウェアのバージョンが表示されます。
- 3 該当するデバイスの下線付きリンクをクリックします。
- 4 [全般] セクションの [ZENworks Agent バージョン] の行にバージョンが表示されません。
- 5 (オプション) 下線付きのバージョンをクリックすると、そのデバイスにインストールされた ZENworks Agent モジュールとそのバージョン番号のリストが表示されます。

デバイスの [設定] ページで ZENworks Agent 設定を使用して、ZENworks モジュールをアンインストール、有効化、または無効化することができます。詳細については、[89 ページの「エージェント機能」](#)を参照してください。

8.2 特定のバージョンの Adaptive Agent がインストールされたデバイスの検索

アップグレードやトラブルシューティングを行う場合は、高度な検索機能を使用して、ZENworks 管理ゾーンのデバイスのうち、特定の Adaptive Agent ソフトウェアがインストールされているデバイスのリストを表示することができます。

- 1 すべてのデバイス (サーバとワークステーション)、サーバ、ワークステーションのいずれかで特定の Adaptive Agent がインストールされたデバイスを検索するのかわによって、ZENworks コントロールセンターで次のいずれかの手順を実行します。
 - ◆ すべてのデバイスで検索するには、[デバイス] タブをクリックします。
 - ◆ すべてのサーバで検索するには、[デバイス] タブ > [サーバ] の順にクリックします。
 - ◆ すべてのワークステーションで検索するには、[デバイス] タブ > [ワークステーション] の順にクリックします。
- 2 [検索] セクションで、[高度な検索] をクリックします。
- 3 [追加] をクリックすると [検索条件] ダイアログボックスが表示されます。
- 4 [フィルタの追加] をクリックし、ドロップダウンリストから [デバイス/エージェントバージョン] をクリックして、次に [OK] をクリックします。

8.3 展開後の Adaptive Agent の設定

デフォルトでは、ZENworks Adaptive Agent は、ZENworks コントロールセンターの [エージェント機能] パネルで選択された機能とともに展開されます。展開時にエージェント機能をカスタマイズする方法については、「[展開前の機能のカスタマイズ](#)」を参照してください。展開後は、**Adaptive Agent 機能**のアンインストール/有効化/無効化の選択、エージェントのキャッシュの設定、再試行設定値の設定、およびユーザによるエージェントのアンインストールを可能にするかどうかの選択を行うことができます。

次の3つのレベルで設定できます。

- ◆ **管理ゾーン**：この設定は管理ゾーンの中のすべてのデバイスに適用されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：この設定は、フォルダまたはそのサブフォルダの中に含まれているすべてのデバイスに適用されます。管理ゾーンの設定を上書きします。
- ◆ **デバイス**：この設定は、それが設定されたデバイスにのみ適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルでの設定を上書きします。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [86 ページのセクション 8.3.1 「管理ゾーンレベルでのエージェントの設定」](#)
- ◆ [87 ページのセクション 8.3.2 「デバイスフォルダレベルでのエージェントの設定」](#)
- ◆ [87 ページのセクション 8.3.3 「デバイスレベルでのエージェントの設定」](#)
- ◆ [87 ページのセクション 8.3.4 「ZENworks エージェントの設定」](#)

8.3.1 管理ゾーンレベルでのエージェントの設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。

- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックします。
- 3 [ZENworks エージェント] をクリックします。
- 4 次のフィールドに入力します。詳細については、[87 ページのセクション 8.3.4 「ZENworks エージェントの設定」](#) を参照してください。
- 5 [OK] をクリックし、変更内容を適用します。

8.3.2 デバイスフォルダレベルでのエージェントの設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] フォルダまたは [ワークステーション] フォルダをクリックします。
- 3 設定するフォルダの隣にある [詳細] をクリックします。
- 4 [設定] タブをクリックし、[デバイス管理] をクリックし、[ZENworks エージェント] をクリックします。
- 5 次のフィールドに入力します。詳細については、[87 ページのセクション 8.3.4 「ZENworks エージェントの設定」](#) を参照してください。
- 6 [OK] をクリックし、変更内容を適用します。

8.3.3 デバイスレベルでのエージェントの設定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [サーバ] フォルダまたは [ワークステーション] フォルダをクリックします。
- 3 設定するデバイスをクリックします。
- 4 [設定] タブをクリックし、[デバイス管理] をクリックし、[ZENworks エージェント] をクリックします。
- 5 次のフィールドに入力します。詳細については、[87 ページのセクション 8.3.4 「ZENworks エージェントの設定」](#) を参照してください。
- 6 [OK] をクリックし、変更内容を適用します。

8.3.4 ZENworks エージェントの設定

- ◆ [87 ページの「全般」](#)
- ◆ [89 ページの「エージェント機能」](#)

全般

ZENworks Adaptive Agent のキャッシュや、ユーザが Adaptive Agent をアンインストールできるかどうか、および再試行について設定できます。

- ◆ **ユーザへのエージェントのアンインストールの許可** : ユーザが ZENworks Adaptive Agent をアンインストールできるようにしたい場合は、このオプションを有効にします。このオプションは、ローカルアンインストールの場合のみ適用できます。
- ◆ **キャッシュ保持期間** : ZENworks Adaptive Agent のキャッシュディレクトリには、エージェントが使用するコンテンツデータが含まれます。キャッシュエントリと呼ばれるデータの集まりは、キャッシュデータベースに保存されています。

キャッシュデータベースにキャッシュエントリが追加されると、作成時間および満了時間が割り当てられます。作成時間は、エントリがデータベースに追加された時間を単に表わします。満了時間は、作成時間に [キャッシュ保持期間] の設定で指定された時間 (デフォルトでは 336 時間または 14 日) を足した時間です。たとえば、6 月 10 日午後 3 時にキャッシュエントリが追加されたとします。デフォルトの [キャッシュ保持期間] の設定を使用すると、有効期限は 6 月 24 日の午後 3 時に設定されます。

エージェントは、エントリの満了時間になるまではキャッシュエントリを更新しようとはしません。満了時間を過ぎると、エージェントが次回 ZENworks サーバに情報をリフレッシュするためにコンタクトすると、エージェントによりキャッシュエントリが更新されます。

注: 期限切れのキャッシュエントリの更新は、コンテンツ関連のキャッシュエントリに関してのみ行われます。イベント関連のキャッシュエントリの更新は、デバイス上でイベントが発生した時にのみ行われます。

[キャッシュ保持期間] 設定を長くすると、キャッシュエントリのリフレッシュ頻度が低くなるので、ネットワーク上のトラフィックの負荷を軽減できます。設定を短くすると、より新しい情報が得られますが、トラフィックの負荷が増加します。

この設定によって影響されるのは、エージェントがキャッシュエントリに対する更新を要求する頻度のみです。ZENworks コントロールセンターで情報が変更された場合、ZENworks サーバからエージェントに情報がプッシュされるので、キャッシュエントリをその満了時間よりも前に更新することもできます。

- ◆ **キャッシュオフアのしきい値:** ある期間にわたって、エントリをキャッシュデータベースに挿入することはできますが、削除はできません。このため、キャッシュが必要以上に大きくなってしまう可能性があります。

オフアとは、キャッシュに挿入されたけれども [キャッシュオフアのしきい値] 設定で指定された日数のうちにアクセスされなかったエントリのことです。たとえば、7 月 1 日の午前 10 時にキャッシュエントリがアクセスされたとします。デフォルトの [キャッシュオフアのしきい値] の設定 (30 日) を使用しない場合、7 月 31 日の午前 10 時以前に再度アクセスされないと、エントリはオフアになります。

[キャッシュオフアのしきい値] 設定を長くすると、頻繁にアクセスされない情報がキャッシュデータベースから削除されないようにすることができます。設定を短くすると、キャッシュサイズを削減できます。

- ◆ **ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数:** サーバがビジー状態ではなく不正であると見なす前に、ビジー状態のサーバに対して、エージェントが要求を再試行する回数を指定できます。

デフォルト値は 15 です。指定可能な最大値は 20 です。

- ◆ **再試行要求の初回待機時間:** [再試行要求の初回待機時間] 設定では、エージェントがサーバからビジーの応答を受け取った後、Web サービス要求を再試行するまでの初回待機時間を指定します。待機時間はビジー応答を受け取るたびに 1 秒増えます。デフォルト設定は 4 秒です。指定可能な最大値は 10 秒です。後続の要求は 1 秒増分されます。

たとえば、この設定をデフォルトのまま残したとします (4 秒)。サーバからビジー応答を受け取った後、エージェントは最初の再試行まで 4 秒間待つこととなります。サーバがまだビジー状態の場合、エージェントは次の再試行までさらに 5 秒 (4 + 1) 待機することとなります。3 度目の再試行では、初回の再試行以降 15 秒 (4 + 5 + 6) と

なります。時間は、[再試行要求の最大待機時間] 設定で指定した値に達するまで増えます。[ビジー状態のサーバに対する要求再試行回数] 設定で指定した値に達すると、再試行は停止されます。

- ◆ **再試行要求の最大待機時間**：サーバからビジーの応答を受け取った後、Web サービス要求を再試行するまでの最大待機時間を指定します。
デフォルト設定は 16 秒です。指定可能な最大値は 20 秒です。

エージェント機能

ZENworks® Adaptive Agent は、モジュールを使用して管理対象デバイスで次の機能を実行します。

- ◆ アセット管理
- ◆ ユーザ管理

Windows 2000 デバイスのプロパティの表示では、[ユーザ管理] オプションが無効になっています。これは、Windows 2000 デバイスではユーザ管理の無効化とアンインストールができないためです。管理ゾーンまたはフォルダのプロパティの表示では、Windows 2000 デバイスに対するユーザ管理設定は無視されます。

デフォルトでは、デバイスにすべてのモジュールがインストールされます。ただし、モジュールはアンインストールできます。インストールしたモジュールを無効または有効にすることもできます。

モジュールは、次の 3 つのレベルでインストール、アンインストール、有効化、または無効化できます。

- ◆ **管理ゾーン**：この設定は管理ゾーンの中のすべてのデバイスに適用されます。
- ◆ **デバイスフォルダ**：この設定は、フォルダまたはそのサブフォルダの中に含まれているすべてのデバイスに適用されます。管理ゾーンの設定を上書きします。
- ◆ **デバイス**：この設定は、それが設定されたデバイスにのみ適用されます。管理ゾーンレベルおよびフォルダレベルでの設定を上書きします。

モジュールの状態を変更するには、次の手順に従います。

- 1 (条件付き) デバイスフォルダまたはデバイスで ZENworks エージェント設定を構成する場合、[設定の上書き] をクリックします。

- 2 モジュールをインストールするには、[インストール済み] チェックボックスを選択します。

または

モジュールをアンインストールするには、[インストール済み] チェックボックスをオフにします。

デフォルトでは、すべてのモジュールで [インストール済み] チェックボックスがオンになっており、ZENworks 管理ゾーンに登録するときすべてのモジュールがデバイスにインストールされています。モジュールの [インストール済み] チェックボックスをオフにすると、そのモジュールは次の更新時にデバイスからアンインストールされます。

- 3 インストールされたモジュールを有効にするには、[有効] ボタンをクリックします。
または

インストールされたモジュールを無効にするには、[無効] ボタンをクリックします。デフォルトでは、すべてのインストール済みモジュールで [有効] オプションが選択されており、すべてのモジュールがデバイスで有効です。モジュールを無効にしても、現在の管理対象デバイスからモジュールはアンインストールされません。モジュールはデバイスにインストールされたままですが、使用できません。

4 再起動が必要な場合は、再起動の動作を指定します。

このオプションは、モジュールのインストールまたはアンインストールの際にのみ適用されます。場合によっては、モジュールのインストールまたはアンインストールの際に Windows インストーラからデバイスの再起動が要求されることがあります。インストール中に再起動が要求された場合は、モジュールは再起動されるまで機能しません。アンインストール中に再起動が要求された場合は、モジュールのファイルは再起動されるまで完全には削除されませんが、モジュールは機能を停止します。

- ◆ ユーザに再起動を要求する(デフォルト): ユーザはデバイスの再起動を要求されます。ユーザは即座に再起動することも、後で再起動することもできます。
- ◆ デバイスを再起動しない: 再起動されません。ユーザが再起動を行う必要があります。
- ◆ 強制的にデバイスを再起動: デバイスは自動的に再起動されます。5 分以内にデバイスが再起動されることがユーザに通知されます。

5 [適用] をクリックして変更を保存します。

注: イメージングサテライト上のイメージ管理のアンインストールを選択した場合は、次のデバイス更新スケジュール時に、[サテライトイメージング] ページが  アイコンに表示されません。ただし、デバイスは、引き続きイメージングサテライトとして使用できます。デバイスは、ZENworks コントロールセンターにイメージングサテライトとして表示され ([環境設定] > [サーバの階層] パネル)、イメージングサービスがデバイス上で実行されます (デスクトップ [開始] メニュー > [設定] > [コントロールパネル] > [管理ツール] > [サービス])。

8.4 Adaptive Agent のトラブルシューティング

次のセクションでは、ZENworks Adaptive Agent で作業を行っているときに発生する可能性のある問題に対する解決方法について説明します。

- ◆ 90 ページの「[ZENworks Adaptive Agent] ページの左側のナビゲーションペインにサテライトのメニューが表示されない」
- ◆ 91 ページの「権限ベースの認証を使用してリモートでデバイスを管理できない」
- ◆ 91 ページの「ZENworks Adaptive Agent がインストールされた Citrix サーバとのターミナルセッションを起動できない」

[ZENworks Adaptive Agent] ページの左側のナビゲーションペインにサテライトのメニューが表示されない

ソース:

説明： ZENworks コントロールセンターを使用してデバイスをサテライトに昇格させると、設定されたサテライト役割がデバイスに追加されます。ただし、 をダブルクリックすると、[ZENworks Adaptive Agent] ページの左側のナビゲーションペインには、サテライトのメニューは表示されません。

アクション： 管理対象デバイスを更新します (デバイスの通知領域で、 アイコンを右クリックし、[更新] をクリックします)。

権限ベースの認証を使用してリモートでデバイスを管理できない

ソース：

説明： 権限ベースの認証を使用して、リモートでデバイスを管理しようとするすると、次のエラーがデバイスに記録されます。

```
Rights Authentication failed. An internal error occurred while communicating to ZENworks Management Daemon. Contact Novell Technical Services.
```

考えられる原因： ZENworks Adaptive Agent がデバイスにインストールされていません。デバイスには、Remote Management サーバのみがインストールされています。

アクション： ZENworks Adaptive Agent をデバイスにインストールします。ZENworks Adaptive Agent のインストールの詳細については、『ZENworks 10 Asset Management 管理クイックスタート』の「ZENworks Adaptive Agent のインストール」を参照してください。

ZENworks Adaptive Agent がインストールされた Citrix サーバとのターミナルセッションを起動できない

ソース：

説明： ZENworks Adaptive Agent を Citrix* サーバに展開後、次の ICA ログインセッション問題のいずれかが発生した可能性があります。

- ◆ Citrix エージェントから起動された ICA ログインセッションが、しばらくしてから終了します。
- ◆ ICA ログインセッションで、次の例外が表示されます。

```
winlogon.exe ..Application Error
```

例外ウィンドウを閉じようとする、セッションがハングし、次のメッセージが表示されます。

```
Running login scripts
```

アクション： Citrix サーバとのターミナルセッションを起動する前に、サーバ上で次のいずれかを実行します。

- ◆ NWGina.dll の名前を変更します。
 1. c:\windows\system32 ディレクトリ内で、NWGina.dll の名前を変更します。

2. レジストリエディタ内で、
HKLM\Software\Microsoft\WindowsNT\CurrentVersion\Winlogon に移動し、CtxGinaDLL キーの値を NWGina.dll の新しい名前に変更します。
 3. サーバを再起動します。
- ◆ Novell Client をインストールします。

注: これは一度だけ実行すれば、後は必要ありません。

ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元

次のセクションでは、ZENworks サーバおよび認証局のバックアップおよび復元に関する詳細について説明します。

- ◆ 93 ページのセクション 9.1 「ZENworks サーバのバックアップ」
- ◆ 94 ページのセクション 9.2 「ZENworks サーバの復元」
- ◆ 95 ページのセクション 9.3 「認証局のバックアップ」
- ◆ 95 ページのセクション 9.4 「認証局の復元」

9.1 ZENworks サーバのバックアップ

Novell® ZENworks® 10 Management では、ZENworks プライマリサーバの環境設定ファイルをバックアップおよび復元することができます。サーバが失敗したり、新しいサーバのハードウェアにアップグレードする必要がある場合、これによって ZENworks サーバの ID と設定を保持できます。

ZENworks サーバは 1 回だけバックアップが必要です。バックアップは、環境設定ファイルしか保存しません。次のアイテムは、個別にバックアップする必要があります。

- ◆ コンテンツリポジトリ。管理ゾーンにプライマリサーバが 1 つしかない場合は、コンテンツリポジトリ用の別個のバックアップを実行する必要があります。2 つ以上プライマリサーバがあり、すべてのコンテンツを両方のサーバに複製した場合、それらのサーバは、互いのバックアップコピーとして機能します。
- ◆ ZENworks データベース (ZENworks サーバ上にある場合)。ZENworks サーバのバックアップと ZENworks データベースのバックアップは、2 つの別個プロセスです。ZENworks データベースが ZENworks サーバの 1 つと同じサーバにある場合は、まず、データベースをバックアップし、次に、ZENworks サーバをバックアップします。ZENworks データベースは頻繁に変更されるので、ZENworks データベースは、定期的にバックアップする必要があります。データベースのバックアップの詳細については、[179 ページのパート VI 「データベース管理」](#) を参照してください。

zman コマンドを使用して ZENworks サーバをバックアップすると、Windows サーバの場合は Novell\ZENworks\conf ディレクトリのすべてのファイルが、Linux サーバの場合は etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリのすべてのファイルが、指定した場所にある暗号化されたバックアップファイルに保存されます。

- 1 (条件付き) バックアップしているサーバが ZENworks データベースをホストしている場合は、データベースファイルを安全な場所に手動でバックアップします。

データベースのバックアップの詳細については、[179 ページのパート VI 「データベース管理」](#) を参照してください。

- 2 ZENworks サーバ上のコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman zenserver-backup path_to_backup_file_to_create
```

例を次に示します。

```
zman zenserver-backup c:\zcm_backups\zone_backup.bak
```

または

```
zman zenserver-backup /root/zcm_backups/zone_backup.bak
```

- 3 入力が求められたら、ZENworks の管理者名およびパスワードを入力します。
- 4 入力が求められたら、バックアップファイルを暗号化するために使用されるパスフレーズを入力します (最低 10 文字)。このパスフレーズを覚えておいてください。サーバを復元する必要がある場合、これを入力する必要があります。
- 5 (条件付き) これが使用する唯一のプライマリサーバであるか、管理ゾーンで定義したすべてのコンテンツを含む唯一のプライマリサーバである場合は、コンテンツリポジトリを安全な場所に手動でバックアップします。

重要: これが管理ゾーンに定義したすべてのコンテンツを含む唯一のプライマリサーバであっても、コンテンツリポジトリをバックアップしない場合は、完全な障害復旧の態勢をとることはできません。

- 6 定期的に **ステップ 1** と **ステップ 5** を繰り返し実行してください。**ステップ 2** から **ステップ 4** で説明している zman コマンドは 1 回実行するだけです。

9.2 ZENworks サーバの復元

この手順では、次を想定しています。

- ◆ ZENworks サーバの設定情報のバックアップがあります。詳細については、[93 ページのセクション 9.1 「ZENworks サーバのバックアップ」](#) を参照してください。
- ◆ ZENworks データベースが ZENworks サーバにある場合、データベースのバックアップがあります。詳細については、[183 ページのセクション 21.3 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」](#) を参照してください。

重要: ZENworks サーバおよびデータベースを復元する場合、まず、ZENworks サーバを復元し、次に、最後にバックアップした ZENworks データベースを復元する必要があります。

ZENworks サーバを復元するには、次の手順に従います。

- 1 同じ IP アドレスおよび DNS 名を使用して、ZENworks サーバを再インストールします。
同じ IP アドレスと DNS 名を使用しない場合、サーバに接続するすべてのデバイスを登録する必要があります。
外部データベースに接続されたプライマリサーバがゾーン内に 1 つしかない場合は、プライマリサーバを再インストールして、インストール中にダミーのデータベースを作成します。内部データベースを作成する必要はありません。
外部データベースに接続されたプライマリサーバがゾーン内に複数ある場合は、障害が発生したプライマリサーバを 2 番目のプライマリサーバとして再インストールします。インストール中にデータベースの設定を要求されます。
- 2 Windows サーバの場合は Novell\ZENworks\conf ディレクトリ、Linux サーバの場合は etc/opt/novell/zenworks ディレクトリで、読み込み / 書き込みの権限を持っていることを確認してください。

- 3 ZENworks サーバ上のコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman zenserver-restore path_to_backup_file_to_restore
```

例を次に示します。

```
zman zenserver-restore c:\zcm_backups\zone_backup.bak
```

または

```
zman zenserver-restore /root/zcm_backups/zone_backup.bak
```

- 4 入力が求められたら、ZENworks の管理者名およびパスワードを入力します。
- 5 入力が求められたら、バックアップファイルを復号化するために使用されるパスワードを入力します (最低 10 文字)。これは、サーバをバックアップするときにファイルを暗号化するために入力された、同じパスワードです。
- 6 (条件付き) データベースがサーバ上にある場合、ZENworks サーバの情報が復元された後に、データベースを復元します。手順については、[188 ページのセクション 21.4 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」](#) を参照してください。
- 7 ZENworks サーバを再起動します。

9.3 認証局のバックアップ

ZENworks 内部の認証局になるように設定されたプライマリサーバ上の認証局ファイルをバックアップするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks サーバのコマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman certificate-authority-export (certificate-authority-export/cae) [ オプション ] (ファイルパス)
```

このコマンドによって、ゾーン認証局の主要なペアの資格情報がファイルにエクスポートされます。zman の認証局コマンドの詳細については、『[ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』の「[zman\(1\)](#)」を参照してください。

- 2 管理ゾーンの管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。
- 3 ファイル暗号化のパスワードを入力します。

このパスワードを覚えておいてください。サーバを復元する必要がある場合、これを入力する必要があります。

9.4 認証局の復元

ZENworks 内部の認証局になるよう設定されたプライマリサーバ上の認証局ファイルを復元するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks サーバのコマンドプロンプトで、次の zman コマンドを入力します。

```
zman certificate-authority-import (certificate-authority-import/cai) (ファイルパス)
```

このコマンドにより、ゾーン認証局の主要なペアの資格情報がファイルからインポートされます。zman の認証局コマンドの詳細については、『[zman\(1\)](#)』の「[ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス](#)」を参照してください。

- 2 管理ゾーンの管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。
- 3 認証局ファイルをバックアップしたときに指定したファイル暗号化パスフレーズを入力します (95 ページのセクション 9.3 「認証局のバックアップ」のステップ 3)。

障害復旧

次のセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Management で提供されている障害復旧メカニズムについて説明します。このメカニズムは、組織のリスクアセスメントで、そのような措置に対するニーズが識別された場合に、管理ゾーンの最初のプライマリサーバを保護するために役立ちます。

- ◆ 97 ページのセクション 10.1 「最初のプライマリサーバから 2 番目のプライマリサーバへの入れ替え」
- ◆ 100 ページのセクション 10.2 「既存のプライマリサーバから新しいプライマリサーバへの入れ替え」
- ◆ 101 ページのセクション 10.3 「プライマリサーバでの内部証明書から外部証明書への変更」
- ◆ 102 ページのセクション 10.4 「プライマリサーバの DNS 名変更後に実行するタスク」

10.1 最初のプライマリサーバから 2 番目のプライマリサーバへの入れ替え

管理ゾーンの最初のプライマリサーバを、既存の 2 番目のプライマリサーバ、または新しいサーバに入れ替えることができます。最初のプライマリサーバを、別のホスト名と IP アドレスを持つ新しいサーバに入れ替える場合、同じ管理ゾーン内で新しいサーバに ZENworks 10 Management をインストールする必要があります。その結果、新しいサーバが 2 番目のプライマリサーバになります。

注：このシナリオは、次のプラットフォームの組み合わせでテスト済みです。

- ◆ Windows Server* 2003 (32 ビット) から Windows Server 2008 (32 ビット) へ
- ◆ SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 10 (32 ビット) から SLES 10 (32 ビット) へ

ZENworks レポートングサーバではテストされていません。

最初のプライマリサーバを 2 番目のプライマリサーバに入れ替えるには、次の手順に従います。

- 1 最初のプライマリサーバの content-repo ディレクトリが、2 番目のプライマリサーバに複製されていることを確認します。

content-repo ディレクトリは、Windows では `ZENworks_installation_directory\work\` に、Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

- 2 認証局役割をエクスポートします。

- 2a 最初のプライマリサーバの認証局の信頼できるバックアップを作成します。

認証局のバックアップ方法の詳細は、95 ページのセクション 9.3 「認証局のバックアップ」を参照してください。

重要： `zman certificate-authority-export` コマンドに `-d` オプションを指定し、ローカルサーバの認証局役割を削除します。

- 2b** バックアップした認証局を 2 番目のプライマリサーバで復元します。
バックアップした認証局の復元方法の詳細は、**95 ページのセクション 9.4 「認証局の復元」** を参照してください。
- 3** 管理ゾーンレベルのデフォルト最近接サーバルールで、最初のプライマリサーバを移動してサーバリスト内の最後のエントリにします。
- 3a** ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 3b** [管理ゾーンの設定] パネルで、[インフラ管理] > [最近接サーバのデフォルトルール] の順にクリックします。
- 3c** [コレクションサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、サーバがリストの最後のエントリになるまで、[下へ移動] をクリックします。
- 3d** [コンテンツサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、サーバがリストの最後のエントリになるまで、[下へ移動] をクリックします。
- 3e** [設定サーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、サーバがリストの最後のエントリになるまで、[下へ移動] をクリックします。
- 3f** [OK] をクリックします。
- 4** (条件付き) 追加の最近接サーバルールが設定されている場合は、それらのルールから最初のプライマリサーバを削除します。
- 4a** ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 4b** [管理ゾーンの設定] パネルで、[インフラ管理] > [最近接サーバルール] の順にクリックします。
- 4c** 最近接サーバルールを選択後、[編集] をクリックします。
[Rule Construction(ルール構築)] ダイアログボックスが表示されます。
- 4d** [コレクションサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、[削除] をクリックします。
- 4e** [コンテンツサーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、[削除] をクリックします。
- 4f** [設定サーバ] リストで、最初のプライマリサーバの横のチェックボックスを選択し、次に、[削除] をクリックします。
- 4g** [OK] を 2 回クリックします。
- 5** 管理ゾーン内のすべてのデバイス (プライマリサーバ、サテライト、および管理対象デバイス) を更新して、それらが新しい最近接サーバルールを取得するようにします。
- 6** (条件付き) 次のシナリオでデータベースを別なデバイスに移動します。
- 内部 ZENworks データベース (組み込み Sybase SQL* Anywhere) を使用している。
 - 最初のプライマリサーバをホストしているデバイス上にインストールされた外部データベースを使用しており、プライマリサーバのアンインストール後はデバイスを使用する予定がない。
- データベースを別なデバイスに移動するには、次の手順に従います。
- 6a** (条件付き) 外部データベースを使用している場合、データベースの信頼できるバックアップがあることを確認します。

- 6b** データベースの資格情報を取得します。
内部データベースの資格情報を取得するには、次のいずれかのコマンドを使用します。

```
zman dgc -U administrator_name -P administrator_password
```

または

```
zman database-get-credentials -U administrator_name -P administrator_password
```

外部データベースの資格情報を取得するには、データベース管理者にお問合せください。

- 6c** 最初のプライマリサーバからデータベース役割を削除します。

6c1 データベースにログインします。

6c2 SQL エディタで、次の SQL クエリを実行して最初のプライマリサーバのデータベース役割エントリを zZENServerRoles 表から削除します。

```
delete from zZENServerRoles where Roles='Database';
```

6c3 SQL エディタで、次の SQL コマンドを実行します。

```
commit;
```

- 6d** データベースが最初のプライマリサーバのデバイスと同じデバイスにインストールされている場合は、そのデータベースを移動します。

内部 Sybase: 内部 Sybase データベースから外部 Sybase データベースにデータを移動する方法の詳細は、[190 ページのセクション 21.5 「組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動」](#)を参照してください。

外部 Sybase: 外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースにデータを移動する方法の詳細は、[203 ページのセクション 22.1 「ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへデータを移動する」](#)を参照してください。

MS SQL: 新しい MS SQL データベースにデータを移動する方法の詳細は、MS SQL のマニュアルを参照してください。後から [205 ページのセクション 22.2 「別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」](#)に記載の手順を実行してください。

Oracle: Oracle データベースから別の Oracle データベースにデータを移動する方法の詳細は、Oracle のマニュアルを参照してください。後から [206 ページのセクション 22.3 「別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」](#)に記載の手順を実行してください。

- 7** 最初のプライマリサーバの下のすべてのサテライトを [サーバの階層] から削除します。

ZENworks コントロールセンターに一覧表示されているサーバ階層からサテライトを削除する方法の詳細は、[74 ページのセクション 6.3 「サーバ階層からのサテライトの削除」](#)を参照してください。

- 8** サーバプロンプトで次のコマンドのいずれかを入力して、最初のプライマリサーバをリタイアします。

```
zman zsd primary_server_object_name
```

または

```
zman zenserver-delete primary_server_object_name
```

zman の詳細については、サーバの zman マニュアル (man zman) ページを表示するか、『zman(1)』の「ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス」を参照してください。

- 9 管理ゾーン内のすべての操作が問題なく機能することを確認したら、最初のプライマリサーバ上の ZENworks 10 をアンインストールします。

ZENworks 10 Management のアンインストールの方法については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「ZENworks 10 Asset Management SP2 のアンインストール」を参照してください。

10.2 既存のプライマリサーバから新しいプライマリサーバへの入れ替え

管理ゾーンに 1 つのプライマリサーバしかなく、プライマリサーバをホストしているデバイスを、古いデバイスと同じホスト名と IP アドレスで新しいデバイスに入れ替える場合、プライマリサーバを新しいデバイスに移動する必要があります。

注：このシナリオは、次のプラットフォームの組み合わせでテスト済みです。

- ◆ Windows Server* 2003 (32 ビット) から Windows Server 2008 (32 ビット) へ
- ◆ SUSE® Linux Enterprise Server (SLES) 10 (32 ビット) から SLES 10 (32 ビット) へ

ZENworks レポーティングサーバではテストされていません。

- 1 既存の ZENworks サーバの信頼できるバックアップを作成します。
ZENworks サーバのバックアップを作成する方法の詳細は、93 ページのセクション 9.1 「ZENworks サーバのバックアップ」を参照してください。
- 2 プライマリサーバの認証局の信頼できるバックアップを作成します。
認証局のバックアップ方法の詳細は、95 ページのセクション 9.3 「認証局のバックアップ」を参照してください。
- 3 (条件付き) 次のいずれかのシナリオで、データベースの信頼できるバックアップを作成します。
 - ◆ 内部 ZENworks データベース (組み込み Sybase SQL Anywhere) を使用している。
 - ◆ プライマリサーバをホストしているデバイス上にインストールされた外部データベースを使用しており、プライマリサーバのアンインストール後はそのデバイスを使用する予定がない。内部データベースのバックアップ方法の詳細は、183 ページのセクション 21.3 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」を参照してください。
外部データベースのバックアップを作成するには、そのデータベースのマニュアルを参照してください。
- 4 プライマリサーバのすべての ZENworks サービスを中止します。
Windows 上で ZENworks サービスを中止する方法の詳細は、65 ページのセクション 5.1.3 「ZENworks サービスの停止」を参照してください。Linux 上で ZENworks サービスを中止する方法の詳細は、66 ページのセクション 5.2.3 「ZENworks サービスの停止」を参照してください。
- 5 プライマリサーバの content-repo ディレクトリの信頼できるバックアップを作成します。

content-repo ディレクトリは、Windows では `ZENworks_installation_directory\work\` に、Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

- 6 デバイスをネットワークから切断します。
- 7 新しいサーバのホスト名と IP アドレスが古いプライマリサーバのそれらと同じであることを確認します。
- 8 新しいサーバに、ZENworks 10 Management を古いプライマリサーバのものと同じ管理ゾーン名とポートでインストールします。

ZENworks 10 Management のインストール方法については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「ZENworks 10 Asset Management SP2 のインストール」を参照してください。

- 9 新しいプライマリサーバで次を実行してください。
 - 9a バックアップした ZENworks サーバを復元します。

ZENworks サーバの復元方法の詳細は、94 ページのセクション 9.2 「ZENworks サーバの復元」を参照してください。
 - 9b バックアップした認証局を復元します。

認証局の復元方法の詳細は、95 ページのセクション 9.4 「認証局の復元」を参照してください。
 - 9c (条件付き) バックアップしたデータベースを復元します。

内部 ZENworks データベースの復元方法の詳細は、188 ページのセクション 21.4 「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」を参照してください。
 - 9d バックアップした content-repo ディレクトリを Windows では `ZENworks_installation_directory\work\` ディレクトリ、または Linux では `/var/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにコピーします。
- 10 新しいサーバが正しく稼働していることを確認してください。続いて、古いデバイスから ZENworks Management をアンインストールします。

ZENworks 10 Management をアンインストールする方法については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「ZENworks 10 Asset Management SP2 のアンインストール」を参照してください。

10.3 プライマリサーバでの内部証明書から外部証明書への変更

Windows または Linux のプライマリサーバで、内部証明書を外部証明書に変更するには、次の手順に従います。

- 1 プライマリサーバのホスト名を件名とすることで、CSR (証明書署名要求) を作成します。

CSR を作成する方法については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「外部認証局の作成」を参照してください。
- 2 変更対象の証明書を持つプライマリサーバで、次の手順を実行します。
 - 2a コンソールプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
novell-zenworks-configure -c SSL -Z
```
 - 2b ステップ 1 で作成した外部証明書の情報を提供します。
 - 2c 次のコマンドを実行して、すべての ZENworks サービスを再起動します。

novell-zenworks-configure -c Start

デフォルトで、すべてのサービスが選択されます。[アクション]として、[再起動]を選択する必要があります。

- 2d** Web ブラウザで、次の URL を入力して、新しい証明書が表示されることを確認します。

`https://ZENworks_Server_IP_address`

- 2e** initial-web-service ファイル (Windows では `ZENworks_installation_directory\Novell\ZENworks\conf` ディレクトリにあり、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにある) を編集して、サーバ証明書セクションのコンテンツを `server.cert` ファイルで利用可能な pem フォーマットで置き換えます。 `server.cert` ファイルは、Windows では `ZENworks_installation_directory\novell\zenworks\conf\security` ディレクトリ、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/security/` ディレクトリにあります。

- 2f** 次のコマンドを実行して、エージェントパッケージを再構築します。

`novell-zenworks-configure -c CreateExtractorPacks -Z`

`novell-zenworks-configure -c RebuildCustomPacks -Z`

- 3** 変更された証明書を持つプライマリサーバに登録されている各管理対象デバイスおよびサテライトのコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。

- 3a** 次のコマンドを実行して、ローカルにデバイスの登録を解除します。

`zac unr -f`

`zac` の詳細については、デバイス上で `zac` マニュアルページ (`man zac`) を見るか、または『*ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「`zac(1)`」を参照してください。

- 3b** キャッシュをクリアします。

Windows の場合 : 次のコマンドを実行します。

`delete c:\program files\novell\zenworks\cache\zmd /s`

Linux の場合 : 次のコマンドを実行します。

`rm -rf /var/opt/novell/zenworks/zmd/cache`

- 3c** 次のコマンドを実行して、管理ゾーンにデバイスを登録します。

`zac reg https://ZENworks_Server_DNS_name`

`zac` の詳細については、デバイス上で `zac` マニュアルページ (`man zac`) を見るか、または『*ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス*』の「`zac(1)`」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。

10.4 プライマリサーバの DNS 名変更後に実行するタスク

プライマリサーバの DNS 名のみを変更する場合は、次のタスクを実行する必要があります。

- 1** プライマリサーバの DNS エントリが新しい DNS 名で更新されたことを確認します。

2 プライマリサーバの既存証明書の信頼できるバックアップを作成します。証明書は、Windows の場合は `\novell\zenworks\conf\security` ディレクトリ、Linux の場合は `//etc/opt/novell/zenworks/security` ディレクトリにあります。

3 プライマリサーバで証明書を再作成します。

- ◆ **プライマリサーバで実行するタスク**
- ◆ **管理対象デバイスおよびサテライトで実行するタスク**

3a プライマリサーバで、次の手順を実行します。

3a1 コンソールプロンプトで、次のコマンドを実行します。

```
novell-zenworks-configure -c SSL -Z
```

表示される指示に従います。

3a2 次のコマンドを実行して、すべての ZENworks サービスを再起動します。

```
novell-zenworks-configure -c Start
```

デフォルトで、すべてのサービスが選択されます。[アクション] として、[再起動] を選択する必要があります。

3a3 Web ブラウザで、次の URL を入力して、新しい証明書が表示されることを確認します。

```
https://ZENworks_Server_IP_address
```

3a4 `initial-web-service` ファイル (Windows では `ZENworks_installation_directory\Novell\ZENworks\conf` ディレクトリにあり、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにある) を編集して、サーバ証明書セクションのコンテンツを `server.cert` ファイルで利用可能な pem フォーマットで置き換えます。`server.cert` ファイルは、Windows では `ZENworks_installation_directory\novell\zenworks\conf\security` ディレクトリ、Linux では `/etc/opt/novell/zenworks/security/` ディレクトリにあります。

3a5 次のコマンドを実行して、エージェントパッケージを再構築します。

```
novell-zenworks-configure -c CreateExtractorPacks -Z
```

```
novell-zenworks-configure -c RebuildCustomPacks -Z
```

3b 変更された証明書を持つプライマリサーバに登録されている各管理対象デバイスおよびサテライトのコマンドプロンプトで、次の手順を実行します。

3b1 次のコマンドを実行して、ローカルにデバイスの登録を解除します。

```
zac unr -f
```

zac の詳細については、デバイス上で `zac` マニュアルページ (`man zac`) を見るか、または『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「`zac(1)`」を参照してください。

3b2 キャッシュをクリアします。

Windows の場合 : 次のコマンドを実行します。

```
delete c:\program files\novell\zenworks\cache\zmd /s
```

Linux の場合 : 次のコマンドを実行します。

```
rm -rf /var/opt/novell/zenworks/zmd/cache
```

3b3 次のコマンドを実行して、管理ゾーンにデバイスを登録します。

```
zac reg https://ZENworks_Server_DNS_name
```

zac の詳細については、デバイス上で zac マニュアルページ (man zac) を見るか、または『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zac(1)」を参照してください。

これで、ローカルキャッシュ内のサーバ証明書が置換されます。

ZENworks のシステム更新



このシステム更新機能を使用すると、適切なタイミングで Novell® ZENworks® 10 Management ソフトウェアの更新を取得したり、更新の自動ダウンロードをスケジュールしたりできます。

- ◆ 107 ページの第 11 章「ZENworks システム更新の概要」
- ◆ 109 ページの第 12 章「更新の設定」
- ◆ 127 ページの第 13 章「更新のダウンロードの管理」
- ◆ 133 ページの第 14 章「更新の展開」
- ◆ 149 ページの第 15 章「更新の削除」
- ◆ 151 ページの第 16 章「更新のコンテンツの確認」
- ◆ 155 ページの第 17 章「ステータスの更新」

ZENworks システム更新の概要

11

このシステム更新機能を使用すると、適切なタイミングで Novell® ZENworks® 10 Management ソフトウェアの更新を取得したり、更新の自動ダウンロードをスケジュールしたりできます。

ソフトウェアは定期的に更新されます。また、更新のコンテンツを表示した後に、各更新を展開するかどうかを選択できます。

また、ユーザのナレッジベースを更新して、インベントリがより新しいソフトウェアを認識できるようにするために、最新の製品認識の更新 (PRU) をダウンロードすることもできます。

ZENworks ソフトウェアの更新を選択した場合、1 ステップまたはステージでグローバルに更新できます。また、ZENworks ソフトウェアがインストールされている管理ゾーンにある、特定のデバイス、デバイスのグループ、またはすべてのデバイスを更新することもできます。ZENworks コントロールセンターを使用して、各ソフトウェア更新でのデバイスごとの成功と失敗を追跡できます。

次の図は、[システム更新] ページを示しています。

ZENworks ソフトウェアの更新の設定および管理については、次のセクションを参照してください。

- ◆ 109 ページの第 12 章「更新の設定」
- ◆ 127 ページの第 13 章「更新のダウンロードの管理」
- ◆ 133 ページの第 14 章「更新の展開」
- ◆ 149 ページの第 15 章「更新の削除」
- ◆ 151 ページの第 16 章「更新のコンテンツの確認」
- ◆ 155 ページの第 17 章「ステータスの更新」

更新の設定

更新プロセスを設定するには、次のタスクを実行します。

- ◆ 109 ページのセクション 12.1 「システム更新の設定」
- ◆ 118 ページのセクション 12.2 「展開ステージの作成」

12.1 システム更新の設定

使用する前に、システム更新を設定する必要があります。システムに必要な数だけ次の設定を行います。

- ◆ 109 ページのセクション 12.1.1 「更新スケジュールのチェック」
- ◆ 111 ページのセクション 12.1.2 「ダウンロードスケジュール」
- ◆ 113 ページのセクション 12.1.3 「電子メール通知」
- ◆ 115 ページのセクション 12.1.4 「プロキシサーバの設定」
- ◆ 115 ページのセクション 12.1.5 「専用サーバの設定」
- ◆ 117 ページのセクション 12.1.6 「ステージタイムアウトの設定」
- ◆ 117 ページのセクション 12.1.7 「再起動の動作」

12.1.1 更新スケジュールのチェック

デフォルトは、更新チェックをスケジュールしない（[スケジュールタイプ] フィールドに [スケジュールなし] が表示されます）になります。このスケジュールオプションを選択すると、ソフトウェア更新をチェックできる唯一の方法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルで手動でチェックする方法です。

更新を確認する頻度を指定できます。これを行うと、スケジュールが実行されるときに、Novell から [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに、入手可能な更新の情報が自動的にダウンロードされます。これによって、更新のコンテンツ自体が自動的にダウンロードされるわけではありません。[ダウンロードスケジュール] パネルで、ダウンロードをスケジュールできます（111 ページの「ダウンロードスケジュール」を参照）。

ZENworks ソフトウェア更新の確認をスケジュールするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] をクリックしてオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックしてオプションを展開し、次に、[システム更新の設定] を選択します。

[更新のチェック] パネルには、更新のための2つのスケジューリングオプションがあります。

- **スケジュールなし**: 更新の確認をスケジュールしないのがデフォルトです。このスケジュールオプションを選択すると、ソフトウェア更新をチェックできる唯一の方法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルで手動でチェックする方法です。[スケジュールなし] オプションを指定するには、**ステップ3**に進みます。
 - **繰り返し**: 更新を確認する頻度を指定できます。このオプションを設定すると、スケジュールが実行されるたびに、Novell から [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに、入手可能な更新の情報が自動的にダウンロードされます。これによって、更新のコンテンツ自体が自動的にダウンロードされるわけではありません。反復スケジュールを設定するには、**ステップ4**に進んでください。
- 3** (条件付き) ソフトウェア更新 (デフォルト) のスケジュールされた確認を除外するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[スケジュールなし] を選択します。次に、[適用] をクリックしてスケジュールの変更を保存し、**ステップ6**に進んでください。
- このオプションを選択した場合、更新を手動で確認する必要があります。詳細については、**129 ページ**の「**手動による更新のダウンロード**」を参照してください。
- 4** (条件付き) ZENworks ソフトウェアに対する更新の確認の反復スケジュールを設定するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[繰り返し] を選択します。

環境設定 > システム更新の設定

システム更新の設定

システム更新のダウンロード、プロキシサーバの設定、および更新のスケジュール設定のためにサーバを設定します

更新のチェックのスケジュール

この設定では、管理者は Novell から入手可能な更新の有無をチェックするスケジュールを設定できます。

スケジュールタイプ:
繰り返し

曜日

日 月 火 水 木 金 土

開始時刻: 1 : 00

オプションを非表示

デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する

協定世界時 (UTC) を使用 (現在の UTC 12:33)

開始時刻および終了時刻の間のランダムな時間に開始される

終了時刻: 1 : 00

スケジュール実行を以下の日付範囲に限定:
開始日: 08/08/20
終了日: 08/08/20

- 5** 次のフィールドに入力します:
- 5a** 1つ以上の曜日のチェックボックスをオンにします。
 - 5b** 確認を開始する時間を設定するには、[開始時刻] ボックスを使用して時間を指定します。

5c (オプション) 追加のスケジューリングオプションについては、[[詳細オプション](#)] をクリックし、必要に応じて次のオプションを選択します。

- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する** : スケジュールに従って確認が行われない場合、ただちにシステム更新の内容が確認されます。たとえば、スケジュールされた時間にサーバが停止している場合、サーバがオンラインに戻った直後に更新の確認が発生します。
- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 指定するスケジュール時刻がローカルタイムの代わりに UTC で解釈されます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : ここで指定した時間と **ステップ 5b** で指定した時間との間で、ランダムに更新が確認されます。[[終了時刻](#)] フィールドに入力します。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定** : 他のオプションに加え、チェックが行われる日付範囲を指定できます。

5d 繰り返しスケジュールの設定を終えたら、[[適用](#)] をクリックして、スケジュールの変更を保存します。

6 このページを終了するには、スケジュールの設定を終了したら、[[OK](#)] をクリックします。

まだ [[適用](#)] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[[OK](#)] をクリックすると変更が有効になります。[[キャンセル](#)] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

12.1.2 ダウンロードスケジュール

デフォルトでは、更新のダウンロードをスケジュールしません ([スケジュールタイプ](#) フィールドに [スケジュールなし](#)) が表示されます)。このスケジュールオプションを選択すると、更新をダウンロードできる唯一の方法は、[[システム更新](#)] タブの [[使用可能なシステム更新](#)] パネルで手動で行う方法のみとなります。

更新版をダウンロードする頻度を指定する場合、更新を確認するスケジュールとともに、このスケジュールを設定する必要があります ([109 ページ](#)の「[更新スケジュールのチェック](#)」を参照)。

更新がチェックされ、その情報が [[システム更新](#)] タブの [[使用可能なシステム更新](#) パネル] に表示されると、スケジュールが実行された際に Novell から自動的にダウンロードされるようにスケジュールできます。

ZENworks ソフトウェア更新をスケジュールするには、次の手順に従います。

- 1** ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [[環境設定](#)] をクリックし、[[環境設定](#)] タブをクリックします。
- 2** [[管理ゾーンの設定](#)] をクリックしてオプションを展開し、[[インフラ管理](#)] をクリックしてオプションを展開し、次に、[[システム更新の設定](#)] を選択します。

[[ダウンロードスケジュール](#)] パネルには、更新をダウンロードするための2つのスケジューリングオプションがあります。

- ◆ **スケジュールなし** : デフォルトでは、更新のダウンロードをスケジュールしません ([スケジュールタイプ](#) フィールドに [スケジュールなし](#)) が表示されます)。このスケジュールオプションを選択すると、更新をダウンロードできる唯一の方

法は、[システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルで手動で行う方法のみとなります。[スケジュールなし] オプションを指定するには、**ステップ 3**に進みます。

- **繰り返し**: 更新をダウンロードする頻度を指定できます。更新がチェックされ、その情報が [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに表示されると、スケジュールが実行された際に Novell から自動的にダウンロードされるようにスケジュールできます。反復スケジュールを設定するには、**ステップ 4**に進んでください。

- 3 (条件付き) ソフトウェア更新 (デフォルト) のスケジュールされたダウンロードを除外するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、[スケジュールなし] を選択します。次に、[適用] をクリックしてスケジュールの変更を保存し、**ステップ 6**に進んでください。

このオプションを選択した場合、更新を手動でダウンロードする必要があります。詳細については、**128 ページのセクション 13.2 「割り当てられた権限」**を参照してください。

- 4 (条件付き) ZENworks ソフトウェアに更新をダウンロードするための反復スケジュールを設定するには、[スケジュールタイプ] フィールドの下矢印をクリックし、次に、[繰り返し] を選択します。

[環境設定](#) > システム更新の設定

システム更新の設定

システム更新のダウンロード、プロキシサーバの設定、および更新のスケジュール設定のためにサーバを設定します

更新のチェックのスケジュール

この設定では、管理者はNovellから入手可能な更新の有無をチェックするスケジュールを設定できます。

スケジュールタイプ:
繰り返し

曜日

日	月	火	水	木	金	土
<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>					

開始時刻: 1 : 00

[オプションを非表示](#)

- デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する
- 協定世界時 (UTC) を使用 (現在の UTC 14:32)
- 開始時刻および終了時刻の間のランダムな時間に開始される

終了時刻: 1 : 00

- スケジュール実行を以下の日付範囲に限定:
開始日: 08/08/20
終了日: 08/08/20

- 5 次のフィールドに入力します:

5a 1つ以上の曜日のチェックボックスをオンにします。

5b ダウンロードを開始する時間を設定するには、[開始時刻] フィールドを使用して時間を指定します。

5c (オプション) 追加のスケジュールリングオプションについては、[詳細オプション] をクリックし、必要に応じて次のオプションを選択します。

- **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する**: スケジュールに従って確認が行われない場合、ただちにシステム更新の内容が確認されます。たとえば、スケジュールされた時間にサーバが停止している場合、サーバがオンラインに戻った直後に更新の確認が発生します。

- ◆ **協定世界時 (UTC) の使用** : 指定するスケジュール時刻がローカルタイムの代わりに UTC で解釈されます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始** : ここで指定した時間と **ステップ 5b** で指定した時間との間で、更新のダウンロードがランダムに発生します。
[終了時刻] フィールドに入力します。
- ◆ **スケジュール実行を次の日付範囲に限定** : 他のオプションに加え、ダウンロードできる日を指定できます。

5d 繰り返しスケジュールの設定を終えたら、[適用] をクリックして、スケジュールの変更を保存します。

6 このページを終了するには、スケジュールの設定を終了したら、[OK] をクリックします。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

12.1.3 電子メール通知

ステージの使用と同時に、各ステージが完了したことを示すよう、電子メール通知を設定できます。更新を展開するとき、電子メール通知を使用するよう指定できます。

- 1** ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[環境設定] タブをクリックします。
- 2** [管理ゾーンの設定] をクリックしてオプションを展開し、[イベントとメッセージング] をクリックします。次に、[SMTP 設定] を選択し、[電子メール通知] パネルを表示します。

環境設定 > SMTP設定

通知を受け取るにはステージングを使用し、ステージの動作を次のいずれか1つに設定する必要があります。

- ◆ 通知とともに自動的にステージを進める
- ◆ 次のステージに進み、完了時に通知する

ステージングの電子メール設定が機能するように SMTP を設定する必要があります。

3 (条件付き) SMTP を設定してない場合:

3a [SMTP 設定] ページにアクセスするには、左側のペインで [環境設定] をクリックし、[管理ゾーンの設定] ヘッダの矢印をクリックしてそのオプションを展開します。次に、[イベントとメッセージング] をクリックし、[SMTP 設定] を選択します。

3b [電子メール通知] セクションで、次のフィールドに入力します。

SMTP サーバアドレス: SMTP サーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

SMTP ポート: SMTP サーバの通信ポートを指定します。

SSL の使用: 暗号化された SSL チャネルを使用して電子メールを送信します。デフォルトでは、このオプションは無効になっています。

SMTP サーバには認証が必要: 認証が必要な場合、このチェックボックスをオンにし、[ユーザ] および [パスワード] の情報を指定します。

3c [OK] をクリックし、変更を保存します。

3d [管理ゾーンの設定] をクリックしてそのオプションを展開し、[インフラ管理] をクリックし、次に [システム更新の設定] を選択して、[電子メール通知] パネルを表示します。

[環境設定](#) > [システム更新の設定](#)

4 次のフィールドに入力します:

送信者: 管理者の電子メールアドレスを指定するか、説明的なテキスト (たとえば、System-Update-Stage-Notice など) 入力します。単語と単語の間にはスペース文字を使用しないでください。

宛先: 管理者の電子メールアドレスを指定します。

これは、ステージが完了した際に通知を受け取る人物です。

5 [適用] をクリックして、変更を有効にします。

6 [OK] をクリックしてページを閉じるか、別の設定タスクに進みます。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

12.1.4 プロキシサーバの設定

このオプションは、すべての運用サーバにインターネットへのアクセスを付与しないような、制限された環境において役立ちます。これは、**[専用サーバの設定]** パネルとともに使用されます。

プロキシサーバを指定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの **[環境設定]** をクリックします。
- 2 **[環境設定]** タブで、(必要に応じて) **[管理ゾーンの設定]** セクションを展開し、**[インフラ管理]** をクリックします。次に、**[システム更新の設定]** をクリックし、**[プロキシサーバの設定]** パネルを表示します。

- 3 次のフィールドに入力します：

Proxy Server Address: プロキシサーバの DNS 名または IP アドレスを指定します。

プロキシサーバのポート: プロキシサーバの通信ポートを指定します。

プロキシサーバには認証が必要: このチェックボックスをオンにすると、**[ユーザ]** および **[パスワード]** フィールドが編集可能になります。認証が必要な場合、このチェックボックスをオンにし、プロキシサーバにアクセスするためのユーザ名およびパスワードを指定します。

- 4 **[適用]** をクリックして、変更を有効にします。
- 5 **[OK]** をクリックしてページを閉じるか、**別の設定タスク**に進みます。

まだ **[適用]** をクリックして変更を有効にしていない場合は、**[OK]** をクリックすると変更が有効になります。**[キャンセル]** をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

12.1.5 専用サーバの設定

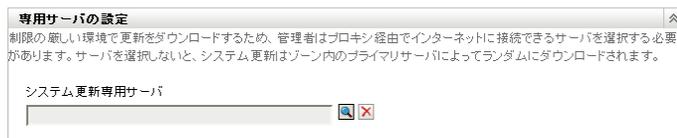
デフォルトでは、管理ゾーン内の使用可能なすべてのプライマリサーバは、ランダムに更新をダウンロードするために使用できます。ただし、更新のダウンロードを専用で処理するために、1つの ZENworks サーバを指定できます。選択したサーバは、直接または**プロキシサーバ**を経由して、インターネットにアクセスする必要があります。

詳細情報については、次を参照してください。

- **116 ページの「更新専用サーバの指定」**
- **116 ページの「更新専用サーバのクリア」**

更新専用サーバの指定

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] セクションを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[システム更新の設定] をクリックし、[専用サーバの設定] パネルを表示します。

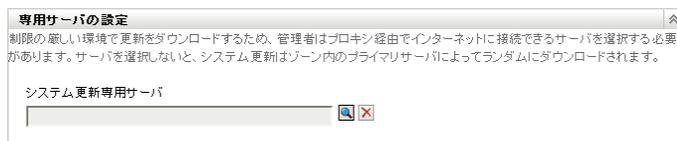


- 3 ZENworks プライマリサーバを参照して選択します。
サーバの ID は、[システム更新専用サーバ] フィールドに表示されます。
この ZENworks サーバは、管理ゾーンのメンバーである必要があります。
- 4 [適用] をクリックして、変更を有効にします。
- 5 [OK] をクリックしてページを閉じるか、別の設定タスクに進みます。
まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

更新専用サーバのクリア

更新専用サーバをクリアすると、更新は管理ゾーンのプライマリサーバからランダムに再試行されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックします。
- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] セクションを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[システム更新の設定] をクリックし、[専用サーバの設定] パネルを表示します。



- 3 [クリア] をクリックして、[システム更新専用サーバ] フィールドから専用サーバを削除します。
- 4 (条件付き) 最後に保存した専用サーバの設定に戻す必要がある場合は、[リセット] をクリックします。
これにより、たとえば最後に [適用] または [OK] をクリックした場合などの最終的な保存設定に専用サーバがリセットされます。
- 5 [適用] をクリックして、変更を有効にします。

重要: [適用] をクリックすると、以前の設定を復元できなくなります。

12.1.6 ステージタイムアウトの設定

展開ステージはオプションですが、ステージを使用すると、最初にテストグループ、次に管理対象デバイスなどのように、1度に1ステップずつ更新を展開することができます。更新プロセス中に失敗が発生した場合、プロセスは中断されます。**電子メール通知**を使用すると、各ステージの完了が通知されます。

グローバルなデフォルトのタイムアウト設定は3日です。これは、ステージごとに同じタイムアウトの長さを与えます。個々のステージのタイムアウトの設定の詳細については、**122 ページの「ステージのタイムアウトの変更」**を参照してください。

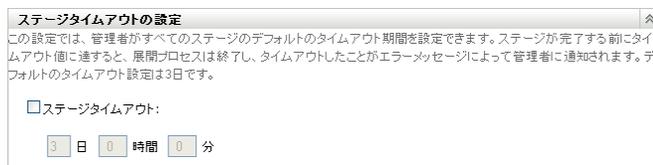
更新しようとしているすべてのデバイスを更新するために十分な長さを持つ値を設定します。これが短すぎる場合、いくつかのデバイスは更新されない可能性があります。

ステージが完了する前にタイムアウト値に達した場合、展開プロセスが一時停止され、管理者にエラーメッセージが送信されます。エラーを解決し、管理者が**[エラーをクリアして再試行]**をクリックしてプロセスを再起動するまで、展開プロセスを一時停止します。

ステージがいつ完了したのかを知るために、**電子メール通知**を使用できます。

グローバルなステージのタイムアウト設定を設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの**[環境設定]**をクリックします。
- 2 **[環境設定]** タブで、(必要に応じて)**[管理ゾーンの設定]** パネルを展開し、**[インフラ管理]** をクリックします。次に、**[システム更新の設定]** をクリックし、**[ステージタイムアウトの設定]** パネルを表示します。



- 3 **[ステージのタイムアウト]** チェックボックスをオンにし、目的の日数、時間数、および分を指定します。
- 4 **[適用]** をクリックして、変更を有効にします。
- 5 **[OK]** をクリックしてページを閉じるか、**別の設定タスク**に進みます。

まだ**[適用]** をクリックして変更を有効にしていない場合は、**[OK]** をクリックすると変更が有効になります。**[キャンセル]** をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

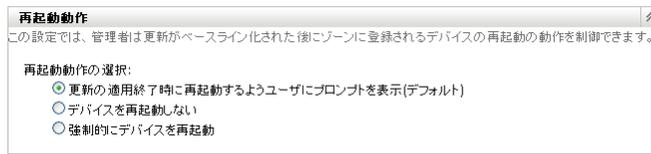
12.1.7 再起動の動作

更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。

再起動の動作を設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの**[環境設定]** をクリックします。

- 2 [環境設定] タブで、(必要に応じて) [管理ゾーンの設定] パネルを展開し、[インフラ管理] をクリックします。次に、[システム更新の設定] をクリックし、[再起動の動作] パネルを表示します。



- 3 次のいずれかを行います：

- ◆ **更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザーに要求 (デフォルト):** 更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザーが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するよう定期的に要求されます。
- ◆ **デバイスを再起動しない:** デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザーに要求します。
- ◆ **デバイスを強制的に再起動:** 更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザーの介入なしに、デバイスが自動的に再起動されます。

- 4 [適用] をクリックして、変更を有効にします。

- 5 [OK] をクリックしてページを閉じるか、別の設定タスクに進みます。

まだ [適用] をクリックして変更を有効にしていない場合は、[OK] をクリックすると変更が有効になります。[キャンセル] をクリックするとページが閉じますが、まだ適用されていない変更が失われます。

12.2 展開ステージの作成

展開ステージはオプションですが、ステージを使用すると、最初にテストグループ、次に管理対象デバイスなどのように、一度に1ステップずつ更新を展開することができます。更新プロセス中に失敗が発生した場合、プロセスは中断されます。電子メール通知を使用すると、各ステージの完了が通知されます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 119 ページのセクション 12.2.1 「ステージについて」
- ◆ 121 ページのセクション 12.2.2 「展開ステージの作成」
- ◆ 122 ページのセクション 12.2.3 「ステージのタイムアウトの変更」
- ◆ 123 ページのセクション 12.2.4 「ステージング動作の変更」
- ◆ 124 ページのセクション 12.2.5 「再起動の動作の変更」
- ◆ 124 ページのセクション 12.2.6 「展開ステージのメンバーシップの変更」
- ◆ 125 ページのセクション 12.2.7 「展開ステージの名前変更」
- ◆ 125 ページのセクション 12.2.8 「展開ステージの削除」
- ◆ 126 ページのセクション 12.2.9 「ステージが開始する順序の変更」

12.2.1 ステージについて

ステージを使用すると次のことが実行できます。

- ◆ テストグループ、特定のデバイスまたはデバイスグループ、またはゾーン内のすべての管理対象デバイスなどの、異なるデバイスまたはグループに対して設定します。
- ◆ 既存のステージのメンバーシップを変更します。
- ◆ ステージの実行順序を変更します。
- ◆ ステージの名前変更および削除を行います。
- ◆ ステージのデフォルトタイムアウトを指定します。その時間に達したら、エラーが解決され、管理者がプロセスを再起動するまで更新プロセスが一時停止されます。
- ◆ 再起動を要求する、再起動を強制する、再起動を抑制する、の中から、デバイスが更新を完了した際の再起動の動作を指定します。
- ◆ ステージを通じて更新プロセスがどのように進行するかを指定します。
 - ◆ 通知の有無にかかわらず自動
 - ◆ 1度に1ステージずつ、各ステージが完了するごとに通知を送信
 - ◆ 設定されたステージをバイパスし、すべてのデバイスに更新を即時適用

展開ステージの作成には、多くの理由があります。

- ◆ 運用環境に展開する前に、特定のデバイスで更新をテストする。
- ◆ 1つのステージにすべてのプライマリサーバを含めることにより、これらを同時に更新できる。
- ◆ いくつかのステージでサーバをグループ化すると、更新を実行するために使用されるプライマリサーバで、更新プロセスが集中しないようにできる。
- ◆ いくつかのステージでワークステーションをグループ化すると、更新を実行するために使用されるプライマリサーバで、更新プロセスが集中しないようにできる。

ステージの一部ではないすべての管理対象デバイスは、最後の展開ステージが処理された後に、自動的に更新されます。

更新の進行中はステージを設定できません。

次の図は、[システム更新] ページ上の [展開ステージ] パネルを示しています。

図 12-1 [展開ステージ] パネル

順序	ステージ名	ステージメンバー	ステージ動作	再起動動作	ステージタイムアウト
1	Test	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
2	Production	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分

次の表はカラム情報について説明しています。カラムの中には、ヘッダをクリックして一覧表示されている情報をソートできるものもあります。ソート順序を逆にするには、ヘッダを再度クリックします。

表 12-1 展開ステージカラムの説明

カラム見出し	説明
順序	<p>ステージが実行される順序が表示されます。[上へ移動] および [下へ移動] オプションを使用してステージングの順序を変更できます。詳細については、126 ページの「ステージが開始する順序の変更」を参照してください。</p> <p>最初にリストされたステージは順序 1、2 番目のステージは順序 2 などのように表示されます。このため、ステージ名にシーケンス番号を含める必要はありません。</p>
ステージ名	<p>ステージを作成する際、[アクション] > [ステージの追加] オプションを使用して指定するステージの名前です。</p> <p>この名前は、その目的を示すように十分に内容のわかるものにしてください。</p>
ステージメンバー	<p>このカラムには、[メンバーの表示/変更] オプションが含まれています。このオプションは、ステージのメンバーすべてを一覧表示する [ステージメンバーの変更] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスを使用して、ステージにメンバーを追加したり、ステージからメンバーを削除できます。</p> <p>ステージメンバーシップには、個別のデバイスと、デバイスを含むグループを含めることができます。</p> <p>詳細については、124 ページの「展開ステージのメンバーシップの変更」を参照してください。</p>
ステージング動作	<p>各ステージの現在の動作を表示します。この動作は、[アクション] > [ステージング動作の変更] オプションを使用して変更できます。詳細については、123 ページの「ステージング動作の変更」を参照してください。</p>
再起動の動作	<p>更新が展開された後のデバイスの再起動の動作を表示します。</p> <p>更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。</p> <p>再起動オプションは次のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求 (デフォルト): 更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するよう定期的に要求されます。 ◆ デバイスを再起動しない: デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザに要求します。 ◆ デバイスを強制的に再起動: 更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。 <p>詳細については、124 ページの「再起動の動作の変更」を参照してください。</p>

カラム見出し	説明
ステージタイムアウト	<p>分で一覧表示されている、ステージのタイムアウトが表示されます。これは、[アクション] > [ステージタイムアウトの変更] オプションを使用して変更できます。デフォルトは0日と0時間3分で、117 ページの「ステージタイムアウトの設定」で変更が可能なグローバルタイムアウト時間です。ここで値を変更すると、選択した展開ステージに対する値のみが変更されます。</p> <p>この時間の値に到達すると、そのステージの展開が終了し、次のステージが開始されます。時間の長さが十分でないと、ステージのメンバーであるデバイスすべてに対して展開が完了しない可能性があります。</p> <p>詳細については、122 ページの「ステージのタイムアウトの変更」を参照してください。</p>

12.2.2 展開ステージの作成

- ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。

階数	ステージ名	ステージメンバー	ステージ操作	再試行操作	ステージタイムアウト
1	Test	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	3日0時0分
2	Production	メンバーの表示/変更	ステージを自動的に進める	ユーザにプロンプトを表示	2日0時0分

- [展開ステージ] パネルで、[アクション] をクリックし、[ステージの追加] を選択します。

展開の処理中にステージを追加することはできません。

- 展開ステージ名を指定し、[OK] をクリックします。

[デバイス] タブに、展開ステージがデバイスフォルダとして表示されます。したがって、フォルダの目的がわかるような名前を指定する必要があります。

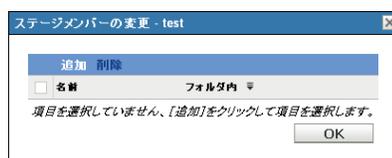
ZENworks コントロールセンターのデバイスのリストでグループをソートするために、名前の先頭に「展開ステージ」のようなものを含めることができます。

ZENworks コントロールセンターでの名前付けの詳細については、[241 ページの付録 A「ZENworks コントロールセンターの命名規則」](#)を参照してください。

新しく作成されたステージには、メンバーが含まれていません。メンバーを追加するには、ステージのメンバーシップを変更する必要があります。

- 展開ステージにデバイスを追加します。

- [ステージメンバー] カラムで、メンバーを追加するステージの [メンバーの表示/変更] をクリックします。



- [追加] をクリックし、デバイスを参照して選択し、[OK] をクリックします。

個別のデバイス、デバイスグループ、またはそれらを組み合わせたものを追加できます。

同じ展開ステージまたは異なるステージで、管理対象サーバとワークステーションの両方を持つことができます。または、サーバとワークステーションを別の展開ステージに分割できます。

重要: いくつかのネットワークサーバは、ZENworks 管理で使用するプライマリサーバになります。また、ネットワーク上のその他のサーバは、ZENworks Adaptive Agent がインストールされた管理対象デバイスのみになります。

他の管理対象サーバを更新する前や、特に管理対象ワークステーションを更新する前に、プライマリサーバを更新する必要があります。

- 4c ステージへのメンバーの追加が終了するまで、**ステップ 4b** を繰り返します。
- 4d 別のステージにメンバーを追加するには、**ステップ 4a** から**ステップ 4c** を繰り返します。
- 5 すべての展開ステージを作成するまで、**ステップ 2** から**ステップ 4** を繰り返します。
- 6 展開ステージのシーケンスを並べ替える必要がある場合、ステージを選択し、[上へ移動] または [下へ移動] をクリックします。
テスト目的でステージの1つを使用している場合、リスト内の最初のものを使用してください。

12.2.3 ステージのタイムアウトの変更

ステージのタイムアウトにより、ステージが終了するまでの時間の長さが設定されます。デフォルトのタイムアウトは3日です。このセクションの手順を使用して、個々のステージのタイムアウト用に値を設定します。グローバルなステージタイムアウト値は、**117 ページの「ステージタイムアウトの設定」**の次のステップによって確立されます。

更新の進行中はステージを変更できません。

選択したステージのタイムアウト値を設定するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、ステージのチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックします。次に、[ステージタイムアウトの変更] を選択すると、次のダイアログボックスが表示されます。

ステージタイムアウトの変更 - test

ステージタイムアウト: 0 日 0 時間 0 分

すべてのステージにグローバルなステージタイムアウト設定を使用: 3 日 0 時 0 分

OK キャンセル

- 3 タイムアウト値を指定します。
このタイムアウト値の変更は、選択したステージにのみ適用されます。このステージにタイムアウト値を指定する場合は、ステージ内のすべてのデバイスを更新するのに十分な長さの値を設定します。十分な時間を設定しないと、更新されないデバイスが発生する可能性があります。
ステージが完了する前にタイムアウト値に到達すると、展開プロセスが終了し、管理者にエラーメッセージが送信されます。

- 4 (オプション) [すべてのステージにグローバルなステージタイムアウト設定を使用] チェックボックスをオンにして、グローバルなタイムアウト値を使用して指定します (デフォルトは3日、0時間、および0分)。

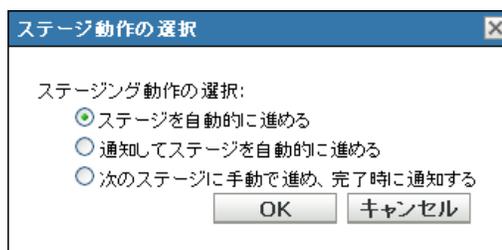
詳細については、117 ページの「[ステージタイムアウトの設定](#)」を参照してください。

- 5 [OK] をクリックします。

12.2.4 ステージング動作の変更

デフォルトのステージの動作では、設定されたステージを自動的に進めます。デフォルト動作は変更できます。1つのステージのステージング動作を変更すると、その変更はすべてのステージに対して有効になります。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、ステージの隣にあるチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックします。次に、[ステージ動作の変更] を選択すると、次のダイアログボックスが表示されます。



- 3 次のステージ動作の1つを選択します。

自動的にステージを進める : 1つのステージで更新が完了すると、次のステージが開始されます。これはデフォルトの動作です (チェックボックスがオンになっています)。

最後のステージが完了すると、該当するデバイスでステージのメンバーでないものが処理されます。

通知とともに自動的にステージを進める : 最初のステージを開始し、完了時に電子メール通知を送信します。次に、次のステージを自動的に開始します。

このオプションを使用するには、[電子メール通知] セクションの [\[システム更新のダウンロード\]](#) の設定ページで、通知方法を設定する必要があります。

次のステージに手動で進み、完了時に通知する : テストグループへの更新の結果の確認など、ステージ間でのユーザアクションのために、この方法を使用します。

このオプションは、最初のステージを自動的に開始します。ステージが完了したら、電子メール通知が送信され、次のステージを手動で開始するまでシステムが待機します。

このオプションを使用するには、[電子メール通知] セクションの [\[システム更新のダウンロード\]](#) の設定ページで、通知方法を設定する必要があります。

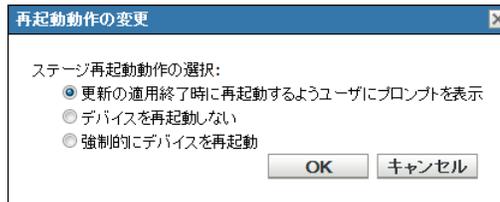
- 4 [OK] をクリックします。

12.2.5 再起動の動作の変更

更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。

再起動の動作を変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、1 つ以上の展開ステージのチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックします。次に、[再起動動作の変更] をクリックします。



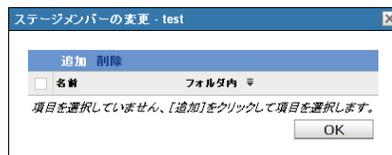
- 3 次のいずれかを行います:

- **更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求 (デフォルト):** 更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するように定期的に要求されます。
- **デバイスを再起動しない:** デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザに要求します。
- **デバイスを強制的に再起動:** 更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。

- 4 [OK] をクリックします。

12.2.6 展開ステージのメンバーシップの変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 (オプション) 展開ステージにデバイスを追加します。
 - 2a [ステージメンバー] カラムで、メンバーを追加するステージの [メンバーの表示/変更] をクリックします。



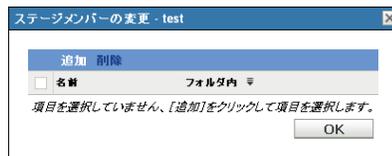
- 2b [追加] をクリックし、デバイスを参照して選択し、[OK] をクリックします。個別のデバイス、デバイスグループ、またはそれらを組み合わせたものを追加できます。

同じ展開ステージまたは異なるステージで、管理対象サーバとワークステーションの両方を持つことができます。または、サーバとワークステーションを別の展開ステージに分割できます。

重要: いくつかのネットワークサーバは、ZENworks 管理で使用するプライマリサーバになります。また、ネットワーク上のその他のサーバは、ZENworks Adaptive Agent がインストールされた管理対象デバイスのみになります。

他の管理対象サーバを更新する前や、特に管理対象ワークステーションを更新する前に、プライマリサーバを更新する必要があります。

- 2c ステージへのメンバーの追加が終了するまで、**ステップ 2b** を繰り返します。
- 2d 別のステージにメンバーを追加するには、**ステップ 2a** から **ステップ 2c** を繰り返します。
- 3 (オプション) 展開ステージからデバイスを削除します。
 - 3a [ステージメンバー] カラムで、メンバーを削除するステージの [メンバーの表示/変更] をクリックします。



- 3b 削除するデバイスの隣にあるチェックボックスを1つ以上オンにし、[削除] をクリックします。
- 4 ステージのメンバーシップの設定が完了したら、[OK] をクリックします。

12.2.7 展開ステージの名前変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、名前変更される展開ステージのチェックボックスをオンにします。
- 3 [名前変更] をクリックします。
- 4 [名前変更] ダイアログボックスで、新しい名前を指定して、[OK] をクリックします。

ZENworks コントロールセンターでの名前付けの詳細については、[241 ページの付録 A「ZENworks コントロールセンターの命名規則」](#)を参照してください。

12.2.8 展開ステージの削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、削除される展開ステージの1つ以上のチェックボックスをオンにします。
- 3 [削除] をクリックします。

削除したステージは復元できません。

12.2.9 ステージが開始する順序の変更

ステージを使用するすべての更新は、現在一覧表示されているステージングの順序に従って、ステージのメンバーであるデバイスに展開されます。

ステージングの順序を変更するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [展開ステージ] パネルで、移動される展開ステージのチェックボックスをオンにします。
- 3 [上へ移動] または [下へ移動] を必要に応じてクリックし、ステージングの順序を変更します。
- 4 各ステージで必要に応じて **ステップ 2** および **ステップ 3** を繰り返します。

更新のダウンロードの管理

[システム更新] ページの [使用可能なシステム更新] パネルには、更新を確認した後に使用可能な更新が表示されます。このパネルには、Novell® の PRU (製品認識の更新) も組み込まれています。PRU は、ナレッジベースを更新して、ZENworks インベントリによる新しいソフトウェアの認識を可能にします。109 ページの「更新スケジュールのチェック」で設定したスケジュールに従って、表示が更新されます。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 127 ページのセクション 13.1 「入手可能な更新について」
- ◆ 128 ページのセクション 13.2 「割り当てられた権限」
- ◆ 130 ページのセクション 13.3 「PRU のダウンロードとインストール」

13.1 入手可能な更新について

次の図は、[使用可能なシステム更新] パネルを示しています。

図 13-1 [使用可能なシステム更新] パネル

使用可能なシステム更新						
更新名	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/> Support Pack 2 for ZCM (10.2)	2009/05/27	2009/05/31		ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> May 2009 PRU	2009/05/05	2009/05/31		ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.3)	2009/02/18	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/> Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

カラムの情報および [自動リフレッシュ] ドロップダウンリスト (パネルの右側の [ターゲットタイプ] の上) の説明を、次の表に示します。カラムの中には、ヘッダをクリックして一覧表示されている情報をソートできるものもあります。ソート順序を逆にするには、ヘッダを再度クリックします。

表 13-1 [使用可能なシステム更新] カラムの説明

カラムの見出しまたはリスト	説明
更新名	Novell が作成した更新の名前が表示されます。 [リリース詳細] ページにアクセスするには、名前をクリックします。 詳細については、151 ページの第 16 章「更新のコンテンツの確認」を参照してください。
リリース日付	Novell が更新を作成した日付が表示されます。
ダウンロード日付	更新をダウンロードした日付が表示されます。
適用日	更新を適用した日付が表示されます。

カラムの見出しまたはリスト	説明
ステータス	15 秒ごとに自動更新される、更新の現在のステータスが表示されます。個別のステータスに関する詳細については、 155 ページの第 17 章「ステータスの更新」 を参照してください。
重要	ZENworks のインストールに対する、システム更新の相対的重要度が表示されます。可能なエントリは次のとおりです。 OPTIONAL: ZENworks の通常動作には不要。 MANDATORY: 適用が必要な必須の更新。
ターゲットタイプ	更新のタイプが表示されます。たとえば次のものがあります。 ZENworks サーバ: 更新は ZENworks サーバにのみ適用されます。 すべてのデバイス: ZENworks サーバを含むすべての管理対象デバイスに更新が適用されます。
自動リフレッシュ	[自動リフレッシュ] (パネルの右側のメニュー項目、[ターゲットタイプ] の上) をクリックし、次のいずれかを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 自動リフレッシュなし ◆ 15 秒間隔でリフレッシュ ◆ 30 秒間隔でリフレッシュ ◆ 60 秒間隔でリフレッシュ <p>デフォルトでは、パネルビューは自動的に更新されません。ただし、[システム更新] タブをクリックすると、表示を手動で更新できます。</p>

13.2 割り当てられた権限

ダウンロードをスケジュールしたり、手動でダウンロードできます。

- ◆ [128 ページのセクション 13.2.1「更新のダウンロードのスケジュールリング」](#)
- ◆ [129 ページのセクション 13.2.2「手動による更新の確認」](#)
- ◆ [129 ページのセクション 13.2.3「手動による更新のダウンロード」](#)
- ◆ [130 ページのセクション 13.2.4「インターネット接続を持たないサーバへの手動による更新のインポート」](#)

13.2.1 更新のダウンロードのスケジュールリング

更新の確認と更新のダウンロードの両方をスケジュールできます。

- ◆ [109 ページの「更新スケジュールのチェック」](#)
- ◆ [111 ページの「ダウンロードスケジュール」](#)

13.2.2 手動による更新の確認

[システム更新] ページの [使用可能なシステム更新] パネルに最新の更新が表示されない場合、手動で表示を更新できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。

アクション	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
更新のチェック						
更新のダウンロード	10.2	2009/05/27	2009/05/31	ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
更新のインストール		2009/05/05	2009/05/31	ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
更新のインストール		2009/02/18	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- 2 [使用可能なシステム更新] パネルで、[アクション] > [更新のチェック] の順にクリックします。

使用可能な更新には、[使用可能] のステータスが表示されます。

- 3 一覧表示された更新を再ソートするには、[使用可能なシステム更新] パネルで任意のカラムのヘッダをクリックします。

ソート順を逆にするには、ヘッダを2回クリックします。

13.2.3 手動による更新のダウンロード

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。

アクション	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
更新のチェック						
更新のダウンロード	10.2	2009/05/27	2009/05/31	ダウンロードされました	必須	すべてのデバイス
更新のインストール		2009/05/05	2009/05/31	ダウンロードされました	中程度	すべてのデバイス
更新のインストール		2009/02/18	2009/05/31	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08	2009/05/31		ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- 2 [使用可能なシステム更新] パネルで、1つ以上の更新の隣にあるチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックします。次に、[更新版のダウンロード] をクリックします。

更新がダウンロードされ、そのステータスが [ダウンロードされました] に設定されます。

更新のサイズによっては、ダウンロードプロセスに時間がかかる場合があります。

- 3 ダウンロードの進行状況の表示 ([ステータス] カラム) を更新するには、[システム更新] タブをクリックするか、[自動リフレッシュ] オプションを使用します。
- 4 展開ステージを使用して、選択した更新を適用する場合、133 ページの第 14 章「更新の展開」を参照して、ステージを設定して更新を展開します。

または

ダウンロードされた更新を、管理ゾーンの適用可能なすべてのデバイスにすぐに適用するには、展開するダウンロードされた更新のチェックボックスをオンにし、[アクション] > [更新をデバイスに展開] の順にクリックします。システム更新の展開の作成ウィザードにより、展開プロセスをステップごとに実行できます。詳細については、133 ページの第 14 章「更新の展開」を参照してください。

13.2.4 インターネット接続を持たないサーバへの手動による更新のインポート

環境内にインターネットにアクセスできないサーバがある場合は、更新または PRU (製品認識の更新) ファイルを、Novell ダウンロードページ (<http://download.novell.com>) から取得し、CD などの媒体にコピーします。次に、zman system-update-import コマンドを使用して、その CD から ZENworks プライマリサーバにファイルをインポートします。詳細については、『ZENworks コマンドラインユーティリティ』ガイドの「システムアップデート / 製品認識アップデートコマンド」を参照してください。

ファイルが ZENworks プライマリサーバにあると、更新または PRU が、ZENworks コントロールセンター ([環境設定] > [システム更新]) の [システム更新] タブの [使用可能なシステム更新] パネルに表示されます。管理対象デバイスに対する更新を展開するには、133 ページの第 14 章「更新の展開」の説明を参照してください。

13.3 PRU のダウンロードとインストール

Novell は、ZENworks インベントリがより新しいソフトウェアを認識できるように、ユーザのナレッジベースを更新するための製品認識の更新 (PRU) を提供しています。

このアクションによって、使用中のデータベースに PRU が展開され、管理対象デバイスへの展開のスケジュールが設定されます。その後、デバイス上の ZENworks Adaptive Agent によって展開が行われます。

PRU が最新ではない場合、インベントリから一部のソフトウェアが「未認識」として返されることがあります。ただし、ローカルソフトウェア製品ユーティリティを使用して、未認識のソフトウェアのフィンガープリントを取り、ナレッジベースを更新することができます。

PRU をダウンロードしてインストールするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。



- 2 PRU が [使用可能なシステム更新] パネルに表示されない場合、[アクション] > [更新のチェック] の順にクリックします。
最新の PRU の情報が入手可能な場合、表示されます。
- 3 一覧表示された PRU をダウンロードするには、[使用可能なシステム更新] パネルに移動し、一覧表示された PRU のチェックボックスをオンにします。次に、[アクション] > [更新版のダウンロード] の順にクリックします。
- 4 ダウンロードされた PRU をインストールするには、[使用可能なシステム更新] パネルに移動し、[アクション] > [今すぐ PRU を展開] の順にクリックします。
PRU が [システム更新の展開] パネルに一覧表示され、その進行状況が表示されます。

更新の展開

- ◆ 133 ページのセクション 14.1 「更新の展開について」
- ◆ 136 ページのセクション 14.2 「更新の展開」
- ◆ 142 ページのセクション 14.3 「保留中のステージの開始」
- ◆ 143 ページのセクション 14.4 「展開の再スケジュール」
- ◆ 144 ページのセクション 14.5 「ステージングのバイパス」
- ◆ 144 ページのセクション 14.6 「展開のキャンセル」
- ◆ 144 ページのセクション 14.7 「展開の再試行のエラーのクリア」
- ◆ 144 ページのセクション 14.8 「デバイスごとのステータスの表示」

14.1 更新の展開について

更新の展開オプションは、次のとおりです。

- ◆ 展開ステージを使用せずに、すべてのデバイスに更新を展開します。展開をスケジュールできます。
- ◆ 展開を一時停止し、管理者に電子メール通知を送信するようにステージを設定しない限り、前のステージが完了した後に、1つのステージが自動的に開始する展開ステージを使用して、更新を展開します。展開をスケジュールできます。
- ◆ 次のステージの開始を手動制御できるよう、電子メール通知を使用した展開ステージを使用して、更新を展開します。このオプションは、運用環境内のすべてのデバイスに更新を展開する前に、テスト目的で使用できます。展開をスケジュールできます。
- ◆ 展開ステージを使用せずに、(個々にデバイスグループごとに選択された)特定のデバイスに更新を展開します。このオプションは、運用環境内のすべてのデバイスに更新を展開する前に、テスト目的で使用できます。展開をスケジュールできます。

重要: 展開後の更新を削除するには、[Novell サポート \(http://www.novell.com/support\)](http://www.novell.com/support) からのヘルプが必要です。

管理ゾーンのすべてのデバイスに更新を展開する前に、ZENworks コントロールセンター内の特定の管理対象デバイスをリタイアすることを選択した場合は、まず、そのデバイスがリタイアしたことを確認してから、更新を適用する必要があります。デバイスがリタイアされるのは、デバイスにインストールされている ZENworks Adaptive Agent がリフレッシュされたときのみです。したがって、エージェントのリフレッシュの前に更新を展開した場合、その更新はリタイア対象のデバイスにも適用されます。エージェントは、次のデバイス更新スケジュール(デフォルトのデバイス更新間隔は 12 時間)時に自動的にリフレッシュされます。次のデバイス更新スケジュールの前に更新を展開する場合は、エージェントを手動でリフレッシュする必要があります。

[システム更新の展開] パネルに、更新の展開の進行状況および結果が表示されます。

更新プロセス全体が完了すると、このパネルから更新が削除されます。展開された更新に関する情報については、[リリース詳細] ページの [展開履歴] パネルに表示できます。

次の図は、[システム更新の展開] パネルを示しています。

図 14-1 [システム更新の展開] パネル

システム更新の展開							
アクション							
<input type="checkbox"/> 名前の変更	スケジュールの開始	動作の起動	ステージ	ステータス	保留中	成功	失敗
<input type="checkbox"/> ZCM Update 10.0.2	今すぐ	ユーザにプロンプトを表示	すべてのデバイスステージ	処理中	1	0	0

次の表はカラム情報について説明しています。カラムの中には、ヘッダをクリックして一覧表示されている情報をソートできるものもあります。ソート順序を逆にするには、ヘッダを再度クリックします。

表 14-1 [システム更新を展開しています] カラムの説明

カラム見出し	説明
更新名	Novell が作成した更新の名前が表示されます。 名前をクリックして [デバイス別のステータス] ページにアクセスします。また、[保留中]、[成功]、または [失敗] カラムの下線の付いた番号をクリックして、そのステータスを持つデバイスを表示するようフィルタリングされた、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示することもできます。
開始スケジュール	設定されているスケジュールがあれば、最新のスケジュールが表示されます。[展開の再スケジュール] アクションを使用して、更新の再スケジュールを行います。詳細については、 143 ページのセクション 14.4「展開の再スケジュール」 を参照してください。 デバイスごとに独自のスケジュールを含めることができます。
再起動の動作	更新が展開された後のデバイスの再起動の動作を表示します。 更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。 再起動オプションは次のとおりです。 <ul style="list-style-type: none"> ◆ 更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求：更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するよう定期的に要求されます。これがデフォルトの設定です。 ◆ デバイスを再起動しない：デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザに要求します。 ◆ デバイスを強制的に再起動：更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されません。

カラム見出し	説明
ステージ	<p>展開のステータスを示します。可能なエントリは次のとおりです。</p> <p>stage_name: 一覧表示されている現在のステージのメンバーである管理対象デバイスに更新を展開中です。</p> <p>選択したデバイスステージ: 更新は、ステージを使用せずに選択された管理対象デバイスに展開されています。</p> <p>すべてのデバイスステージ: 更新は、ステージを使用せずに管理ゾーンに含まれるすべての管理対象デバイスに展開されています。</p> <p>最後のステージが完了すると、[すべてのデバイスステージ] と表示されます。これは、管理ゾーンに残った、完了したステージに含まれなかったデバイスが更新を受け取る最中であることを意味します。つまり、管理対象デバイスは、更新をスキップできません。</p> <p>ステージが使用中の場合、ステージ名をクリックするとステージメンバーごとにデバイスのステータスが表示されます。詳細については、144 ページのセクション 14.8「デバイスごとのステータスの表示」を参照してください。</p>
ステータス	<p>展開中の更新のステータスを示します (ステージが使用されている場合は、最新のステージに対して)。可能なステータスに関する詳細については、155 ページの第 17 章「ステータスの更新」を参照してください。</p> <p>[ステータス] カラムの中の項目をクリックし、現在のステータスを説明するメッセージを表示します。</p> <p>更新のステータスが APPLIED または BASELINE ステータスに達すると、このパネルは更新の展開項目が表示されなくなりますが、[展開履歴] パネルに表示されます。詳細については、144 ページのセクション 14.8「デバイスごとのステータスの表示」を参照してください。</p>
保留中	<p>更新展開プロセスが保留になっているデバイスの数が表示されます。デバイスがステージのメンバーであり、1つのステージの完了後に自動的に他のステージが開始されない場合は、デバイスは保留状態になります。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新の展開が保留されているデバイスが表示されます。詳細については、144 ページのセクション 14.8「デバイスごとのステータスの表示」を参照してください。</p>
成功	<p>更新の展開プロセスが完了しているデバイスの数が表示されます。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新を正常に受け取ったデバイスが表示されます。詳細については、144 ページのセクション 14.8「デバイスごとのステータスの表示」を参照してください。</p>
失敗	<p>更新展開プロセスが失敗したデバイスの数。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新の受け取りに失敗したデバイスが表示されます。詳細については、144 ページのセクション 14.8「デバイスごとのステータスの表示」を参照してください。</p> <p>展開が失敗した場合、エラーを無視して続行するか、エラーが解決した場合は更新を再展開することができます。</p>

14.2 更新の展開

- 1 (オプション) 展開ステージを使用する場合、まだ展開ステージを設定していない場合は設定します。

詳細については、[118 ページのセクション 12.2 「展開ステージの作成」](#) を参照してください。

- 2 ZENworks コントロールセンターの左側のペインで [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックし、[使用可能なシステム更新] パネルを表示します。



- 3 (条件付き) 新しい更新が表示されない場合、[アクション] > [更新のチェック] の順にクリックします。

入手可能な更新の説明を次に示します。

使用可能なシステム更新							
アクション ▼							
<input type="checkbox"/>	更新名	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/>	Jun 2009 PRU	2009/06/02			使用可能	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Support Pack 2 for ZCM (10.2)	2009/05/27			使用可能	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Update for ZCM (10.1.3)	2009/02/18		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- 4 (オプション) 入手可能な更新のコンテンツを表示するには、([更新名] カラムで) 更新の名前をクリックし、[リリース詳細] ページを表示します。



詳細については、151 ページの第 16 章「更新のコンテンツの確認」を参照してください。

- 更新をダウンロードするには、そのチェックボックスをオンにし、[アクション] をクリックし、[更新版のダウンロード] をクリックします。

更新によってダウンロードが完了した後、そのステータスが [ダウンロードされました] に自動的に変更されます。更新をダウンロードする時間の長さは、そのサイズおよびハードウェアの設定に依存します。

複数の更新を一度にダウンロードできますが、展開は一度に 1 回しか実行できません。これらのステップは各更新で繰り返されるため、現時点で展開しようとしている更新のみをダウンロードする必要があります。

ダウンロードされた更新の説明を次に示します。

使用可能なシステム更新							
アクション	更新名	リリース日	ダウンロード日	適用日	ステータス	重要度	ターゲットタイプ
<input type="checkbox"/>	Jun 2009 PRU	2009/06/02			使用可能	中程度	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Support Pack 2 for ZCM (10.2)	2009/05/27			使用可能	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Update for ZCM (10.1.3)	2009/02/18		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Update for ZCM (10.1.2a)	2008/12/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス
<input type="checkbox"/>	Update for ZCM (10.1.1)	2008/10/08		2009/06/03	ベースライン済み	必須	すべてのデバイス

- ダウンロードされた更新を展開するかどうかを判断し、そのチェックボックスをオンにします。

一度に 1 つの更新しか展開できません。

ダウンロードした更新のコンテンツを確認するには、151 ページの第 16 章「更新のコンテンツの確認」のダウンロードされた更新のコンテンツの確認に関する説明を参照してください。

異なる展開の更新をダウンロードする場合、ステップ 4 に戻ります。

- [アクション] > [更新をデバイスに展開] の順にクリックします。

これにより、適用可能なすべてのデバイスへの更新を展開するための、システム更新の展開の作成ウィザードが開始します。展開ステージが有効になっている場合、これらを使用できます。

展開ウィザードには、展開のスケジューリングを含む多くのオプションが用意されています。

システム更新の展開の作成	
🔍 手順: 展開の再起動動作の選択	
更新名:	ZCM 10.0.7の更新
リリース日:	2008年4月7日
ダウンロード日:	2008年4月12日
優先度レベル:	オプション
説明:	
ターゲット:	
製品バージョン:	0
更新に関する注:	
更新のReadme:	

更新されたファイル:

管理ゾーンの展開オプションを選択してください:

- システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する
- システム更新を管理ゾーン内のすべてのデバイスに展開する
- ステージを使用してシステム更新を管理ゾーン内のデバイスに展開する

<< 戻る
次へ >>
キャンセル

8 展開ウィザードで、次のステップを完了します。

8a [システム更新と展開オプションの選択] ページで、展開オプションを選択します (これらはすべて後続のウィザードページでスケジュールできます)。

ZENworks システムのサイズによっては、すべての ZENworks サーバに選択した更新を展開してから、これらのサーバと通信する管理対象デバイスに更新を展開することを、ベストプラクティスとして推奨します。運用環境では、[システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する] オプションを使用して最初にサーバを更新し、次に管理対象デバイスを更新するか、[ステージを使用してシステム更新を管理ゾーン内のデバイスに展開する] オプションを使用してサーバを含むステージに更新を展開してから、管理対象デバイスを含む別なステージに更新を展開することをお勧めします。

- ◆ **管理ゾーンに含まれる選択したデバイスにシステム更新を展開** : **ステップ 8e** で選択したデバイスにのみ、選択した更新を展開します。ステージは使用されません。このオプションを選択した場合は、ウィザードの次のページで、展開に含められるデバイスの再起動動作を選択できます。
- ◆ **管理ゾーンに含まれるすべてのデバイスにシステム更新を展開** : 管理ゾーンに含まれるすべてのデバイスに選択した更新を展開します。ステージは使用されません。このオプションを選択した場合は、ウィザードの次のページで、展開に含められるデバイスの再起動動作を選択できます。

このオプションは、管理対象デバイスの前に ZENworks サーバが更新されることを保証するものではありません。大規模な ZENworks システムや運用環境では、次のいずれかのオプションを使用することをお勧めします。

- ◆ **管理ゾーンに含まれるデバイスにステージを使用してシステム更新を展開** : 選択した更新は、ステージの 1 つでメンバーシップを持つデバイスだけに展開されます。ステージは 1 つずつ実行されます。つまり、前のステージが完了するまで次のステージは開始されません。すべてのステージの完了後、[すべてのデバイス] ステージが実行されます。このオプションを選択し、

再起動動作をステージごととして設定した場合は、ウィザードの次のページで、他の全ステージの後で自動的に実行される**すべてのデバイスステージ**の再起動動作を選択できます。

ステージの詳細については、**118 ページのセクション 12.2 「展開ステージの作成」**を参照してください。

8b [次へ] をクリックして、次のページを表示します。

システム更新の展開の作成
手順2: 展開の再起動動作の選択

展開の再起動動作の選択

- 更新の適用が終了したときにユーザに対して再起動するよう促す
- デバイスを再起動しない
- 強制的にデバイスを再起動

<< 戻る 次へ >> キャンセル

8c 次のいずれかを行います：

- ◆ **更新の適用が完了したら、再起動するようにユーザに要求**：更新が適用されるとすぐに、再起動するように要求が表示されます。ユーザが最初に再起動を拒否した場合、デバイスが再起動されるまで、デバイスを再起動するよう定期的に要求されます。これがデフォルトの設定です。
- ◆ **デバイスを再起動しない**：デバイスは再起動されませんが、デバイスが再起動されるまで、再起動するように定期的にユーザに要求します。
- ◆ **デバイスを強制的に再起動**：更新で再起動が必要である場合、更新が適用されると、ユーザの介入なしにデバイスが自動的に再起動されます。

更新の中には、デバイスに展開された後にデバイスの再起動を必要としないものもあります。ただし、更新プロセスを完了させるのに再起動が必要な場合は、デバイスが再起動されるまで展開は完了しません。

8d [次へ] をクリックします。

8e (条件付き) **ステップ 8a** で、管理ゾーンで [システム更新を選択したデバイスに展開する] を選択した場合、次のウィザードページが表示されます。

システム更新の展開の作成
手順3: 展開デバイスとグループの選択

追加 削除

名前

項目を選択していません、[追加] をクリックして項目を選択します。

<< 戻る 次へ >> キャンセル

8f デバイスまたはグループを展開の設定に追加するには、[追加] をクリックし、更新の展開に含めるデバイスまたはデバイスグループを参照して選択し、次に [OK] をクリックします。

8g [次へ] をクリックし、[展開スケジュールの選択] ページを表示します。

8h 次のフィールドに入力します：

スケジュールタイプ：スケジュールオプションの1つを選択します。

- ◆ **今すぐ**：ウィザードが終了したら、すぐに更新を展開します。

システム更新の展開の作成
手順2: 展開スケジュールの選択

スケジュールタイプ:
今すぐ

このスケジュールは、ウィザードの完了時に直ちに実行されます。

<< 戻る 次へ >> キャンセル

- ◆ **特定の日付**: 設定したスケジュールに従って、更新を展開します。[日付特有] オプションには、次のオプションが表示されます。

システム更新の展開の作成
手順4: 展開スケジュールの選択

スケジュールタイプ:
日付特有

開始日 2008年4月12日

毎年イベントを実行
 デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する

スケジュールの実行が開始される時間を選択

開始時刻にすぐに実行
 開始時刻および終了時刻の間でランダムに開始

開始時刻 1 : 00 am 終了時刻 1 : 00 am

<< 戻る 次へ >> キャンセル

次のフィールドに入力します:

- ◆ **開始日**: カレンダーから展開日を選択します。
- ◆ **毎年イベントを実行**: 毎年開始日に更新を展開するには、このオプションを選択します。
- ◆ **デバイスがスケジュールどおりに実行できない場合はすぐに処理する**: 更新ではこのオプションを使用しないでください。これは、更新には適用されません。
- ◆ **開始時刻にただちに開始**: 指定した開始時刻に、更新を展開できます。
- ◆ **開始時刻と終了時刻の間でランダムに開始**: 指定した時間の間でランダムに更新を展開できます。[終了時刻] フィールドに入力します。

- 8i [次へ] をクリックし、[展開オプションの確認] ページを表示して、情報を確認します。

システム更新の展開の作成									
手順5: 展開オプションの確認									
更新名:	ZCM Update 10.0.2								
展開タイプ:	システム更新を管理ゾーン内の選択したデバイスに展開する								
展開の再起動動作:	更新の適用が終了したときにユーザに対して再起動するよう促す								
展開スケジュール:	<table border="1"><tr><td>スケジュールタイプ:</td><td>日付特有</td></tr><tr><td>スケジュールされたイベントが実行される日:</td><td>2008年4月12日</td></tr><tr><td>開始時間:</td><td>1:00 AM</td></tr><tr><td>終了時間:</td><td></td></tr></table>	スケジュールタイプ:	日付特有	スケジュールされたイベントが実行される日:	2008年4月12日	開始時間:	1:00 AM	終了時間:	
スケジュールタイプ:	日付特有								
スケジュールされたイベントが実行される日:	2008年4月12日								
開始時間:	1:00 AM								
終了時間:									

<< 戻る 終了 キャンセル

- 9 これでよい場合は、[完了] をクリックして更新の展開を開始します。これではよくない場合は、[戻る] をクリックして変更します。
- 10 (条件付き) 展開スケジュールタイプとして、**ステップ 8h** で [今すぐ] を選択した場合、更新は次のデバイス更新スケジュール中のみ展開されます。ただし、デバイスにすぐに更新を適用したい場合は、次のいずれかの方法で手動で管理対象デバイスを更新する必要があります。
- [デバイス] タブ > [管理対象] タブ > [サーバ]、または [ワークステーション] の順にクリックし、更新するデバイスの隣のチェックボックスをオンにして、[クイックタスク] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
 - 管理対象デバイスで、 アイコンを右クリックし、次に [更新] をクリックします。
 - 管理対象外の Linux デバイスで、ターミナルを開き、現在の作業ディレクトリを /opt/novell/zenworks/bin/ に変更し、/zac ref コマンドを実行します。
- 11 更新の展開の進行状況を見るには、次のいずれかを行います。
- ZENworks コントロールセンターでは、[システム更新] ページのパネルを参照します。
 - 展開が完了すると、[使用可能なシステム更新] パネルの [ステータス] カラムに、[ベースライン済み] が自動的に表示されます。
 - 展開が完了したときに、[展開されたシステム更新] パネルに、そのリストに更新が表示されます。
 - 更新が展開される Windows デバイスで、[ZENworks] アイコンを右クリックし、[進捗表示] を選択すると、[ZENworks 進行状況] ダイアログボックスが開きます。
- これらのデバイスは ZENworks の管理対象デバイスでなく、ZENworks アイコンを持たないため、Linux デバイスではダウンロードの進行状況を見ることはできません。

更新 MSI ファイルのダウンロードの進行状況が表示されます。終了するとダイアログボックスが自動的に閉じ、[進捗表示] オプションがグレー表示になります。

5 分間待機した後、デバイス上のすべての ZENworks サービスが終了します。次に、MSI (Windows の場合) または RPM (Linux の場合) がインストールされ、サービスが再起動されます。

12 次の手順に従って、更新が正常に展開されたことを検証します。

12a MSI または RPM がインストールされており、更新プロセスが完了していることを検証するには、次のログファイルを確認します。

Windows: `installation_path\novell\zenworks\logs\systemupdate.log`

Linux: `/var/opt/novell/log/zenworks/SystemUpdate.log`

また、次のファイルがあるかどうかを調べることもできます (Windows と Linux で同じパスです)。

`installation_path\novell\zenworks\work\system-update\systemupdate.ini.timestamp`

12b 適切に動作していることを確認するために、デバイス上の ZENworks ソフトウェアをテストします。

12c 更新が展開されたことを確認するには、次のいずれかの操作を行って、バージョン番号が増加したかどうかを判別してください (たとえば、ZENworks の最初の更新では、値が 10.0.x から 10.0.2 に変更されます)。

- Windows レジストリを開き、次を参照します。

`HKEY_LOCAL_MACHINE/Software/Novell`

ZENworks キーでは、更新プロセスは、[バージョン] の値だけ増加する必要があります。

- Windows デバイスで、次のファイルを確認します。

`Installation_path\Novell\ZENworks\version.txt`

- Linux デバイスで、次のファイルを確認します。

`/etc/opt/novell/zenworks/version.txt`

12d 各テストデバイスで、**ステップ 12a** から **ステップ 12c** を繰り返します。

13 (条件付き) 展開ステージが完了し、次のステージを開始する準備ができたなら電子メール通知を受信する場合、[展開されたシステム更新] パネルに移動し、[アクション] > [次のステージに進む] の順にクリックします。

14 別の更新を展開するには、**ステップ 4** から繰り返します。

14.3 保留中のステージの開始

デフォルトのステージの動作では、設定されたステージを自動的に進めます。ただし、個々のステージまたはすべてのステージのステージ動作を設定できます。

[保留中ステージの開始] オプションは、ステージを自動的に完了させるのではなく、[次のステージに手動で進め、完了時に通知する] オプションを使用して、入力を手動で行って続行させるためにステージごとに停止する場合のみ使用可能です。

保留中ステージを開始するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルで、更新のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [保留ステージの開始の順] にクリックします。

14.4 展開の再スケジュール

展開の開始後に再スケジュールすることはできません。

- 143 ページのセクション 14.4.1「すべてのステージのステータスに対する展開の再スケジュール」
- 143 ページのセクション 14.4.2「その他のステータスに対する展開の再スケジュール」

14.4.1 すべてのステージのステータスに対する展開の再スケジュール

- 1 更新用にチェックボックスをオンにします。
同時に展開された更新がすべてのデバイスにある必要はないので、デバイス別に個別の展開スケジュールを設定できます。
- 2 [アクション] > [展開の再スケジュール] の順にクリックして、[再展開スケジュール] ダイアログボックスを開きます。
- 3 [OK] をクリックして [今すぐ] のデフォルトのスケジュールを受諾するか、[スケジュールタイプ] フィールドの [日付特有] を選択して、新しい日付を指定して [OK] をクリックします。

14.4.2 その他のステータスに対する展開の再スケジュール

- 1 更新用にチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [展開の再スケジュール] の順にクリックします。
- 3 [デバイス別のステータス] ページで更新のチェックボックスをオンにし、次に、[展開の再スケジュール] をクリックします。
- 4 [デバイス別のステータス] ページで、[デバイス] カラム内に一覧表示されているデバイスを1つまたは複数の選択します。
- 5 [デバイスの再スケジュール] をクリックして、[再展開スケジュール] ダイアログボックスを開きます。
- 6 [OK] をクリックしてデフォルトの [今すぐ] を承認するか、[スケジュールタイプ] フィールドの [日付特有] を選択して新しい日付を指定し、[OK] をクリックします。

14.5 ステージングのバイパス

ステージはいつでもバイパスできます。また、管理ゾーン内のすべての管理対象デバイスに直ちに更新を展開することもできます。

- 1 更新用にチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [ステージをバイパスしてすべてのデバイスに適用] の順にクリックします。

14.6 展開のキャンセル

このオプションは、主にまだ開始されていない展開をキャンセルするためのものです。

ステージを使用してのみ展開を適用する方法を選択し、更新の展開をキャンセルした場合、[使用可能なシステム更新] パネル内のステータスが [中断] に変わります。

ただし、更新では、個々のデバイスに展開したり、他のデバイスのステージを介して展開することを選択できます。そのため、[使用可能なシステム更新] パネルのステータスは次のように変わります。

- ◆ ステージによる展開のみをキャンセルする場合は、[準備完了] に変わります。
- ◆ ステージによる展開および個別に選択されたデバイスの展開の両方をキャンセルする場合は、[中断] に変わります。

展開をキャンセルするには、次の手順に従います。

- 1 更新用にチェックボックスをオンにします。
- 2 [アクション] > [展開のキャンセル] の順にクリックします。

警告: (単にスケジュールされているだけでなく) 現在実行中の展開をキャンセルすると、その時点までに実行されたすべての展開アクションは元に戻すことはできません。現在、ロールバックオプションは用意されていません。

- 3 [OK] をクリックして、展開のキャンセルを確認します。

14.7 展開の再試行のエラーのクリア

展開を中止するほどエラーが深刻ではないと判断した場合、次の操作に従って展開を続行します。

- 1 [アクション] > [エラーをクリアして続行] の順にクリックします。

14.8 デバイスごとのステータスの表示

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ 145 ページのセクション 14.8.1 「デバイスのステータスの理解」
- ◆ 146 ページのセクション 14.8.2 「デバイスのプロパティの表示」
- ◆ 146 ページのセクション 14.8.3 「デバイスのステータスに関する情報の表示」
- ◆ 146 ページのセクション 14.8.4 「無視されたデバイスの切り替え」
- ◆ 147 ページのセクション 14.8.5 「デバイスへの更新の再展開」

- ◆ 147 ページのセクション 14.8.6 「デバイスへの更新の再スケジュール」
- ◆ 148 ページのセクション 14.8.7 「デバイスの更新」

14.8.1 デバイスのステータスの理解

次の図は、[システム更新] ページ上の [システム更新の展開] パネルを示しています。

図 14-2 [システム更新の展開] パネル

システム更新の展開							
アクション							
<input type="checkbox"/> 名称の更新	スケジュールの開始	操作の開始	ステージ	ステータス	保留中	成功	失敗
<input type="checkbox"/> ZCM Update 10.0.2	今すぐ	ユーザにプロンプトを表示	すべてのデバイスステージ	処理中	1	0	0

下線の付いたリンクをクリックすると、対応するデバイスのステータスを表示できます。たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

図 14-3 保留中ステータスを持つデバイスの [デバイス別のステータス] ページ

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/ devices/servers/zendoc3a

このページに表示できるステータスは次のとおりです。

すべてのデバイス：ステータスにかかわらず、選択した更新を受け取るように設定されたすべてのデバイスを一覧表示します。

保留中のデバイス：選択した更新が保留中のデバイスのみ一覧表示します。

正常なデバイス：選択した更新が正常に展開されたすべてのデバイスを一覧表示します。

失敗したデバイス：選択した更新が失敗したデバイスのみを一覧表示します。

更新は割り当てられました：選択した更新が割り当てられたデバイスのみ一覧表示します。

次の表はカラム情報について説明しています。カラムの中には、ヘッダをクリックして一覧表示されている情報をソートできるものもあります。ソート順序を逆にするには、ヘッダを再度クリックします。このページは、デバイスに更新が適用されるときに、そのデバイスで作業を行うことができるようにするために、自動的に更新されます。

カラム見出し	説明
デバイス	デバイスの名前です。名前をクリックすると、デバイスのプロパティページが ZENworks コントロールセンターに表示されます。
ステータス	デバイスに対する現在の更新の展開ステータスです。ステータス項目をクリックすると、ステータスの情報が表示されます。 個別のステータスに関する詳細については、 155 ページの第 17 章「ステータスの更新」 を参照してください。
デバイスタイプ	デバイスがサーバまたはワークステーションのいずれであるかです。

カラム見出し	説明
フォルダ内	デバイスの ZENworks オブジェクトが格納されている ZENworks コントロールセンターフォルダを表示します。

14.8.2 デバイスのプロパティの表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 [デバイス] カラムの下線の付いたリンクをクリックし、デバイスのプロパティを表示します。

14.8.3 デバイスのステータスに関する情報の表示

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 [ステータス] カラムの下線の付いたリンクをクリックし、デバイスに関するステータス情報を表示します。

14.8.4 無視されたデバイスの切り替え

デバイスで更新が失敗したときに、エラーを解決せずに展開を続行する場合に、デバイスの無視は便利です。たとえば、デバイスがオフラインで、展開を続行できるようにするためそのデバイスを無視する場合などです。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。

- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 1つまたは複数のデバイスの隣にあるチェックボックスをクリックします。
- 4 [アクション]、[無視されたデバイスの切り替え] の順にクリックします。
[アクション] メニューで使用可能なオプションは、[割り当てられた全デバイスのステータス] パネル、[保留中ステータスのデバイス] パネル、または [失敗ステータスのデバイス] パネルを表示しているかどうかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

14.8.5 デバイスへの更新の再展開

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス					
アクション					
<input type="checkbox"/>	デバイスの無視	デバイス	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>		zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 デバイスの隣にあるチェックボックスを1つ以上オンにします。
- 4 [アクション]、[更新をデバイスに再展開] の順にクリックします。
[アクション] メニューで使用可能なオプションは、[割り当てられた全デバイスのステータス] パネル、[保留中ステータスのデバイス] パネル、または [失敗ステータスのデバイス] パネルを表示しているかどうかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

14.8.6 デバイスへの更新の再スケジュール

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション ▼				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス ▲	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

- 3 デバイスの隣にあるチェックボックスを1つ以上オンにします。
- 4 [アクション]、[デバイスの再スケジュール] の順にクリックします。
[アクション] メニューで使用可能なオプションは、[割り当てられた全デバイスのステータス] パネル、[保留中ステータスのデバイス] パネル、または [失敗ステータスのデバイス] パネルを表示しているかどうかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。
更新の展開がスケジュールされている場合のみ、[デバイスの再スケジュール] オプションが表示されます。更新のスケジュールが [今すぐ] に設定されている場合、このオプションは使用できません。

14.8.7 デバイスの更新

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [システム更新の展開] パネルの [更新名]、[ステージ]、[保留中]、[成功]、または [失敗] の各カラムで、下線の付いたリンクをクリックし、適切な [デバイス別のステータス] ページを表示します。

たとえば、[保留中] カラムのリンクをクリックすると、次の図に示すように、展開が保留されているデバイスのステータスが表示されます。

ZCM 10.0.7 の更新 - 保留中ステータスのデバイス				
アクション ▼				
<input type="checkbox"/> デバイスの無視	デバイス ▲	ステータス	デバイスタイプ	In Folder
<input type="checkbox"/>	zendoc3a	更新が割り当てられました	サーバ	/devices/servers/zendoc3a

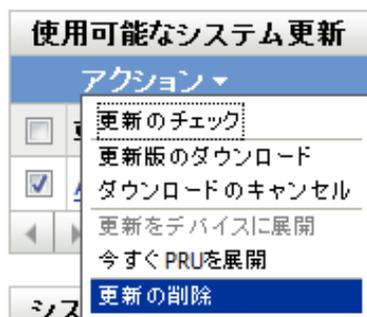
- 3 デバイスの隣にあるチェックボックスを1つ以上オンにします。
- 4 [アクション] > [デバイスの更新] の順にクリックします。
[アクション] メニューで使用可能なオプションは、[割り当てられた全デバイスのステータス] パネル、[保留中ステータスのデバイス] パネル、または [失敗ステータスのデバイス] パネルを表示しているかどうかによって異なります。[成功ステータスのデバイス] パネルを表示している場合は、オプションは使用できません。

更新の削除

15

ダウンロードに失敗した更新、または展開しない更新をクリアできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [使用可能なシステム更新] パネルで、1つ以上の更新のチェックボックスをオンにします。
- 3 [アクション] > [更新の削除] の順にクリックします。



更新がリストから削除され、ダウンロードされたすべてのファイルが削除されます。ただし、削除された更新が更新サーバでまだ使用可能な状態である場合、次回更新のチェックを行ったときに、可能なダウンロードとして再度リストに表示されます。

更新のコンテンツの確認

次の理由から、更新のコンテンツを確認できます。

- ◆ 更新をダウンロードするかどうかを判断する
- ◆ ダウンロードされた更新を展開するかどうかを判断する
- ◆ 更新によって何が展開されたのかを確認する
- ◆ 更新の履歴を確認する

このセクションでは、次のトピックについて説明します。

- ◆ 151 ページのセクション 16.1 「リリース詳細ページの表示」
- ◆ 151 ページのセクション 16.2 「リリース詳細の更新」
- ◆ 152 ページのセクション 16.3 「展開履歴」

16.1 リリース詳細ページの表示

- 1 ZENworks® コントロールセンターで、左側のペインの [環境設定] をクリックし、次に、[システム更新] タブをクリックします。
- 2 [使用可能なシステム更新] パネルで、[更新名] カラムの更新名をクリックして、[リリース詳細] ページを表示します。



16.2 リリース詳細の更新

表 16-1 システム更新リリース詳細パネルの情報

カラム見出し	説明
更新名	Novell® 作成の更新の名前。
GUID の更新	更新の GUID。

カラム見出し	説明
リリース日付	Novell によって更新がリリースされた日付。
ダウンロード日付	更新のコンテンツ (更新のインストールに必要なすべてのファイルを含む) をダウンロードした日付。
優先度レベル	ZENworks インストールに対する更新コンテンツの相対的重要度。可能なエントリ: OPTIONAL: ZENworks の通常動作には不要。 MANDATORY: 適用が必要な必須の更新。
説明	更新の目的とそのコンテンツに関する簡単な説明。
ターゲット	ターゲットデバイスが、プライマリサーバのみ、すべての管理対象デバイス、または ZENworks の役割を持つサーバのいずれかを示します。
製品バージョン	この更新における ZENworks のバージョン。
前提条件の更新	この更新を行うをために必要なすべての更新。
置き換え更新	現在の更新で置換されるすべての更新。
更新のメモ	更新に関する重要事項に関する簡単な説明。
更新の README	時間ぎりぎりに追加された説明などの更新に関する情報。README を開くにはこのエントリをクリックします。
更新されたファイル	ZENworks ソフトウェアを更新するために適用される更新に含まれるすべてのファイルを一覧表示します。

16.3 展開履歴

この [展開履歴] パネルには、選択した更新に対する履歴の現在のスナップショットが表示されます。パネルの内容は自動的に更新されません。

詳細情報については、次を参照してください。

- ◆ [153 ページのセクション 16.3.1 「展開履歴の詳細について」](#)
- ◆ [153 ページのセクション 16.3.2 「展開履歴タスクの実行」](#)

16.3.1 展開履歴の詳細について

表 16-2 展開履歴の詳細パネルのカラム

カラム見出し	説明
ステージ	<p>使用されている展開方法を示します。利用可能なエントリは次のとおりです。</p> <p>stage_name: 一覧表示されているステージのメンバーである管理デバイスに更新を展開されました。</p> <p>選択したデバイスステージ: 管理ゾーンに含まれる、選択した管理対象デバイス (ステージのメンバーではない) に更新が展開されました。</p> <p>すべてのデバイスステージ: 管理ゾーンに含まれる、すべての管理対象デバイス (ステージのメンバーではない) に更新が展開されました。</p>
ステータス	<p>[適用済み] または [ベースライン済み] など、正常に展開された更新のステータスを示します。</p> <p>進行中: 現在、ステージのメンバーに更新を展開中です。</p> <p>個別のステータスに関する詳細については、155 ページの第 17 章「ステータスの更新」を参照してください。</p>
保留中	<p>更新展開プロセスが保留になっているデバイスの数が表示されます。デバイスがステージのメンバーであり、1つのステージの完了後に自動的に他のステージが開始されない場合は、デバイスは保留状態になります。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには、番号をクリックします。すると、保留中の更新の展開があるデバイスが表示されます。</p>
成功	<p>更新展開プロセスが完了したデバイスの数が表示されます。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新を正常に受け取ったデバイスが表示されます。</p>
失敗	<p>更新展開プロセスが失敗したデバイスの数が表示されます。</p> <p>[デバイス別のステータス] ページを表示するには番号をクリックします。このページには、更新の受け取りに失敗したデバイスが表示されます。</p> <p>展開が失敗した場合、エラーを無視して続行するか、エラーが解決した場合は更新を再展開することができます。</p>

16.3.2 展開履歴タスクの実行

表 16-3 更新の展開履歴を評価するためのタスク

タスク	手順	追加の詳細
展開が保留中のデバイスを表示する	<ol style="list-style-type: none">[展開ステージ] パネルで、[保留中] カラムの数字をクリックします。[デバイス別のステータス] ページで、情報を確認します。	更新の展開が保留中のデバイスが表示されます。

タスク	手順	追加の詳細
展開が正常終了したデバイスを表示する	<ol style="list-style-type: none"> 1. [展開ステージ] パネルで、[成功] カラムの数字をクリックします。 2. [デバイス別のステータス] ページで、情報を確認します。 	選択した更新が正常に適用されたデバイスが表示されます。
展開が失敗したデバイスを確認する	<ol style="list-style-type: none"> 1. [展開ステージ] パネルで、[失敗] カラムの数字をクリックします。 2. [デバイス別のステータス] ページで、情報を確認します。 	<p>更新の展開が失敗したデバイスが表示されます。</p> <p>失敗したデバイスがあるときに、展開が正常に終了したと見なすためには、失敗したデバイスを無視するか、失敗したデバイスに更新を再展開する前にエラーを修正する必要があります。</p>

ステータスの更新

ZENworks コントロールセンターのいくつかの [システム更新] パネルの [ステータス] カラムに、次の更新ステータスが表示されます。

中断: [アクション] > [展開のキャンセル] の順に選択するなどの操作を行ったため、更新の展開が停止しました。

適用済み: 管理対象デバイスに、更新が正常に適用されました。

使用可能: このステータスを持つ更新により、更新に関する情報がダウンロードされました。これは、[更新ID] カラムの更新名をクリックすることにより表示できます。

再起動を待機しています: 更新の適用後にユーザが手動で再起動するまで、デバイスは待機します。

ベースライン済み: 更新が /Devices フォルダに割り当てられています。つまり、管理ゾーンに追加されたすべての新規デバイスは、まだその更新レベルに達していなければ、自動的に更新されます。ベースライン済みの更新が完了と見なされても、無視された個々のデバイスが存在する可能性もあります。

キャンセル済み: [アクション] > [ダウンロードのキャンセル] を順に選択した後に、ダウンロードまたは展開は正常にキャンセルされたことが表示されます。

キャンセル: [アクション] > [ダウンロードのキャンセル] の順に選択した後に、一時的に表示されます。

展開しています: 更新は現在展開されています。展開の詳細と、展開中の更新に対して取れるアクションについては、[133 ページの第 14 章「更新の展開」](#)を参照してください。

ダウンロード済み: 更新のコンテンツがダウンロードされ、展開の用意ができました。展開の詳細および展開した更新に対して実行できるアクションについては、[133 ページの第 14 章「更新の展開」](#)を参照してください。

ダウンロードしています: ダウンロードプロセスの完了した割合を表示します。ダウンロードが完了すると、このステータスは [ダウンロードされました] に変わります。

エラー: 更新される 1 つ以上のデバイスでエラーが発生したため、ステージを完了できませんでした。エラーを無視して続行するか、続行する前にエラーを修正するかを選択できます。このステータスは、更新のダウンロードのエラーも示します。

進行中: 現在のステージはアクティブです。

更新をインストールしています: 更新は現在デバイスにインストールされています。

準備完了: 現在のステージを開始する準備ができました。

再起動が進行中です: デバイスは再起動中です。

再起動プロセスがキャンセルされました: 更新適用後のデバイスの再起動は、キャンセルされました。

スケジュール済：更新には定義されたスケジュールが存在します。システム更新の展開の作成ウィザードで展開を作成する場合は、[133 ページの第 14 章「更新の展開」](#)を参照してください。[アクション] > [展開の再スケジュール] オプションを使用して、更新のスケジュールを変更できます。

ステージ完了：ステージが完了しました。

ステータス不明：デバイスの更新のステータスが不明です。

置き換え済み：更新は、[使用可能なシステム更新] セクションにある別の更新で置き換えられたことを示します。このステータスは、この更新の展開プロセスの実行中で、保留中のデバイスがある場合にのみ表示されます。置き換え済み更新を削除できますが、展開はできません。

更新は中断されました：デバイスの更新がキャンセルされました。

更新完了：デバイスで更新のインストールが完了しました。

更新が完了しましたがエラーがありました：デバイスで更新のインストールが完了しましたが、エラーがありました。詳細については、[更新ログ](#)を参照してください。

更新は割り当てられました：更新がデバイスに割り当てられました。

ゾーンの更新前アクション：サーバの更新が開始される前に、管理ゾーンのアクションが実行されます。

ゾーンの更新後アクション：サーバアップグレードが終了した後に、管理ゾーンのアクションが実行されます。

ユーザ

IV

次のセクションでは、ZENworks® 管理ゾーンと信頼されたユーザソース (Microsoft Active Directory* または Novell® eDirectory™) との接続、およびユーザが ZENworks 管理ゾーンへログインする方法の管理について説明します。

- ◆ 159 ページの第 18 章「ユーザソース」
- ◆ 167 ページの第 19 章「ユーザの認証」

注: ユーザソースを定義すると、自動的に ZENworks Adaptive Agent からプロンプトが表示され、デバイスユーザに ZENworks 管理ゾーンへのログインを促します。ユーザにこのプロンプトを表示させたくない場合は、ZENworks Adaptive Agent レベルで、ユーザ管理モジュールをアンインストールまたは使用不可にすることができます。詳細については、[86 ページのセクション 8.3 「展開後の Adaptive Agent の設定」](#)を参照してください。

次のセクションでは、ユーザソースを定義する方法について説明します。

- [159 ページのセクション 18.1 「前提条件」](#)
- [159 ページのセクション 18.2 「ユーザソースの追加」](#)
- [162 ページのセクション 18.3 「ユーザソースの削除」](#)
- [163 ページのセクション 18.4 「ユーザソースからのコンテナの追加」](#)
- [163 ページのセクション 18.5 「LDAP 負荷分散および耐障害性の提供」](#)

18.1 前提条件

- **最低のディレクトリバージョン:** Novell eDirectory™ 8.7.3 または Microsoft Active Directory*(Windows 2000 SP4 の場合)
- **最低の LDAP バージョン:** LDAPv3
- **最低のユーザアカウントの権限:** 読み込み権。

Active Directory では、基本的なユーザアカウントを使用できます。これにより、ディレクトリへの十分な読み込みアクセスが提供されます。

eDirectory の場合、CN、O、OU、C、DC、GUID、WM:NAME DNS、およびオブジェクトクラスの属性に対する継承可能な読み込み権が必要です。ディレクトリのルートコンテキストまたは ZENworks のルートコンテキストとして指定した別のコンテキストで、権限を割り当てることができます。

ユーザソースディレクトリにアクセスするために使用されるユーザ名およびパスワードは、ZENworks プライマリサーバの iaRealm.xml ファイルに、クリアテキスト形式で保存されます。セキュリティが心配な場合は、ディレクトリへのアクセスを制限してください。

- **DNS 名の解決:** Active Directory を使用する場合、ZENworks サーバ (特に、ZENworks サーバ上の DNS クライアント) は、ユーザソースとして定義された各 Active Directory ドメインの DNS 名を解決することができる必要があります。そうでない場合、Active Directory ドメインのユーザは、ZENworks 管理ゾーンにログインできません。

18.2 ユーザソースの追加

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[設定] タブをクリックします。

環境設定	登録	システム情報	アセットインベントリ	アセット管理	システム更新
管理ゾーンの設定					
サーバの階層					
管理者					
役割					
ユーザソース					
新規 削除					
<input type="checkbox"/> ステータス 名前					
使用できる項目がありません。					
ライセンス					

- 2 [ユーザソース] パネルで、[新規作成] をクリックして新規ユーザソースの作成ウィザードを起動します。

[ユーザ](#) > 新規ユーザソースの作成

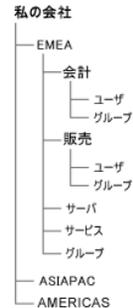
<p>新規ユーザソースの作成</p> <p>🔧 ステップ 1: 接続情報</p> <p>ユーザソースを設定すると、バンドルおよびポリシーオブジェクトをLDAPディレクトリに含まれているIDIに割り当てることができます。LDAPディレクトリに関する接続情報を入力してください。</p> <p>アドレス:* <input type="text"/></p> <p><input checked="" type="checkbox"/> SSLの使用</p> <p>ポート: <input type="text" value="636"/></p> <p>ルートLDAPコンテキスト: <input type="text"/> オプション <small>(例: dc=company,dc=com)</small></p> <hr/> <p style="text-align: center;"> <input style="border: none; background-color: #ccc; padding: 2px 10px;" type="button" value=" << 戻る "/> <input style="border: none; background-color: #ccc; padding: 2px 10px;" type="button" value=" 次 >> "/> <input style="border: none; background-color: #ccc; padding: 2px 10px;" type="button" value=" キャンセル "/> </p>
--

- 3 説明に従って、ユーザソースへの接続を作成します。

各ウィザードページの詳細については、[ヘルプ] ボタンをクリックするか、次の表を参照してください。

[ウィザード] ページ	詳細
[接続情報] ページ	<p>LDAP ディレクトリに接続するときに必要な情報を指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ アドレス : LDAP のディレクトリが存在するサーバの IP アドレスまたは DNS ホスト名を指定します。◆ SSL の使用 : デフォルトでは、このオプションは有効です。LDAP が SSL (Secure Socket Layer) プロトコルを使用していない場合は、オプションを無効にします。◆ ポート : このフィールドは、[SSL の使用] オプションが有効か無効かによって、SSL ポート (636) または非 SSL ポート (389) にデフォルト設定されます。LDAP サーバが異なるポートでリスンしている場合は、そのポート番号を選択します。◆ ルートコンテキスト : ルートコンテキストは、ユーザコンテナの参照を開始できるポイントをディレクトリ内に構築します。ルートコンテキストを指定することによって、ディレクトリ内の参照を少なくすることができますが、これを使用するかどうかはオプションです。ルートコンテキストを指定しない場合、ディレクトリのルートコンテナがエントリポイントとなります。
[アカウント情報] ページ	<p>ディレクトリにアクセスするためのユーザ名およびパスワードを指定します。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ ユーザ名 : ディレクトリに対して読み取り専用のアクセス権を持つユーザのユーザ名を指定します。ユーザには読み取り専用のアクセス権以上の権限を与えることができますが、読み取り専用のアクセス権が必要かつ推奨される権限です。 Novell eDirectory アクセスには、標準の LDAP 表記法を使用します。例： cn=admin_read_only,ou=users,o=mycompany Microsoft Active Directory には、標準のドメイン表記法を使用します。例： AdminReadOnly@mycompany.com◆ パスワード : [ユーザ名] フィールドで指定したユーザのパスワードを指定します。

ユーザソースとしてLDAP ディレクトリに接続すると、ディレクトリ内にある公開するコンテナを定義できます。定義するユーザコンテナの数は、ディレクトリをどれぐらい公開したいかに応じて決まります。次に例を示します。



Accounting、Sales、および Gtoupd のコンテナのみをエクスポートしたいとします。それらのユーザおよびグループへのアクセスを取得するには、次の2つのオプションがあります。

- ◆ MyCompany/EMEA をユーザコンテナとして追加できます。そうすることにより、サーバおよびサービスコンテナを含む、EMEA の下にあるすべてのコンテナがZENworks コントロールセンターで表示されます。EMEA コンテナにあるユーザおよびユーザグループのみ表示されますが(サーバおよびサービスは表示されません)、構造は公開されます。
- ◆ MyCompany/EMEA/Accounting を最初のユーザコンテナ、MyCompany/EMEA/Sales を2番目のユーザコンテナ、MyCompany/EMEA/Groups を3番目のユーザコンテナとして追加できます。これらのコンテナのみ、ZENworks コントロールセンターの MyCompany ディレクトリリファレンスの下のフォルダとして表示されます。

ユーザがいるコンテナを追加するには、次の手順に従います。

1. [追加] をクリックして、[ユーザコンテナの追加] ダイアログボックスを表示します。
2. [コンテキスト] フィールドで  をクリックして、目的のコンテナを参照して選択します。
3. [表示名] フィールドで、ZENworks コントロールセンターでユーザコンテナを表示するのに使用される名前を指定します。
4. [OK] をクリックしてコンテナをリストに追加します。

18.3 ユーザソースの削除

ソースを削除すると、ソースのユーザに対するすべての割り当ておよびメッセージが削除されます。ソースの削除は元に戻すことはできません。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルでユーザソースの隣にあるチェックボックスをオンにし、[削除] をクリックします。
- 3 [OK] をクリックして、削除を確認します。

18.4 ユーザソースからのコンテナの追加

管理ゾーンでユーザソースを定義した後は、そのソースからいつでもコンテナを追加できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [ユーザソース] パネルで、[ユーザソース] をクリックします。

The screenshot shows the configuration page for a user source named 'TREE67'. The 'General' section includes fields for Name (TREE67), Directory Type (eDirectory), Communication Status (ON), Address (192.168.5.67), Port (636), SSL Usage (Yes), and User Name/Password (cn=admin,o=context). Below this is the 'User Containers' section, which contains a table with columns for 'Add', 'Switch', 'Delete', 'Rename', and 'Name'. The table lists two containers: 'コンテキスト' and '/TREE67/context', both with the name 'context'.

ユーザコンテナ					
	追加	置換	削除	リネーム	
<input type="checkbox"/>					名前
<input type="checkbox"/>					/TREE67/context context

- 3 [ユーザコンテナ] パネルで [追加] をクリックして [ユーザコンテナの追加] ダイアログボックスを表示し、次のフィールドに入力します。

コンテキスト: 追加するコンテナを参照して選択するには、 をクリックします。

表示名: ZENworks コントロールセンターに表示されるときに、ユーザコンテナ用に使用する名前を指定します。他のユーザコンテナの名前と同じ名前は使用できません。

- 4 [OK] をクリックし、ユーザコンテナを追加します。

コンテナ、およびそのユーザおよびユーザグループは、[ユーザ] ページで使用可能です。

18.5 LDAP 負荷分散および耐障害性の提供

ユーザソースのアクセス用に複数の LDAP サーバがある場合は、各 LDAP サーバがわかるように、ZENworks サーバを設定できます。これによって、負荷分散と耐障害性が提供されます。

たとえば、複数の ZENworks サーバがある場合、各 ZENworks サーバが異なる LDAP サーバを介してユーザソースをアクセスするように設定できます。これによって、LDAP サーバ間のワークロードの配布がより均等になります。

同様に、ZENworks サーバごとに、ユーザソースに接続するための複数の LDAP ソースのリストを表示できます。LDAP サーバの 1 つが使用できなくなると、ZENworks サーバは、別の LDAP サーバを使用します。

ZENworks サーバに追加の LDAP サーバを定義するには、次の手順に従います。

- 1 alt-servers.properties.sample ファイルを alt-servers.properties と呼ばれる新しいファイルにコピーします。このファイルは、ZENworks サーバ上の次のディレクトリにあります。
 - ◆ c:\program files\novell\zenworks\conf\datamodel\authsource(Windows の場合)
 - ◆ /etc/opt/novell/zenworks/datamodel/authsource(Linux の場合)

- 2 alt-servers.properties ファイルを、ユーザソース名と、このファイルのアクセスに使用できる LDAP サーバのリストを含むように変更します。

ファイルには、次に示すように、エントリのフォーマットに関する指示が含まれています。

```
# Sample alt-servers.properties file.
#
# The alt-servers.properties file allows you to configure how this server
will connect to a particular user source.
# When connecting to a LDAP user source, ZENworks will try to connect to
the servers in the order listed in this file.
# This allows for fail-over to other LDAP servers and for load
distribution, if different ZENworks Primary Servers are
# configured with the server addresses in a different order.
#
# * The [user-source-name] must exactly match how the user source name
appears on the configuration page in ZCC.
# * You must specify the LDAP port along with each server address.
# * SSL is configured for the entire user source, not for each individual
server. You must specify either the
#   SSL port or the clear text port for all servers, depending on how the
user source is configured in ZCC.
# * If the server-list.properties file contains an entry for a user source,
ZENworks will not try to connect to the
#   server address configured in ZCC. It only tries the addresses listed in
the properties file.
# * If you create or modify the server-list.properties file, you will need
to restart the Novell ZENworks Server and
#   Novell ZENworks Loader services for it to take effect.
# * Performance will be impacted if one or more of the servers at the top
of the list are down, as ZENworks attempts to
#   connect to the servers in order. This is particularly true of the CASA
authentication token service, which is
#   contacted when a user tries to log in to ZENworks on a workstation.
#
# Format:
#
# [user-source-name]=\
#   [host1]:[port] \
#   [host2]:[port] \
#   [host3]:[port]
#
# Example:
#
MY_EDIR_TREE=\
  edir1.novell.com:636 \
  edir2.novell.com:636 \
  edir3.novell.com:636 \
  edir4.novell.com:636
```

- 3 ZENworks サーバを再起動します。
- 4 追加の LDAP サーバを定義する ZENworks サーバごとに、**ステップ 1** から **ステップ 3** までを繰り返します。

ユーザの認証

次のセクションでは、ZENworks® 管理ゾーンに対するユーザの認証の詳細について説明します。

- ◆ 167 ページのセクション 19.1 「ユーザソースの認証」
- ◆ 167 ページのセクション 19.2 「アカウント情報のストレージ」
- ◆ 168 ページのセクション 19.3 「ZENworks ユーザ認証の無効化」
- ◆ 168 ページのセクション 19.4 「ユーザ認証のトラブルシューティング」

19.1 ユーザソースの認証

デフォルトでは、管理ゾーンのユーザソースとして定義された LDAP ディレクトリ (Novell® eDirectory™ または Microsoft* Active Directory) にユーザがログインしたとき、ユーザは管理ゾーンに対して自動的に認証されます。ユーザの LDAP ディレクトリ (またはユーザの LDAP ディレクトリコンテキスト) が ZENworks でユーザソースとして定義されている場合、ZENworks に対するユーザ認証が発生します。

ZENworks Adaptive Agent は Windows ログインまたは Novell ログインクライアントと統合し、ユーザにシングルログインを提供します。ユーザが Windows または Novell クライアントで eDirectory または Active Directory のアカウント情報を入力した場合、ユーザのアカウント情報が ZENworks ユーザソースのもとの一致すると、管理ゾーンにログインします。そうでない場合、別の [ZENworks ログイン] 画面で、正しいアカウント情報の入力がユーザに求められます。

たとえば、あるユーザが2つのディレクトリツリー Tree1 と Tree2 でアカウントを持っているとします。Tree1 は、管理ゾーンのユーザソースとして定義されていますが、Tree2 は定義されていません。そのユーザが Tree1 にログインすると、自動的に管理ゾーンにログインします。一方、そのユーザが Tree2 にログインした場合は、Adaptive Agent のログイン画面が表示され、Tree1 のアカウント情報を入力するよう求められます。

注：生体認証デバイスまたはスマートカードを使用する認証はサポートされていません。

19.2 アカウント情報のストレージ

ZENworks は、シングルサインオンを有効にするために、Novell CASA (Common Authentication Services Adapter) を使用します。ZENworks Adaptive Agent が、Microsoft クライアント、Novell クライアント、または [ZENworks ログイン] 画面で入力されたアカウント情報を使用して、管理ゾーンに対してユーザを認証するとき、ユーザのデバイスの安全な CASA ボールトにユーザ名およびパスワードが保存されます。

ZENworks Adaptive Agent とともに、CASA がインストールされます。これには、ストレージボールト内の資格情報の管理に使用されるインタフェースとして、CASA マネージャが含まれます。CASA マネージャは、[スタート] > [プログラムグループ] > [Novell CASA] メニューから利用できます。一般的に、ユーザまたはデバイスのユーザは CASA マネージャを使用する必要がありません。ユーザのアカウント情報は、LDAP ディレクトリで変更された場合、ユーザの次回ログイン時に CASA ストレージボールト内で

更新されます。CASA マネージャを実行すると、GTK# ライブラリをインストールするよう要求されます。(CASA マネージャの実行に必要な) ライブラリのインストールを選択した場合は、インストール元である Novell Web サイトが表示されます。

管理対象デバイスから CASA を削除しないでください。CASA マネージャをユーザに表示しないようにする場合は、[スタート] > [プログラムファイル] メニューから [Novell CASA] フォルダを削除できます。

19.3 ZENworks ユーザ認証の無効化

デフォルトでは、ユーザソースが定義されている場合、Microsoft クライアントまたは Novell クライアントを使用してユーザがログインしようとするたびに、ZENworks 管理ゾーン、ZENworks Adaptive Agent は、ゾーンのユーザを認証しようとします。

必要に応じて、そのゾーンへのユーザ認証を無効にできます。たとえば、何人かのユーザはデバイス割り当て済みコンテンツのみを受信するようにできます。こうすることにより、それらのユーザはそのゾーンにログインできないため、オーバーヘッドがかかりません。

ゾーンに対するユーザ認証を無効にするには、次の手順に従います。

- 1 ユーザのデバイス上のレジストリで次のキーを見つけます。

HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Novell\ZENworks\ZenLgn

- 2 (条件付き) ログインを無効にする場合、次の DWORD 値を追加します。

値の名前: DisablePassiveModeLogin

値のデータ: 0 以外のすべての値 (1、2、3、100 など)

ログインが無効になっている場合、Microsoft クライアントまたは Novell クライアントを介してユーザがログインしたときに、管理ゾーンに対する認証は行われません。

- 3 (条件付き) Microsoft クライアントまたは Novell クライアントからのログインが失敗した場合に表示される ZENworks のログインプロンプトを無効にするには、次の DWORD 値を追加します。

値の名前: DisablePassiveModeLoginPrompt

値のデータ: 0 以外のすべての値 (1、2、3、100 など)

通常 Adaptive Agent は、Microsoft クライアントまたは Novell クライアントで入力されたアカウント情報を使用して、ゾーンに対してユーザを認証しようとします。ログインが失敗した場合、ユーザが別のアカウント情報を使用して認証を受けることができるように、ZENworks のログインプロンプトが表示されます。この値の設定により、ZENworks のログインプロンプトが無効になります。

19.4 ユーザ認証のトラブルシューティング

このセクションでは、いくつかのユーザ認証関係の問題について説明します。認証時に発生する可能性のある他の問題をトラブルシューティングしたい場合は、Novell サポートナレッジベース (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) にある TID 3273870 を参照してください。

- ◆ 169 ページの「ZENworks のログイン画面に、不正なユーザ名が表示される」
- ◆ 169 ページの「ZENworks サーバにログインできない」

- ◆ 169 ページの「同時に多数のクライアントがログインしている場合、ログインに失敗する可能性がある」
- ◆ 170 ページの「Windows 2003、Windows XP、Windows Vista のデバイス上でデバッグログを有効にするには？」
- ◆ 170 ページの「CASA デバッグログを有効にするには？」
- ◆ 170 ページの「ZENworks サーバ上のユーザソースへのログインが遅い」
- ◆ 171 ページの「Windows Vista デバイスへのログイン時に、ZENworks サーバにログインできない」

ZENworks のログイン画面に、不正なユーザ名が表示される

説明： デフォルトでは、[ZENworks ログイン] 画面の [ユーザ名] オプションにより、Windows のローカルユーザ名が表示されます。

考えられる原因： ユーザのフルネームのみを変更した場合（[マイコンピュータ] > [管理] > [システムツール] > [ローカルユーザとグループ] > [氏名]）、[ZENworks ログイン] 画面には、新しいフルネームではなく古いユーザ名が表示されます。

アクション： ローカルユーザのアカウントの詳細を変更するには、ユーザ名およびユーザのフルネームの両方を変更する必要があります。

- 1 デスクトップで、[スタート] メニュー > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。
- 2 [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで、「control userpasswords2」と入力し、[OK] をクリックします。
- 3 ユーザ名をダブルクリックし、ユーザの [ユーザ名] と [フルネーム] の両方を編集します。
- 4 [OK] をクリックします。

ZENworks サーバにログインできない

考えられる原因： OES 2.0 サーバにインストールされた eDirectory のアカウントを持つユーザが、OES 2.0 以外の ZENworks サーバにログインしようとしています。

アクション： OES 2.0 以外の ZENworks サーバにログインするには、ユーザが LUM (Linux User Management) ユーザである必要があります。LUM ユーザの詳細については、[Novell Linux User Management Technology Guide \(http://www.novell.com/documentation/oes2/acc_linux_svcs_lx/index.html?page=documentation/oes2/acc_linux_svcs_lx/data/fbdecbed.html\)](http://www.novell.com/documentation/oes2/acc_linux_svcs_lx/index.html?page=documentation/oes2/acc_linux_svcs_lx/data/fbdecbed.html) を参照してください。

同時に多数のクライアントがログインしている場合、ログインに失敗する可能性がある

説明： サーバがサポートできる同時クライアント接続数の最大値は、設定されている Connector acceptCount に依存します。同時に行われるクライアント要求の数が、Connector acceptCount の値を超えると、サーバが接続を許可できないため、クライアントの接続要求が失敗する可能性があります。

アクション： サーバがサポートできるクライアントの接続要求数を増やします。

Windows サーバの場合：

- 1 管理者としてログインします。
- 2 `ZENworks_Install_path\share\ats\catalinabase\conf\server.xml` ファイルを開きます。
- 3 [ポート 2645 上の SSL Coyote HTTP//1.1 コネクタの定義] セクションで、Connector `acceptCount` の値を目的の値に変更します。値は 300 が最適です。
- 4 認証トークンサービスを再起動します。
 - 4a デスクトップで、[スタート] > [ファイル名を指定して実行] の順にクリックします。
 - 4b [ファイル名を指定して実行] ウィンドウで、「`service.msc`」と入力し、[OK] をクリックします。
 - 4c `CasaAuthTokenSvc` を再起動します。

Linux サーバの場合：

- 1 root としてログインします。
- 2 `/srv/www/casaats/conf/server.xml` ファイルを開きます。
- 3 [ポート 2645 上の SSL Coyote HTTP//1.1 コネクタの定義] セクションで、Connector `acceptCount` の値を目的の値に変更します。300 という値が最適です。
- 4 認証トークンサービスを再起動します。
 - 4a サーバのプロンプトで、`/etc/init.d/` に移動します。
 - 4b `casa_atstd restart` コマンドを実行します。

Windows 2003、Windows XP、Windows Vista のデバイス上でデバッグログを有効にするには？

アクション： ログを有効にするには、Novell サポートナレッジベース (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 3418069 を参照してください。

CASA デバッグログを有効にするには？

アクション： ログを有効にするには、Novell サポートナレッジベース (http://support.novell.com/search/kb_index.jsp) の TID 3418069 を参照してください。

ZENworks サーバ上のユーザソースへのログインが遅い

説明： 管理対象デバイスから ZENworks サーバのユーザソースへのログインに時間がかかることがあります。これはログインプロセスがデバイス更新を同期するからです。

アクション： ログインプロセスを高速化するには、次の手順を実行してログインプロセスを変更し、デバイスの更新を非同期に行うようにします。

- 1 レジストリエディタを開きます。

- 2 HKEY_LOCAL_MACHINE\Software\Novell\ZENworks に移動します。
- 3 ZENLoginUserRefreshAsync という名前の文字列を作成し、値に「TRUE」を設定します。
- 4 再度デバイスにログインします。

重要：デバイスを非同期に更新するようにログインプロセスを変更した場合、最新のポリシーがすぐに利用できない場合があります。この設定では、ポリシーの精度よりもログインパフォーマンスが優先されます。

Windows Vista デバイスへのログイン時に、ZENworks サーバにログインできない

説明： Novell SecureLogin がインストールされ、Active Directory がユーザーソースとして設定されている Windows Vista* デバイスにログインする場合は、ZENworks サーバに自動的にログインされません。

アクション： 次を実行します。

- 1 レジストリエディタを開きます。
- 2 HKLM\Software\Protocom\SecureLogin\ に移動します。
- 3 ForceHKLMandNoDPAPI と呼ばれる DWORD を作成し、値を 1 に設定します。
- 4 デバイスを再起動します。

ZENworks 製品のライセンス登録



このセクションには、ZENworks 製品の評価、アクティブ化、および非アクティブ化に関する情報が含まれています。

- ◆ [175 ページの第 20 章「ZENworks 製品のライセンス登録」](#)

ZENworks® 10 ファミリ製品には、次の機能が含まれています。

- ◆ ZENworks 10 Configuration Management
- ◆ ZENworks 10 Asset Management
- ◆ ZENworks 10 Patch Management
- ◆ Asset Inventory for UNIX/Linux

デフォルトでは、すべての製品がインストールされます。これにより、ライセンスキーを提供して製品をアクティブ化したり、またはライセンスをまだ購入していない製品を評価できます。ライセンス登録した製品または評価製品を、使用しなくなったら、非アクティブ化することもできます。次のセクションでは、製品ライセンスの管理について説明します。

- ◆ 175 ページのセクション 20.1 「製品の評価」
- ◆ 176 ページのセクション 20.2 「製品の有効期限の延長」
- ◆ 176 ページのセクション 20.3 「製品のアクティブ化」
- ◆ 176 ページのセクション 20.4 「製品の非アクティブ化」
- ◆ 177 ページのセクション 20.5 「変更可能なライセンス状態」
- ◆ 178 ページのセクション 20.6 「事前定義されたレポートの表示」

ライセンス情報を表示するために実行可能な他の操作については、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「ライセンスコマンド」を参照してください。

20.1 製品の評価

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、評価する製品をクリックします。
- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の評価/アクティブ化] オプションを選択します。



- 5 [使用評価] オプションを選択し、次に、[適用] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

ライセンス状態の変更については、177 ページのセクション 20.5 「変更可能なライセンス状態」を参照してください。

20.2 製品の有効期限の延長

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、評価する製品をクリックします。
- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の評価/アクティブ化] オプションを選択します。



- 5 [製品ライセンスキー] に延長した評価ライセンスキーを指定後、[適用] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

ライセンス状態の変更については、177 ページのセクション 20.5 「変更可能なライセンス状態」を参照してください。

20.3 製品のアクティブ化

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、アクティブ化する製品をクリックします。
- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の評価/アクティブ化] オプションを選択します。



- 5 [製品ライセンスキー] にライセンスキーを指定し、[Apply(適用)] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

ライセンス状態の変更については、177 ページのセクション 20.5 「変更可能なライセンス状態」を参照してください。

20.4 製品の非アクティブ化

- 1 ZENworks コントロールセンターにログインします。
- 2 [環境設定] タブをクリックします。
- 3 [製品ライセンス] パネルで、非アクティブ化する製品をクリックします。



- 4 [製品の起動] パネルで、[製品の非アクティブ化] オプションを選択します。
- 5 [適用] をクリックします。
- 6 [OK] をクリックします。

可能なライセンス状態の変更については、[177 ページのセクション 20.5「変更可能なライセンス状態」](#)を参照してください。

20.5 変更可能なライセンス状態

新しいライセンス状態への移行は、製品の現在のライセンス状態と、その前のライセンス状態によって異なります。状況に応じて製品の評価、アクティブ化、または非アクティブ化を選択できます。

次に例を示します。

- ◆ 現在非アクティブ化されている製品は、評価、評価延長、またはアクティブの状態に移行できます。
- ◆ 評価から非アクティブ化の状態に移行した製品は、アクティブ、評価、または評価延長の状態に移行できます。

表 20-1 ZENworks 製品のライセンス状態の変更

以前のライセンス状態	現在のライセンス状態	新しいライセンス状態	追加情報
	非アクティブ化	評価	製品の評価期間は 60 日です。
	非アクティブ化	評価延長	製品の評価期間は 120 日です。
	非アクティブ化	アクティブ	
	評価	評価延長	残りの評価期間に 60 日が追加されます。
	評価	アクティブ	
	評価	非アクティブ化	
	アクティブ	非アクティブ化	
評価	非アクティブ化	アクティブ	
評価	非アクティブ化	評価	残りの評価期間が与えられます。たとえば、製品を 10 日間の評価期間で使用した後に非アクティブ化し、次に、製品を再度評価することを選択した場合は、50 日間の評価期間を取得します。

以前のライセンス状態	現在のライセンス状態	新しいライセンス状態	追加情報
評価	非アクティブ化	評価延長	残りの評価期間に 60 日が追加されます。
評価延長	非アクティブ化	評価延長	残りの評価期間が与えられます。
評価延長	非アクティブ化	アクティブ	
アクティブ	非アクティブ化	アクティブ	

20.6 事前定義されたレポートの表示

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks レポートングサーバをインストールしておく必要があります。ZENworks レポートングサーバのインストール方法については、『ZENworks 10 Asset Management レポートングサーバインストールガイド』を参照してください。

ライセンス登録の事前定義レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks レポートングサーバの [レポートング] パネルで、[ZENworks レポートングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポートングサーバ InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] > [Predefined Reports] > [ZENworks System] の順にナビゲートします。
- 4 ライセンスに関する次の事前定義レポートが含まれています。

ZENworks License Information: 管理ゾーン内のすべてのデバイスにインストールされている Asset Inventory for UNIX/Linux、ZENworks Configuration Management、および ZENworks Asset Management のライセンスの詳細を表示します。製品のライセンスステータス、ライセンスの有効期限、ライセンスを保持しているサーバに接続している管理対象デバイスとインベントリデバイスの数、管理対象ユーザの数などの情報を表示できます。

レポートの作成と管理の詳細は、『ZENworks 10 Asset Management システムレポートングリファレンス』を参照してください。

データベース管理

VI

Novell® ZENworks® 10 Management では、zman コマンドラインユーティリティを使用して、組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップおよび復元することができます。リモート Sybase SQL Anywhere、Oracle*、または Microsoft SQL Server* の各データベースのバックアップおよび復元については、それらデータベースのマニュアルを参照してください。

重要： ZENworks データベースをホストしている ZENworks サーバをバックアップする場合は、ZENworks サーバのバックアップ (1 回のみ必要) 前に ZENworks データベースを少なくとも 1 回はバックアップしておく必要があります。ZENworks データベースは定期的にバックアップすることもできます。ただし、サーバとデータベースは任意の順番でバックアップすることができます。

ZENworks サーバおよび ZENworks データベースを復元する場合は、まず、ZENworks サーバを復元し、次に、最後にバックアップした ZENworks データベースを復元する必要があります。ZENworks サーバのバックアップおよび復元の詳細については、[93 ページの第 9 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」](#)を参照してください。

ZENworks 10 Management を使用すると、Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースにデータをマイグレートすることもできます。

詳細については、次のセクションを参照してください。

- ◆ [181 ページの第 21 章「組み込みデータベースの保守」](#)
- ◆ [203 ページの第 22 章「外部データベースの保守」](#)

- 181 ページのセクション 21.1「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報の取得と保存」
- 182 ページのセクション 21.2「組み込み Sybase SQL Anywhere データベースによって使用されるポートの変更」
- 183 ページのセクション 21.3「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ」
- 188 ページのセクション 21.4「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」
- 190 ページのセクション 21.5「組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動」
- 192 ページのセクション 21.6「外部 O E M Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへのデータの移動」
- 194 ページのセクション 21.7「組み込み Sybase SQL Anywhere から外部 Oracle データベースへのデータのマイグレート」

21.1 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報の取得と保存

ZENworks にバンドルされた組み込み Sybase SQL Anywhere データベースを含む ZENworks 10 Management をインストールした場合は、今後の使用のためにデータベースの資格情報を保存しておくことをお勧めします。

- 1 サーバプロンプトに次のいずれかのコマンドを入力して、組み込み Sybase SQL Anywhere データベースの資格情報を取得できます。

```
zman database-get-credentials
```

または

```
zman dgc
```

資格情報がコンソール上に表示されます。

zman の詳細については、サーバの zman マニュアル (man zman) ページを表示するか、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

- 2 資格情報をコピーし、ファイルに保存しておきます。

リモート Sybase SQL Anywhere データベース、Oracle データベース、または Microsoft SQL Server データベースの資格情報の取得と保存については、各データベースのマニュアルを参照してください。

21.2 組み込み Sybase SQL Anywhere データベースによって使用されるポートの変更

デフォルトでは、Sybase SQL Anywhere はポート 2638 を使用します。データベースが実行されるポートを変更できます。

- 1 zenworks_database.conf ファイルで、サーバがリスンする新規ポート番号を指定します。
zenworks_database.conf ファイルは、Windows の場合は %ZENWORKS_HOME%\conf、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks にあります。

- 2 すべてのプライマリサーバ上にある zdm.xml ファイルの次のエントリで、新規ポート番号を指定します。

```
<entry key="Port">2638</entry>
```

デフォルトでは、デフォルトのポート番号である 2638 がエントリに一覧表示されません。

zdm.xml ファイルは、Windows の場合は %ZENWORKS_HOME%\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります。

- 3 (条件付き) ZENworks レポーティングサーバがプライマリサーバにインストールされている場合、新規ポート番号を ODBC データ情報に追加します。

- ◆ **Windows サーバの場合** : 次を実行します。

1. デスクトップの [スタート] メニューの [設定] をクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。次に、[ODBC データソース] をダブルクリックします。

[ODBC データソースアドミニストレータ] ウィンドウが表示されます。

2. [システム DSN] タブをクリックします。
 3. [ZENworks データストア] をダブルクリックします。
- [ODBC 環境設定] ウィンドウが表示されます。

4. [ネットワーク] タブをクリックします。
5. [ネットワークプロトコルおよびオプションの選択] パネルで、TCP/IP ポート番号の値 (デフォルトでは 2638) を、zenworks_database.conf で指定したポート番号 (ステップ 1 で指定した新しい番号) に変更します。

- ◆ **Linux サーバの場合** /opt/novell/zenworks/share/boe/bobje/odbc.ini ファイルで、TCP/IP の値を zenworks_database.conf で指定したポート番号 (ステップ 1 で指定した新しい番号) に変更します。

- 4 すべてのプライマリサーバで、データベースサービス、zenserver、および ZENLoader サービスを再起動します。

- ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア]、[Novell ZENworks ロードサービス]、および [Novell ZENworks サーバ] のサービスを再起動します。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、指定された順序で次のコマンドを入力します。
 - ◆ /etc/init.d/novell-zenmtr stop
 - ◆ /etc/init.d/novell-zenserver stop
 - ◆ /etc/init.d/novell-zenloader stop
 - ◆ /etc/init.d/sybase-asa restart
 - ◆ /etc/init.d/novell-zenserver start
 - ◆ /etc/init.d/novell-zenloader start
 - ◆ /etc/init.d/novell-zenmtr start

TCP ポートおよび UDP ポートが 2638 から変更されたとしても、データベースサーバは UDP ポート 2638 もリスンします。詳細については、[Sybase データベースのマニュアル \(http://www.ianywhere.com/developer/product_manuals/sqlanywhere/1001/en/html/dbdaen10/daserverport-network-conparm.html\)](http://www.ianywhere.com/developer/product_manuals/sqlanywhere/1001/en/html/dbdaen10/daserverport-network-conparm.html) を参照してください。

21.3 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースのバックアップ

組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースは、ローカルマシンまたはネットワークロケーションのディレクトリにバックアップできます。

- ◆ 183 ページのセクション 21.3.1 「Windows サーバまたは Linux サーバ上にある、組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップする」
- ◆ 185 ページのセクション 21.3.2 「Windows サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Windows マシン上のネットワークロケーションリモートにバックアップする」
- ◆ 186 ページのセクション 21.3.3 「Linux サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする」

21.3.1 Windows サーバまたは Linux サーバ上にある、組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをバックアップする

- 1 コマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、ZENworks の管理者名およびパスワードを保存します。

```
zman admin-store-credential administrator
```

アカウント情報を保存しない場合、各 zman コマンドの ZENworks の管理者名およびパスワードを入力する必要があります。

組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを直ちにバックアップしたり、特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールすることができます。組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをすぐにバックアップするには、**ステップ 2**に進みます。特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールするには、**ステップ 3**に進んでください。

- 2 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースをデータベースサーバ上のディレクトリにすぐにバックアップするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

`zman database-backup complete_path_of_the_backup_directory_on_database_server`

たとえば、Windows データベースサーバ上の `c:\dbbackup` ディレクトリにデータベースをバックアップするには、`zman database-backup c:\dbbackup` を実行します。Linux データベースサーバ上の `/root/dbBackup` ディレクトリにデータベースをバックアップするには、`zman database-backup /root/dbBackup` を実行します。

- 3 毎日または特定の日付の、特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールするには、スケジュールファイルを作成して実行する必要があります。

- 3a 次のコンテンツを使用して、スケジュールファイル `backupschedule.sql` を作成します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name
SCHEDULE
specify_the_schedule
```

毎日午後 11 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup
SCHEDULE
START TIME '11:00 PM' EVERY 24 HOURS
```

その月の第 1 日、第 2 日、第 3 日、および第 4 日の午前 1 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup1
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM'
ON (1,2,3,4)
```

サンプルのスケジュールファイルは、Windows サーバの場合は `ZENworks_Installation_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database` ディレクトリ、Linux サーバの場合は `/opt/novell/zenworks/share/zman/samples/database` ディレクトリにあります。

- 3b コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup complete_path_of_the_backup_directory c:\backUpSchedule.sql -d
SQL_function_call
```

たとえば、Windows サーバ上の `c:\dbbackup\day_of_the_week` ディレクトリにデータベースをバックアップするには、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup c:\dbbackup c:\backUpSchedule.sql -d "DAYNAME(today())"
```

このコマンドの詳細については、デバイスの `zman` マニュアルページ (`man zman`) を表示するか、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「`zman(1)`」を参照してください。

- 4 コマンドプロンプトで次のコマンドを入力して、ステップ 1 で保存したアカウント情報をクリアします。

```
zman admin-clear-credential
```

バックアップスケジュールに従って、`zenworks_zone_name.db` データベースファイルと `zenworks_zone_name.log` トランザクションログファイルがデータベースのバックアップディレクトリに作成されます。

21.3.2 Windows サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Windows マシン上のネットワークロケーションリモートにバックアップする

Windows サーバ上にインストールされて実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、別の Windows マシンのネットワークロケーションにバックアップするには、ローカルマシンとリモートマシンが必要です。ローカルマシンは、ZENworks サーバコンポーネントおよび組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースがインストールされた Windows サーバです。リモートマシンは、データベースをバックアップするネットワークロケーションを持つ Windows マシンです。

- 1 ローカルマシンで次のステップを実行します。
 - 1a 管理者ユーザを作成し、パスワードを指定します。

たとえば、Administrator という管理ユーザ名と、novell というパスワードを指定できます。
 - 1b デスクトップの [スタート] メニューの [設定] をクリックし、[コントロールパネル] をクリックします。次に、[管理ツール] をダブルクリックし、[サービス] をダブルクリックします。
 - 1c [Novell ZENworks データストア] サービスを右クリックし、次に、[プロパティ] をクリックします。
 - 1d [ログオン] タブをクリックします。
 - 1e [このアカウント] を選択し、次に、**ステップ 1a** で作成した管理者ユーザの名前およびパスワードを指定します。

たとえば、ユーザを Administrator に指定し、パスワードを novell に指定します。
 - 1f [OK] をクリックします。
- 2 バックアップを保存するネットワークロケーションがあるリモートマシンで、次のステップを実行します。
 - 2a **ステップ 1a** で作成したユーザと同じアカウント情報を持つアカウントを作成します。

たとえば、ユーザを Administrator に指定し、パスワードを novell に指定します。
 - 2b ネットワークロケーション上での読み込み / 書き込み権限をユーザに提供します。

データベースをすぐにバックアップするには、**ステップ 3** に進みます。毎日または特定の日付の、特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールするには、**ステップ 4** に進んでください。
- 3 リモートマシン上のネットワークロケーションに、データベースをすぐにバックアップするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup \\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory\custom_directory
```

ここで、\\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory は、リモートマシン上のネットワークロケーションであり、custom_directory_name は、zman で新規作成し、データベースファイルをバックアップするディレクトリに指定する名前です。
- 4 バックアップをスケジュールするには、次の手順に従います。
 - 4a 次のコンテンツを使用して、スケジュールファイル backupschedule.sql を作成します。

```
CREATE EVENT backup_schedule_name
```

```
SCHEDULE
```

```
specify_the_schedule
```

毎日午後 11 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup
```

```
SCHEDULE
```

```
START TIME '11:00 PM' EVERY 24 HOURS
```

その月の第 1 日、第 2 日、第 3 日、および第 4 日の午前 1 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup1
```

```
SCHEDULE
```

```
START TIME '1:00 AM'
```

```
ON (1,2,3,4)
```

サンプルのスケジュールファイルは、`ZENworks_Installation_directory\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database` ディレクトリにあります。

4b コマンドプロンプトで次のコマンドを実行します。

```
zman database-backup \\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory\custom_directory  
c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

ここで、`\\IP_address_of_the_remote_machine\backup_directory` は、リモートマシン上のネットワークロケーションであり、`custom_directory_name` は、zman で新規作成し、データベースファイルをバックアップするディレクトリに指定する名前です。

このコマンドの詳細については、デバイス上の zman マニュアルページ (`man zman`) を見るか、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

バックアップスケジュールに従って、`zenworks_zone_name.db` および `zenworks_zone_name.log` が、リモートマシン上のネットワークロケーションに作成されます。バックアップされたデータベースは、`zenworks_zone_name.db` に保存されます。データベースのバックアップの結果は、`zenworks_zone_name.log` にログインされます。

21.3.3 Linux サーバ上で実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、リモート Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップする

Linux サーバにインストールされて実行されている組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースを、Linux マシン上のネットワークロケーションにバックアップするには、ローカルマシンおよびリモートマシンが必要です。ローカルマシンは、ZENworks サーバコンポーネントおよび組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースがインストールされた Linux サーバです。リモートマシンは、データベースのバックアップ先となるネットワーク上の Linux マシンです。詳細については、188 ページのセクション 21.4「組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」を参照してください。

1 次の手順に従って、リモートマシンに Samba 共有を作成します。

- 1a コマンドプロンプトで `useradd user_name` コマンドを入力して、ユーザを作成します。

- 1b** **ステップ 1a** で作成したユーザ名を持つリモートマシンにログインし、`passwd specify_the_password` コマンドを使用してパスワードを設定します。
- 1c** データベースのバックアップを保存するためのディレクトリを作成します。
たとえば、`backup` という名前のディレクトリを作成します。
- 1d** `yast2 samba-server` コマンドを実行して、Samba サーバの設定を開きます。
- 1e** [共有] タブをクリックし、[追加] をクリックし、**ステップ 1c** で作成したバックアップディレクトリに対する共有名およびパスを指定します。
たとえば、共有名を `dbbackup` に指定します。
- 1f** [dbbackup] 共有を選択し、[編集] をクリックし、次の属性を追加します。
- ◆ `create mask = 0640`
 - ◆ `force user = user_name_created_in_ ステップ 1a`
 - ◆ `guest ok = yes`
 - ◆ `public = yes`
 - ◆ `wide links = no`
 - ◆ `writable = yes`
- 2** ローカルマシンにディレクトリを作成します。
たとえば、`/root` に `zenworks_dbbackup` という名前のディレクトリを作成します。
- 3** コマンドプロンプトで次のコマンドを入力し、ローカルマシン上の `zenworks_dbbackup` ディレクトリで Samba 共有をマウントします。
- ```
mount -t smbfs //IP_address_of_the_remote_machine/share_name -o
username=user_name_specified_in_Step1a,password=password_specified_in_Step_1b
local_directory_name_with_complete_path_created_in_Step2
```
- 例を次に示します。
- ```
mount -t smbfs //IP_address_of_the_remote_machine/dbbackup -o
username=user_name_specified_in_Step1a,password=password_specified_in_Step_1b /root/
zenworks_dbbackup
```
- データベースをすぐにバックアップするには、**ステップ 4** に進みます。毎日または特定の日付の、特定の時間に実行するようバックアップをスケジュールするには、**ステップ 5** に進んでください。
- 4** リモートマシン上のネットワークロケーションに、データベースをすぐにバックアップするには、コマンドプロンプトで次のコマンドを入力します。
- ```
zman database-backup database_backup_directory
```
- 例を次に示します。
- ```
zman database-backup /root/zenworks_dbbackup
```
- 5** 次の手順に従って、バックアップをスケジュールします。
- 5a** 次のコンテンツを使用して、スケジュールファイル `backupschedule.sql` を作成します。
- ```
CREATE EVENT backup_schedule_name
SCHEDULE
specify_the_schedule
```

毎日午後 11 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup
SCHEDULE
START TIME '11:00 PM' EVERY 24 HOURS
```

その月の第 1 日、第 2 日、第 3 日、および第 4 日の午前 1 時にデータベースをバックアップするサンプルスケジュールファイルは、次のとおりです。

```
CREATE EVENT ZENDBBackup1
SCHEDULE
START TIME '1:00 AM'
ON (1,2,3,4)
```

サンプルのスケジュールファイルは、ZENworks\_Installation\_directory:\Novell\Zenworks\share\zman\samples\database ディレクトリにあります。

**5b** コマンドプロンプトで、次のコマンドを入力します。

```
zman database-backup database_backup_directory c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

例を次に示します。

```
zman database-backup /root/zenworks_dbbackup c:\backUpSchedule.sql -d SQL_function_call
```

このコマンドの詳細については、デバイスの zman マニュアルページ (man zman) を表示するか、『ZENworks 10 Asset Management コマンドラインユーティリティリファレンス』の「zman(1)」を参照してください。

バックアップスケジュールに従って、zenworks\_zone\_name.db および zenworks\_zone\_name.log が、リモートマシン上のネットワークロケーション (/root/zenworks\_dbbackup) に作成されます。バックアップされたデータベースは、zenworks\_zone\_name.db に保存されます。データベースのバックアップの結果は、zenworks\_zone\_name.log にログインされます。

## 21.4 組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元

次のセクションでは、バックアップされた組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元に関する情報について説明します。

- ◆ 189 ページのセクション 21.4.1 「Windows サーバでの組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」
- ◆ 189 ページのセクション 21.4.2 「Linux サーバ上の組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元」

---

**重要：**データベースが ZENworks サーバ上にある場合は、まず、ZENworks Server を復元し、次に、ZENworks データベースを復元する必要があります。ZENworks サーバとデータベース (少なくとも 1 回) をバックアップしたことを確認します。ZENworks データベースは定期的にバックアップすることもできます。ただし、サーバとデータベースは任意の順番でバックアップすることができます。ZENworks サーバのバックアップおよび復元の詳細については、93 ページの第 9 章「ZENworks サーバおよび認証局のバックアップと復元」を参照してください。

---

## 21.4.1 Windows サーバでの組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元

- 1 Windows サーバのプロンプトで、`ZENworks_Installation_directory:\novell\zenworks\bin` に移動し、次のコマンドを入力します。

```
ZenworksWindowsDBRestore.bat ZENworks_Installation_directory:\Novell\Zenworks\Database
c:\dbBackup\zenworks_zone_name.db c:\dbBackup\zenworks_zone_name.log
```

- 2 次のメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

```
Before proceeding, make sure you have backed up any files in:<Installation
directory>:\Novell\ZENworks\database Press any key to continue.
```

- 3 次のメッセージが表示されたら、「Y」と入力します。

```
The following services are dependent on the Novell ZENworks Datastore
service. Stopping the Novell ZENworks Datastore service will also stop
these services: Novell ZENworks Loader, Novell ZENworks Agent Service,
Novell ZENworks Server. Do you want to continue this operation? (Y/N) [N]:
```

- 4 次のメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

```
The Novell ZENworks Datastore service was stopped successfully. Press any
key to continue...
```

- 5 次のメッセージが表示されたら、「Yes」と入力します。

```
Overwrite <installation
directory>:\Novell\ZENworks\database\zenworks_<zone_name>.db? (Yes/No/
All)
```

- 6 次のメッセージが表示されたら、「Yes」と入力します。

```
Overwrite <installation
directory>:\Novell\ZENworks\database\zenworks_<zone_name>.log? (Yes/No/
All):
```

backupFile および backupLogFile が、`ZENworks_Installation_directory:\Novell\ZENworks\database` にコピーされ、データベースが復元されます。

- 7 (条件付き) `zenworks_installation_directory\novell\zenworks\database\conf\zenworks_database.conf` ファイルに記載された以外の場所にデータベースを復元する場合、`zenworks_database.conf` を手動で編集してデータベースの新しい場所を指定します。

## 21.4.2 Linux サーバ上の組み込みの Sybase SQL Anywhere データベースの復元

- 1 ZENworks サーバに root としてログインします。

- 2 `/opt/novell/zenworks/bin` に変更し、次のコマンドを入力します。

```
/ZenworksLinuxDBRestore.sh -F "/root/dbBackup/zenworks_zone_name.db"
```

- 3 次のメッセージが表示されたら、「Y」と入力します。

```
The backup database file will OVERWRITE the existing database. Is that OK?
[y/n]
```

- 4 次のメッセージが表示されたら、「Y」と入力します。

The novell-zenloader needs to be stopped for the database restore to be performed. Would you like to proceed [y/n]?

バックアップファイルが /var/opt/novell/zenworks/database にコピーされ、復元ログファイルが /var/opt/novell/log/zenworks/dbrestore.log にコピーされます。データベースが復元されました。

## 21.5 組み込み Sybase データベースから外部 Sybase データベースへのデータの移動

ZENworks 10 Management では、Sybase SQL Anywhere データベース (組み込み Sybase データベース) から、OEM Sybase データベース (外部 Sybase データベース) へ、データを移動できます。

- ◆ 190 ページのセクション 21.5.1 「データの移動の準備」
- ◆ 190 ページのセクション 21.5.2 「内部の Sybase から外部の Sybase へのデータの移動」

### 21.5.1 データの移動の準備

内部 Sybase データベースから外部 Sybase データベースにデータを移動する前に、次の操作を行います。

- ◆ Windows デバイスまたは Linux デバイス上に、内部 Sybase データベースとともに、ZENworks 10 Management がインストールされていることを確認してください。
- ◆ 外部 Sybase データベースをインストールします。外部 Sybase データベースのインストール方法の詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。

### 21.5.2 内部の Sybase から外部の Sybase へのデータの移動

- 1 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを中止します。

- ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択してツールバー上の [■] をクリックします。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」と入力します。

- 2 内部 Sybase データベースがインストールされているデバイスから、zenworks\_database.conf および database ディレクトリ内のすべてのファイルを、外部 Sybase データベースがあるデバイス上の適切なディレクトリにコピーします。

zenworks\_database.conf は、Windows の場合は ZENworks\_installation\_path\conf\ ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。

database ディレクトリは、Windows の場合は ZENworks\_installation\_path ディレクトリ、Linux の場合は /var/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。

- 3 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、`zenworks_database.conf` を開き、データベースファイルの正しいパスが含まれていることを確認してください。
- 4 内部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、`zdm.xml` を編集します。(Windows の場合は `ZENworks_installation_path\conf\datamodel`、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` にあります)。
  - ◆ Embedded エントリキーの値を `false` に変更します。デフォルトでは、これは `true` です。
  - ◆ Server エントリキーの値を、外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスの IP アドレスに設定します。
  - ◆ Port エントリキーの値が、外部 Sybase データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
- 5 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを開始します。
  - ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
    2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
    3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックし、[スタート] をクリックするか、または [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択します。次に、ツールバーで  をクリックします。
  - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「`/etc/init.d/.sybase-asa start`」と入力します。
- 6 内部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
  - ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
    2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
    3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。
  - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
    - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenmtr restart`
    - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenserver restart`
    - ◆ `/etc/init.d/.novell-zenloader restart`

ZENworks サーバは、新しいデータベースを指しています。

## 21.6 外部 OEM Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへのデータの移動

ZENworks 10 Management では、OEM Sybase データベース ( 外部 Sybase データベース ) から、ZENworks サーバにインストールされている Sybase SQL Anywhere データベース ( 組み込み Sybase データベース ) へ、データを移動できます。

- ◆ 192 ページのセクション 21.6.1 「データの移動の準備」
- ◆ 192 ページのセクション 21.6.2 「外部 Sybase から組み込み Sybase へのデータの移動」

### 21.6.1 データの移動の準備

外部 Sybase データベースから組み込み Sybase データベースへデータを移動する前に、次の操作を行います。

- ◆ Windows デバイスまたは Linux デバイス上に、外部 OEM Sybase データベースとともに、ZENworks 10 Management がインストールされていることを確認してください。
- ◆ 組み込み Sybase データベースを ZENworks サーバにインストールします。外部 Sybase データベースのインストール方法の詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。

組み込み Sybase データベースのインストール時には、[Sybase アクセス設定] ページの設定中に次の点を考慮する必要があります。

- ◆ データベース名は、外部 Sybase データベースの名前と同じにしても、一意の名前にしても構いません。
- ◆ ユーザ名とパスワードは、外部 Sybase データベースのものと同じにする必要があります。
- ◆ データベースのサーバ名は、一意にする必要があります。

### 21.6.2 外部 Sybase から組み込み Sybase へのデータの移動

1 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、次の操作を行います、

1a Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを停止します。

- ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
  1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
  2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
  3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリック します。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」 と入力 します。

**1b** database ディレクトリのコンテンツを削除します。

database ディレクトリは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

**2** 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを中止します。

◆ **Windows の場合** : 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択してツールバー上の ■ をクリックします。

◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「`/etc/init.d/.sybase-asa stop`」と入力します。

**3** 外部 Sybase データベースがインストールされているデバイスから、database ディレクトリ内のすべてのファイルを、組み込み Sybase データベースを含む ZENworks サーバの該当するディレクトリにコピーします。

database ディレクトリは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/` ディレクトリにあります。

**4** 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、`zenworks_database.conf` を開き、データベースファイルの正しいパスが含まれていることを確認してください。

**5** 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、`zdm.xml` を編集します (Windows の場合は `ZENworks_installation_path\conf\datamodel`、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` にあります)。

◆ 次のエントリを追加します。

```
<entry key="Embedded">true</entry>
```

- ◆ Server エントリキーの値を 127.0.0.1 (組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバの IP アドレス) に設定します。
- ◆ Port エントリキーの値が、組み込み Sybase データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
- ◆ Engine エントリキーの値を、組み込みデバイスのインストール時に指定したデータベースサーバ名に設定します。
- ◆ (オプション) 組み込み Sybase データベースのインストール時に一意のデータベース名を指定した場合は、Database エントリキーの値をその一意のデータベース名に設定します。

**6** 組み込み Sybase データベースがインストールされている ZENworks サーバで、ZENworks サービスを再起動します。

◆ **Windows の場合** : 次を実行します。

1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。

2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
  3. 次のサービスを開始します :Novell ZENworks サーバ、Novell ZENworks Services Monitor、Novell ZENworks 組み込みデータストア、および Datastorell ZENworks エージェントサービス
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmtr restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart
    - ◆ /etc/init.d/.sybase-asa restart

ZENworks サーバは、新しいデータベースを指しています。

## 21.7 組み込み Sybase SQL Anywhere から外部 Oracle データベースへのデータのマイグレート

ZENworks 10 Management では、ZENworks プライマリサーバ上で実行されている内部組み込み Sybase SQL Anywhere データベースまたは外部 Sybase SQL Anywhere データベースから、ZENworks 10 Management がインストールされていないデバイス上にインストールされている Oracle データベースにデータをマイグレートできます。

---

**重要** : ZENworks レポーティングサーバがデバイスにインストールされている場合は、データベースのマイグレート後、レポーティングサーバは動作しません。レポーティングサーバが動作するには、データベースマイグレート後に Oracle クライアントをインストールしたプライマリサーバに、ZENworks レポーティングサーバを再度インストールする必要があります。詳細については、[198 ページのセクション 21.7.3 「マイグレーション後のタスク」](#)を参照してください。

---

データベースをマイグレートするには、次を参照してください。

- ◆ [194 ページのセクション 21.7.1 「データの移動の準備」](#)
- ◆ [196 ページのセクション 21.7.2 「Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート」](#)
- ◆ [198 ページのセクション 21.7.3 「マイグレーション後のタスク」](#)
- ◆ [199 ページのセクション 21.7.4 「データベースのマイグレーションのトラブルシューティング」](#)
- ◆ [201 ページのセクション 21.7.5 「Sybase データベースへ戻す」](#)

### 21.7.1 データの移動の準備

Sybase データベースから Oracle データベースへデータをマイグレートする前に、次を実行してください。

- ◆ ZENworks 10 Management のライセンス状態がアクティブであることを確認します。この製品は、ライセンスバージョンか評価バージョンのいずれかでインストールおよび実行される必要があります。

- ◆ report-save (rpsv) (宛先フォルダ) コマンドを使用して、すべてのレポート、rights.xml、および ownership.xml を保存します。XML ファイルには、すべてのレポートの権限と所有権の詳細が含まれています。
- ◆ Sybase データベースが設定されているプライマリサーバが、ZENworks 10 Management にアップグレードされていることを確認します。
- ◆ ZENworks プライマリサーバに、内部または外部の Sybase データベースがインストールされていることを確認します。
- ◆ ZENworks 10 Management がインストールされていないデバイスに、Oracle データベースがインストールされていることを確認してください。
- ◆ USERS 表領域に ZENworks データベーススキーマを作成して保存するのに十分な領域があることを確認します。表領域には、データの入っていない ZENworks データベーススキーマを作成するのに最低 100 MB と、マイグレートされるデータベースのサイズに応じて適切な追加の領域が必要です。データベースのマイグレーションユーティリティは、デフォルトで USERS 表領域のみを使用します。マイグレーション時にその他の表領域を手動で指定することはできません。
- ◆ データベースプロンプトで、次のクエリを実行することにより、NLS\_CHARACTERSET パラメータが AL32UTF8 に設定され、NLS\_NCHAR\_CHARACTERSET パラメータが AL16UTF16 に設定されていることを確認します。

```
select parameter, value from nls_database_parameters where parameter like '%CHARACTERSET%';
```

- ◆ (条件付き) 新しいユーザスキーマを作成してデータベースをマイグレートする場合は、次の要件を満たしていることを確認してください。
  - ◆ データベース管理者の資格情報を知っている必要があります。
  - ◆ Oracle のアクセスユーザに関連付けるための表領域がすでに存在している必要があります。
- ◆ ネットワーク内のサーバ上にある既存のユーザスキーマを使用して、次のシナリオでデータベースのマイグレートを選択できます。
  - ◆ データベース管理者が必要な権限を持つユーザスキーマを作成し、ZENworks 管理者は、そのユーザスキーマ用の資格情報をデータベース管理者から受け取ります。この場合、データベースをマイグレートするのにデータベース管理者の資格情報は必要ありません。
  - ◆ Oracle データベース内でユーザスキーマを作成し、データベースのマイグレーション時にそれを使用します。

既存のユーザスキーマを使用してデータベースをマイグレートする場合は、次の追加の要件を満たしているか確認します。

- ◆ ユーザスキーマにデータベースを作成する次の権限があることを確認します。

```
CREATE SESSION
CREATE_TABLE
CREATE_VIEW
CREATE_PROCEDURE
CREATE_SEQUENCE
CREATE_TRIGGER
```

- ◆ USERS 表領域上で、ユーザスキーマのクォータが無制限に設定されていることを確認します。

- ◆ 管理ゾーン内のすべてのサーバで実行されている ZENworks サービスを、手動で中止します。

サービスを中止するには、

- ◆ **Windows の場合** 次を実行します。
  1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
  2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
  3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを中止します。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
  - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmtr stop
  - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver stop
  - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader stop
- ◆ プライマリサーバ上の Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスが実行されていることを確認してください。
  - ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
    2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
    3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスのステータスは、[開始済み] である必要があります。
  - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa status」と入力します。
- ◆ (オプション) データベースマイグレーションの状態は、novell-zenworks-configure.log ファイルにログされます。デフォルトでは、Info (情報) および Severe (重度) のタイプのメッセージのみログされます。他のメッセージタイプ (たとえば、Finer (より良い)、Finest (最高)、および Warning (警告) など) もファイルにログしたい場合は、novell-zenworks-configure.properties ファイルで次のことを行います。
  1. Logger.logLevel の値を適切なメッセージタイプに設定します。  
たとえば、Finest (最高) のタイプをログする場合には、次のように設定します。  
#Logger.logLevel = FINEST
  2. 次のように「#」を外して、非コメント化します。  
Logger.logLevel = FINEST

novell-zenworks-configure.properties ファイルは、Windows の場合は %ZENWORKS\_HOME%\conf\、Linux の場合は、/etc/opt/novell/zenworks/ にあります。

## 21.7.2 Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート

- ◆ [197 ページの「Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート」](#)
- ◆ [197 ページの「データベースのマイグレーションの再開」](#)

## Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート

- 1 194 ページのセクション 21.7.1 「データの移動の準備」に一覧表示されているすべてのタスクが完了していることを確認してください。
- 2 データベースのマイグレーションユーティリティを実行します。
  - ◆ **Windows の場合** : コマンドプロンプトで `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイルに移動し、次のコマンドを入力します。  
`novell-zenworks-configure.bat -c DBMigrateConfigureAction`
  - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin` に移動し、次のコマンドを入力します。  
`novell-zenworks-configure -c DBMigrateConfigureAction`
- 3 ターゲットデータベースのタイプとして、**Oracle** を入力します。
- 4 Oracle データベースサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。
- 5 Oracle データベースサーバによって使用されるポートを入力します。
- 6 Oracle データベースの完全修飾ネットサービス名を入力します。
- 7 新しいユーザスキーマを作成するか、既存のユーザスキーマを使用するか選択できます。  
新しいユーザスキーマを作成する場合は、**ステップ 8** を続行します。  
既存のユーザスキーマを使用する場合は、**ステップ 9** へスキップします。
- 8 データベースサーバの管理者のユーザ名およびパスワードを入力します。
- 9 データベースのユーザ名の入力求められたら、スキーマ名を入力します。
- 10 データベースユーザのパスワードの入力が求められたら、データベーススキーマのパスワードを入力します。  
データベースのマイグレーションを開始します。
- 11 データベースのマイグレーションが終了したら、`novell-zenworks-configure.log` ファイルをチェックして、マイグレーションが正常に行われたかを確認できます。ログファイルは、Windows の場合は、`%ZENWORKS_HOME%\log\`、Linux の場合は、`/var/opt/novell/log/zenworks/` にあります。
- 12 データベースが正常にマイグレートされた後に、198 ページのセクション 21.7.3 「マイグレーション後のタスク」に進みます。

### データベースのマイグレーションの再開

何らかの理由でデータベースのマイグレーションが停止した場合、`dbmigration.xml` ファイルが作成されていれば、ZENworks マイグレーションユーティリティを使用してマイグレーションを再開できます。ファイルは、Windows の場合は `ZENworks_installtion_path\bin` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリにあります。

- 1 データベースのマイグレーションユーティリティを実行します。
  - ◆ **Windows の場合** : コマンドプロンプトで `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイルに移動し、次のコマンドを入力します。  
`novell-zenworks-configure.bat -c DBMigrateConfigureAction`

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、`/opt/novell/zenworks/bin` に移動し、次のコマンドを入力します。

```
novell-zenworks-configure -c DBMigrateConfigureAction
```

- 2 ターゲットデータベースのタイプとして、**Oracle** を入力します。
- 3 **Oracle** データベースサーバの IP アドレスまたはホスト名を入力します。  
データベースをマイグレートする際には、使用する **Oracle** データベースサーバの IP アドレスまたはホスト名を指定する必要があります。たとえば、データベースをマイグレートする際にデータベースサーバの IP アドレスを指定した場合は、データベースのマイグレーションを再開する場合にそれと同じ IP アドレスを指定する必要があります。データベースサーバのホスト名は指定できません。
- 4 **Oracle** データベースサーバによって使用されるポートを入力します。
- 5 **Oracle** データベースの完全修飾ネットサービス名を入力します。
- 6 既存のスキーマの使用を選択します。
- 7 データベースのマイグレーションを停止する前に指定したデータベースのユーザ名の入力が必要とされたら、スキーマ名を入力します。
- 8 データベースのマイグレーションを停止する前に指定したデータベースユーザのパスワードの入力が求められたら、データベーススキーマのパスワードを入力します。
- 9 データベースのマイグレーションの再開を選択します。  
データベースのマイグレーションを開始します。
- 10 データベースが正常にマイグレートされた後に、**198 ページのセクション 21.7.3 「マイグレーション後のタスク」**に進みます。

### 21.7.3 マイグレーション後のタスク

管理ゾーンに 1 つのサーバしかない場合、**Oracle** データベースにデータが正常にマイグレートされた後に、すべての **ZENworks** サービスが自動的に開始されます。

管理ゾーンに複数のサーバがある場合は、次の操作を行います。

- 1 マイグレーションユーティリティを実行するデバイスで、すべてのサーバの適切なディレクトリに次のファイルをコピーします。

```
zdm.xml
```

```
dmaccounts.properties
```

```
dmmappings.properties
```

ファイルは、**Windows** の場合は、`ZENworks_installation_path\conf\datamodel` ディレクトリ、**Linux** の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` ディレクトリにあります。

- 2 **ZENworks** サービスを再起動します。
  - ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
    1. **Windows** デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
    2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
    3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。

- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmnr restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart
- 3 Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへの ZENworks レポートのマイグレート :**
- 3a** ZENworks レポーティングサーバのインスタンスを持たないプライマリサーバに、Oracle クライアントをインストールします。
  - 3b** ZENworks レポーティングサーバの新しいインスタンスを、Oracle クライアントがインストールしてあるデバイスにインストールします。
  - 3c** レポーティングサーバの新しいインスタンスが実行されているデバイスに、レポートをコピーします。これらは、マイグレートする前に保存した ZENworks レポートです。詳細については、[194 ページのセクション 21.7.1 「データの移動の準備」](#)を参照してください。
  - 3d** 次のコマンドを使用して、レポートを発行し、レポーティング権限およびレポートの所有権の詳細を復元します。
 

```
zman rpld path_of_directory_containing_rights.xml_and_ownership.xml
```
  - 3e** データベースのマイグレート前にインストールされていた ZENworks レポーティングサーバのインスタンスをアンインストールします。

ZENworks サーバは、新しいデータベースを指しています。

Oracle 10g データベースの場合、ユーザソースのログイン名も含め、管理者名の大文字と小文字が区別されます。インストール中に自動作成されたデフォルトの ZENworks 管理者アカウントでは最初の文字に大文字を使用しているため、ZENworks コントロールセンターにログインするときには Administrator と入力する必要があります。

## 21.7.4 データベースのマイグレーションのトラブルシューティング

- ◆ [199 ページの 「Java ヒープ領域例外のトラブルシューティング」](#)
- ◆ [200 ページの 「Oracle データベースのクラッシュのトラブルシューティング」](#)
- ◆ [200 ページの 「Oracle テーブルスペース問題のトラブルシューティング」](#)
- ◆ [201 ページの 「データベースマイグレーション失敗問題のトラブルシューティング」](#)
- ◆ [201 ページの 「既存のユーザスキーマの使用によるデータベースマイグレーションのトラブルシューティング」](#)

### Java ヒープ領域例外のトラブルシューティング

メモリ不足により、データベースマイグレーション時に Java ヒープ領域の例外が発生した場合は、次の操作を行います。

- 1** Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイル、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure` を編集し、マイグレーションユーティリティが実行されているデバイスの RAM に応じて、次の行のヒープ領域の値を変更します。

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -Djava.library.path=%ZENLIB% -cp "%MYCP%"
%DEBUG_OPTS% %JAVA_OPTS% -Xmx128m
com.novell.zenworks.configure.ConfigureLoader %CONFIG_OPTS%
```

ヒープ領域の値は、-Xmx128m 以内のメガバイト (MB) で表されます。デフォルトでは、128 です。

たとえば、デバイスの RAM が 512 MB である場合、novell-zenworks-configure.bat ファイルの行を次のように更新できます。

```
"%JAVA_HOME%\bin\java" -Djava.library.path=%ZENLIB% -cp "%MYCP%"
%DEBUG_OPTS% %JAVA_OPTS% -Xmx512m
com.novell.zenworks.configure.ConfigureLoader %CONFIG_OPTS%
```

---

**重要：** ヒープ領域の値は、デバイスの RAM 以下である必要があります。

---

- 2 コンソールのプロンプトで、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイル、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure` を実行します。
- 3 表示される指示に従います。

マイグレーションの再開に必要なファイルの場所の入力を求められたら、DBMigration.xml の完全パスを入力します。ファイルは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリにあります。

XML ファイルには、テーブルが正常にマイグレートされたかどうかを示すテーブルおよびフラグのリストが含まれています。データベースマイグレーションの再開時に、フラグの値が `False` に設定されているテーブルのみがマイグレートされます。

## Oracle データベースのクラッシュのトラブルシューティング

データベースのマイグレーション中に Oracle データベースがクラッシュした場合：

- 1 コンソールのプロンプトで、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin\novell-zenworks-configure.bat` ファイル、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin/novell-zenworks-configure` を実行します。
- 2 表示される指示に従います。

マイグレーションの再開に必要なファイルの場所の入力を求められたら、DBMigration.xml の完全パスを入力します。ファイルは、Windows の場合は `ZENworks_installation_path\bin` ディレクトリ、Linux の場合は `/opt/novell/zenworks/bin` ディレクトリにあります。

XML ファイルには、テーブルが正常にマイグレートされたかどうかを示すテーブルおよびフラグのリストが含まれています。データベースマイグレーションの再開時に、フラグの値が `False` に設定されているテーブルのみがマイグレートされます。

---

**重要：** DBMigration.xml のコンテンツは編集しないでください。

---

## Oracle テーブルスペース問題のトラブルシューティング

Oracle の USERS 表領域に ZENworks データベーススキーマを作成し保存するのに十分な領域がない場合は、表を作成しようとすると、次のメッセージが表示されてデータベースのマイグレーションが失敗します。

```
SEVERE: Terminating the database migration...
SEVERE: An error has occurred while migrating the database.
```

この問題を解決するには、Oracle データベースの管理者が **USERS** 表領域のサイズを増やす必要があります。データの入っていない **ZENworks** データベーススキーマを作成するのに最低 100 MB と、マイグレートされるデータベースのサイズに応じて適切な追加の領域が表領域に存在することを確認してください。

### データベースマイグレーション失敗問題のトラブルシューティング

`NLS_CHARACTERSET` パラメータが `AL32UTF8` に設定されておらず、`NLS_NCHAR_CHARACTERSET` パラメータが `AL16UTF16` に設定されていない場合、データベースのマイグレーションが失敗し、次のエラーメッセージが表示されます。

```
Failed to run the sql script: localization-updater.sql,
message:Failed to execute the SQL command: insert into
zLocalizedMessage(messageid,lang,messagestr)
values('POLICYHANDLERS.EPE.INVALID_VALUE_FORMAT','fr','La stratÃ©gie {0} n'a
pas pu Ãªtre appliquÃ©e du fait qu' la valeur de la variable "{1}" n'est pas
dans un format valide. '),
message:ORA-00600: internal error code, arguments: [ktfbbsearch-7], [8], [],
[], [], [], [], []
```

この問題を解決するには、`NLS_CHARACTERSET` パラメータを `AL32UTF8` に設定し、`NLS_NCHAR_CHARACTERSET` パラメータを `AL16UTF16` に設定します。文字セットパラメータが推奨値で設定されたことを確認するには、データベースプロンプトで、次のクエリを実行します。

```
select parameter, value from nls_database_parameters where parameter like
'%CHARACTERSET%';
```

### 既存のユーザスキーマの使用によるデータベースマイグレーションのトラブルシューティング

既存のユーザスキーマを使用してデータベースをマイグレートする場合、データベースマイグレーションユーティリティは、**ZENworks** データベースを作成しますが、データのマイグレートに失敗する可能性があります。

この問題を解決するには、次の操作を行います。

- 1 新しく作成された **ZENworks** データベースから、データベース管理者が **ZENworks** のテーブル、ビュー、およびユーザシーケンスを削除するようにしてください。その後、`user_recyclebin` データベーステーブルをクリアします。
- 2 同じユーザスキーマを使用して、データベースのマイグレーションを再度開始します。詳細については、[197 ページの「Sybase SQL Anywhere データベースから Oracle データベースへのデータのマイグレート」](#)を参照してください。

## 21.7.5 Sybase データベースへ戻す

Sybase データベースの使用に戻す場合は、次の手順に従います。

- 1 マイグレーションユーティリティを実行するデバイスで、次のファイルの名前を変更します。

```
zdm.xml.bak to zdm.xml
```

dmaccounts.properties.bak to dmaccounts.properties  
dmmappings.properties.bak to dmmappings.properties

ファイルは、Windows の場合は、ZENworks *installation\_path*\conf\datamodel ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel ディレクトリにあります。

**2** すべての ZENworks サービスを再起動します。

- ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
  1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
  2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
  3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
  - ◆ /etc/init.d/novell-zenmnr restart
  - ◆ /etc/init.d/novell-zenserver restart
  - ◆ /etc/init.d/novell-zenloader restart

# 外部データベースの保守

- 203 ページのセクション 22.1「ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへデータを移動する」
- 205 ページのセクション 22.2「別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」
- 206 ページのセクション 22.3「別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する」

## 22.1 ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースへデータを移動する

ZENworks 10 Management では、ある OEM Sybase データベース ( 外部 Sybase データベース ) から、別の外部 Sybase データベースにデータを移動できます。

- 203 ページのセクション 22.1.1 「データの移動の準備」
- 203 ページのセクション 22.1.2「ある外部の Sybase から別の外部の Sybase へのデータの移動」

### 22.1.1 データの移動の準備

ある外部 Sybase データベースから別の外部 Sybase データベースにデータを移動する前に、次の操作を行います。

- Windows デバイスまたは Linux デバイス上に、外部 Sybase データベースとともに、ZENworks 10 Management がインストールされていることを確認してください。このデータベースから、別の外部データベースにデータが移動しました。
- 外部 Sybase データベースがインストールされている、別の Windows デバイスまたは Linux デバイスがあるようにしてください。外部 Sybase データベースのインストール方法の詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。

### 22.1.2 ある外部の Sybase から別の外部の Sybase へのデータの移動

次の手順では、データの移動元のデバイスを EDB1、データの移動先のデバイスを EDB2 とします。

- 1 データの移動元の EDB1 デバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを停止します。
  - **Windows の場合 :** 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。

2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
  3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックして [中止] をクリックするか、[Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択してツールバー上の [■] をクリックします。
    - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa stop」と入力します。
- 2** EDB1 デバイスから、zenworks\_database.conf および database ディレクトリ内のすべてのファイルを、EDB2 デバイス上にある適切なディレクトリにコピーします。
- zenworks\_database.conf は、Windows の場合は ZENworks\_installation\_path\conf\ ディレクトリ、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。
- database ディレクトリは、Windows の場合はデフォルトで ZENworks\_installation\_path ディレクトリ、Linux の場合は /var/opt/novell/zenworks/ ディレクトリにあります。
- 3** EDB2 デバイスで、zenworks\_database.conf を開き、データベースファイルの正しいパスが含まれていることを確認してください。
  - 4** EDB1 デバイスで、zdm.xml を編集します (Windows の場合は ZENworks\_installation\_path\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります)。
    - ◆ Server エントリキーの値を、EDB2 デバイスの IP アドレスに設定します。
    - ◆ Port エントリキーの値が、EDB2 デバイスが実行されているポート番号であることを確認しします。
  - 5** EDB2 デバイスで、Novell ZENworks 組み込みデータストアサービスを開始します。
    - ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
      1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
      2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
      3. [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを右クリックし、[スタート] をクリックするか、または [Novell ZENworks 組み込みデータストア] サービスを選択します。次に、ツールバーで [■] をクリックします。
    - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、「/etc/init.d/.sybase-asa start」と入力します。
  - 6** EDB1 デバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
    - ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
      1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
      2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
      3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。
    - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
      - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmtr restart
      - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
      - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

ZENworks サーバは、新しいデータベース (EDB2) を指しています。

## 22.2 別の MS SQL データベースから移動されたデータが含まれている新しい MS SQL データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する

ある MS SQL データベースから別の MS SQL データベースにデータを移動する場合、新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する必要があります。

次のセクションでは、詳細情報について説明します。

- ◆ 205 ページのセクション 22.2.1 「データの移動の準備」
- ◆ 205 ページのセクション 22.2.2 「新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する」

### 22.2.1 データの移動の準備

新しい MS SQL データベースを指すようにサーバを設定する前に、次の操作を行います。

- ◆ ZENworks 10 Management が、MS SQL データベースとともに、(Windows または Linux 上に) インストールされていることを確認します。このデータベースから、別の MS SQL データベースにデータがマイグレートされました。このデバイが MSDB1 と呼ばれているとします。
- ◆ MS SQL データベースがインストールされている別の Windows デバイスがあるようにしてください。このデバイが MSDB2 と呼ばれているとします。MS SQL データベースのインストール方法の詳細については、『ZENworks 10 Asset Management インストールガイド』の「外部 ZENworks データベースのインストール」を参照してください。
- ◆ MSDB1 から MSDB2 へのデータの移動の詳細については、MS SQL データベースのマニュアルを参照してください。

### 22.2.2 新しい MS SQL データベースを指すように ZENworks サーバを設定する

新しいデータベース (MSDB2) を指すように ZENworks サーバを設定するには、次の手順に従います。

- 1 MSDB1 デバイスで、zdm.xml (Windows の場合は `ZENworks_installation_path\conf\datamodel`、Linux の場合は `/etc/opt/novell/zenworks/datamodel` にあります) を編集し、次の操作を行います。
  - ◆ Port エントリキーの値が、MS SQL データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
  - ◆ Server エントリキーの値を、MSDB2 デバイスの IP アドレスに設定します。
  - ◆ Database エントリキーの値を、MSDB2 デバイスのデータベースディレクトリのパスに設定します。
- 2 MSDB1 デバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
  - ◆ **Windows の場合:** 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。

2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
  3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。
- ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmnr restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart

## 22.3 別の Oracle データベースから移動されたデータが含まれている新しい Oracle データベースを指すように、ZENworks サーバを設定する

ある Oracle データベースから別の Oracle データベースにデータを移動する場合、新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する必要があります。

次のセクションでは、詳細情報について説明します。

- ◆ [206 ページのセクション 22.3.1 「データの移動の準備」](#)
- ◆ [207 ページのセクション 22.3.2 「新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する」](#)

### 22.3.1 データの移動の準備

新しい Oracle データベースを指すようにサーバを設定する前に、次の操作を行います。

- ◆ ZENworks 10 Management が、Oracle データベースとともに、(Windows または Linux 上に) インストールされていることを確認します。このデータベースから、別の Oracle データベースにデータがマイグレートされました。このデバイスが ORDB1 と呼ばれているとします。
- ◆ ORDB1 と同じデータベース資格情報で Oracle データベースがインストールされた別な Windows デバイスがあることを確認します。このデバイスが ORDB2 と呼ばれているとします。Oracle データベースのインストール方法の詳細については、『[ZENworks 10 Asset Management インストールガイド](#)』の「[外部 ZENworks データベースのインストール](#)」を参照してください。
- ◆ ORDB1 から ORDB2 にデータを移動します。データの移動の詳細については、Oracle データベースのマニュアルを参照してください。

## 22.3.2 新しい Oracle データベースを指すように ZENworks サーバを設定する

新しい Oracle データベース (ORDB2) を指すように ZENworks サーバを設定するには、次の手順に従います。

- 1 ORDB1 デバイスで、zdm.xml (Windows の場合は *ZENworks\_installation\_path*\conf\datamodel、Linux の場合は /etc/opt/novell/zenworks/datamodel にあります) を編集し、次の操作を行います。
  - ◆ Port エントリキーの値が、Oracle データベースが実行されているポート番号であることを確認してください。
  - ◆ Server エントリキーの値を、ORDB2 デバイスの IP アドレスに設定します。
  - ◆ Database エントリキーの値を、ORDB2 デバイスにインストールされた Oracle データベースのネットサービス名に設定します。
- 2 ORDB1 デバイスで、ZENworks サービスを再起動します。
  - ◆ **Windows の場合** : 次を実行します。
    1. Windows デスクトップの [スタート] メニューで、[設定] > [コントロールパネル] の順にクリックします。
    2. [管理ツール] > [サービス] の順にダブルクリックします。
    3. [Novell ZENworks サーバ]、[Novell ZENworks Services Monitor]、および [Novell ZENworks エージェントサービス] のサービスを開始します。
  - ◆ **Linux の場合** : コンソールのプロンプトで、次のコマンドを入力します。
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenmtr restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenserver restart
    - ◆ /etc/init.d/.novell-zenloader restart



# ゾーン管理

# VII

このセクションには、広範なゾーン機能を制御できる管理ゾーン環境設定に関する情報が含まれています。

- ◆ [211 ページの第 23 章「管理ゾーンの環境設定の変更」](#)



# 管理ゾーンの環境設定の変更

# 23

管理ゾーンの環境設定によって、ゾーンの機能を広い範囲で制御できます。デバイス管理設定では、デバイスが更新された情報を確認するために ZENworks サーバにアクセスする頻度、動的グループの更新頻度、およびどのレベルのメッセージ（情報、警告、またはエラー）を ZENworks Adaptive Agent で記録するかを制御することができます。インベントリ、ディスカバリおよび展開設定、その他さまざまな設定があります。

環境設定はカテゴリにグループ化されます。

- ◆ 211 ページのセクション 23.1 「環境設定のアクセス」
- ◆ 213 ページのセクション 23.2 「デバイス管理の設定」
- ◆ 214 ページのセクション 23.3 「検出と展開の設定」
- ◆ 214 ページのセクション 23.4 「イベントとメッセージング設定」
- ◆ 215 ページのセクション 23.5 「インフラ管理設定」
- ◆ 215 ページのセクション 23.6 「インベントリ設定」
- ◆ 216 ページのセクション 23.7 「レポートサービスの設定」
- ◆ 217 ページのセクション 23.8 「Asset Management 設定」

## 23.1 環境設定のアクセス

デバイスに適用する管理ゾーンの設定は、ゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。ゾーン設定は、デバイスフォルダまたは個々のデバイス上でゾーン設定を行うことで上書きできます。これにより、必要に応じて最多のデバイスに適用するゾーン設定を確立して、フォルダおよびデバイス状の設定を上書きすることができます。

デフォルトでは、ゾーンの設定は一般的な機能を提供する値を使用して事前に設定されています。ただし、使用している環境で必要な動作に適応するように設定を変更することができます。

- ◆ 211 ページのセクション 23.1.1 「ゾーンでの環境設定の変更」
- ◆ 212 ページのセクション 23.1.2 「フォルダの環境設定の変更」
- ◆ 212 ページのセクション 23.1.3 「デバイスでの環境設定の変更」

### 23.1.1 ゾーンでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] タブをクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、変更する設定の設定カテゴリ（[デバイス管理]、[ディスカバリと展開]、[イベントとメッセージング] など）をクリックします。
- 3 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 4 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックするか、次のセクションを参照してください。

- ◆ 213 ページの「デバイス管理の設定」

- ◆ 214 ページの「検出と展開の設定」
  - ◆ 214 ページの「イベントとメッセージング設定」
  - ◆ 215 ページの「インフラ管理設定」
  - ◆ 215 ページの「インベントリ設定」
  - ◆ 216 ページの「レポートサービスの設定」
  - ◆ 217 ページの「Asset Management 設定」
- 5 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用] ) をクリックして変更内容を保存します。
- 環境設定がデバイスに適用されると、設定がフォルダレベルまたはデバイスレベルで上書きされない限り、設定はゾーン内のすべてのデバイスに継承されます。

### 23.1.2 フォルダの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [デバイス] パネル ( [管理対象] タブ ) で、設定を変更するフォルダを参照します。
- 3 フォルダが見つかったら、フォルダ名の隣にある [詳細] をクリックしてフォルダの詳細を表示します。
- 4 [設定] タブをクリックします。
- 5 [設定] パネルで、変更する設定の設定カテゴリ (、[デバイス管理]、[インフラ管理] など ) をクリックします。
- 6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 7 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックするか、または次のセクションを参照してください。

- ◆ 213 ページの「デバイス管理の設定」
  - ◆ 214 ページの「検出と展開の設定」
  - ◆ 214 ページの「イベントとメッセージング設定」
  - ◆ 215 ページの「インフラ管理設定」
  - ◆ 215 ページの「インベントリ設定」
  - ◆ 216 ページの「レポートサービスの設定」
  - ◆ 217 ページの「Asset Management 設定」
- 8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用] ) をクリックして変更内容を保存します。
- 環境設定は、設定がサブフォルダまたは個別のデバイス上で上書きされない限り、サブフォルダに含まれるすべてのデバイスを含めフォルダ内のすべてのデバイスによって継承されます。

### 23.1.3 デバイスでの環境設定の変更

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] タブをクリックします。
- 2 [デバイス] パネル ( [管理対象] タブ ) で、設定を変更するデバイスを参照します。
- 3 デバイスを見つけたら、デバイス名をクリックして詳細を表示します。

- 4 [設定] タブをクリックします。
- 5 [設定] パネルで、変更したい設定の設定カテゴリ ( [デバイス管理]、[インフラ管理] など) をクリックします。
- 6 設定をクリックして、詳細ページを表示します。
- 7 必要に応じて、設定を変更します。

設定の詳細については、ZENworks コントロールセンターで [ヘルプ] ボタンをクリックするか、または次のセクションを参照してください。

- ◆ 213 ページの「[デバイス管理の設定](#)」
  - ◆ 214 ページの「[検出と展開の設定](#)」
  - ◆ 214 ページの「[イベントとメッセージング設定](#)」
  - ◆ 215 ページの「[インフラ管理設定](#)」
  - ◆ 215 ページの「[インベントリ設定](#)」
  - ◆ 216 ページの「[レポートングサービスの設定](#)」
  - ◆ 217 ページの「[Asset Management 設定](#)」
- 8 設定の変更が完了したら、[OK] (または [適用] ) をクリックして変更内容を保存します。

## 23.2 デバイス管理の設定

[デバイス管理] セクションには、次の設定が含まれています。

**ローカルデバイスのログ:** メッセージを管理対象デバイスのローカルドライブにログするように設定します。ログするメッセージの重大度のレベル、およびログファイルをバックアップするタイミングを決定できます。また、ZENworks コントロールセンターで表示するために、ZENworks サーバに送信されるメッセージの重大度のレベルも決定できます。詳細については、[ローカルデバイスのログ \(../resources/help/settings\\_syslocallogging.html\)](#) を参照してください。

**デバイスの更新スケジュール:** デバイスが、情報の更新のため、ZENworks サーバにコンタクトする頻度を指定します。また、一定の日数の間に ZENworks サーバに連絡しないデバイスにどのように対処するかも指定できます。詳細については、[デバイス更新スケジュール \(../resources/help/settings\\_sysrefreshsched.html\)](#) を参照してください。

**ZENworks Agent:** ZENworks Adaptive Agent 用のアンインストールおよびキャッシングの設定や、特定の Adaptive Agent モジュールの有効化または無効化を行います。詳細については、[ZENworks Agent \(../resources/help/settings\\_agent.html\)](#) を参照してください。

**登録:** 登録されているデバイスの命名方法、登録ルールが有効かどうか、および ZENworks コントロールセンター内のデバイスオブジェクトの登録情報が更新される際に名前を変更できるかどうかなどを含む、デバイスの登録時に使用される設定を制御します。詳細については、[登録 \(../resources/help/settings\\_registration.html\)](#) を参照してください。

**システム変数:** ZENworks コントロールセンターに情報を入力する際に、パス、名前、その他を置き換えるために使用できる変数を定義します。詳細については、[システム変数 \(../resources/help/settings\\_systemvariables.html\)](#) を参照してください。

**プライマリユーザ:** いつ、どのようにデバイスのプライマリユーザが計算されるかを決定します。詳細については、[プライマリユーザ \(../resources/help/settings\\_primaryuser.html\)](http://../resources/help/settings_primaryuser.html) を参照してください。

**プライマリワークステーション:** いつ、どのようにデバイスのプライマリワークステーションが計算されるかを決定します。[なし(計算しない)] オプションを選択して、計算を無効にすることもできます。詳細については、[プライマリワークステーション \(../resources/help/settings\\_primaryws.html\)](http://../resources/help/settings_primaryws.html) を参照してください。

**動的グループの更新スケジュール:** グループ内のメンバーシップを更新するために、動的グループの条件がデバイスに適用される頻度を決定します。動的グループ内のメンバーシップは、動的グループの基準をデバイスに適用することで決定されます。デバイスが基準を満たす場合は、グループに追加されます。動的グループに手動でデバイスを追加したり、動的グループからデバイスを削除したりすることはできません。詳細については、[動的グループの更新スケジュール \(../resources/help/settings\\_dynamicgroupschedule.html\)](http://../resources/help/settings_dynamicgroupschedule.html) を参照してください。

**Wake-on-LAN:** デバイスの起動を再試行する回数および再試行の間隔を設定します。詳細については、[Wake-on-LAN \(../resources/help/settings\\_wakeonlan.html\)](http://../resources/help/settings_wakeonlan.html) を参照してください。

## 23.3 検出と展開の設定

[検出と展開] セクションには、次の設定が含まれています。

**アドバタイズされた検出設定:** ZENworks システムが、ZENworks のプレエージェントがインストールされているネットワーク上のデバイスの検出を試行する頻度を指定します。詳細については、[アドバタイズされた検出設定 \(../resources/help/settings\\_discovery\\_advertised.html\)](http://../resources/help/settings_discovery_advertised.html) を参照してください。

**調査:** 一度に実行できる検出要求の最大数や検出に使用するテクノロジーなどを含む、検出プロセス時に使用される設定を制御します。また、WMI (Windows\* Management Instrumentation) および SNMP 検出技術で使用される IP と SNMP の設定も指定できます。詳細については、[検出 \(../resources/help/settings\\_discoverysettings.html\)](http://../resources/help/settings_discoverysettings.html) を参照してください。

**Windows プロキシ:** ZENworks サーバの代わりに検出と展開を実行を実行するためのゾーン内にある管理対象の Windows デバイスを指定します。これは、主に Linux 上で動作する ZENworks サーバが、WMI や WinAPI などの Windows 特有の検出技術を使用する検出タスク、および管理対象の Windows デバイスを使用する展開タスクの負担を減らすことができるように設計されています。詳細については、[Windows プロキシ \(../resources/help/settings\\_winproxysettings.html\)](http://../resources/help/settings_winproxysettings.html) を参照してください。

## 23.4 イベントとメッセージング設定

[イベントとメッセージング] セクションには、次の設定が含まれています。

**集中型のメッセージログ:** メッセージの自動クリーンアップ、電子メール通知、SNMP トラップ、および UDP 転送を含む、プライマリサーバによって実行されるメッセージログに関連する設定を行います。詳細については、[集中型のメッセージログ \(../resources/help/settings\\_syscentralizedlogging.html\)](http://../resources/help/settings_syscentralizedlogging.html) を参照してください。

**SMTP 設定** : 電子メール通知を ZENworks 管理者に送信するように SMTP サーバを設定します。詳細については、[SMTP 設定 \(../resources/help/settings\\_smtpsettings.html\)](#) を参照してください。

## 23.5 インフラ管理設定

[インフラ管理] セクションには、次の設定が含まれています。

**最密サーバのデフォルトのルール** : 最密のサーバルールが定義されていない場合や、いずれも適用されない場合に、最も近いコレクションサーバ、コンテンツサーバ、および設定サーバをデバイスが特定するために使用するルールを定義します。このルールは、デバイスにコンタクトさせたい順番にサーバを並べただけのリストです。リストにサーバを追加したり、リストからサーバを削除することはできません。詳細については、[最密サーバのデフォルトルール \(../resources/help/settings\\_closestserverdefaultrule.html\)](#) を参照してください。

**最密サーバルール** : ZENworks 管理ゾーンに複数のサーバが含まれる場合、デバイスがコレクション、コンテンツ、および設定機能に関してどのサーバに連絡するかを決定するために使用されるルールを作成します。詳細については、[最密サーバルール \(../resources/help/settings\\_closestserverrules.html\)](#) を参照してください。

**HTTP プロキシ設定** : 使用するプロキシサーバを定義します。プロキシサーバを使用すると、デバイスはそれを介して ZENworks サーバに間接的に接続できます。デバイスの ZENworks Adaptive Agent はプロキシサーバに接続し、その後、ZENworks サーバへリソースをリクエストします。プロキシは、ZENworks サーバに接続してリソースを提供するか、キャッシュからリソースを提供します。詳細については、[HTTP プロキシ設定 \(../resources/help/settings\\_httpproxy.html\)](#) を参照してください。

**システム更新設定** : 更新をチェックする頻度、ダウンロードスケジュールの指定、電子メール通知の設定などを含む、システム更新機能をどのように使用するかを設定します。詳細については、[システム更新設定 \(../resources/help/settings\\_systemupdate.html\)](#) を参照してください。

**ZENworks のニュース設定** : ZENworks ニュースをダウンロードするサーバとスケジュールを設定します。詳細は、「[ZENworks のニュース設定 \(../resources/help/settings\\_zenworksnews.html\)](#)」を参照してください。

## 23.6 インベントリ設定

[インベントリ] セクションには、次の設定が含まれています。

**インベントリ** : オンデマンドスキャン、初期スキャン、および繰り返しスキャンを含む、インベントリスキャンの設定を行います。スキャン実行時に省略するディレクトリを指定したり、ZENworks Knowledgebase に含まれていないソフトウェアアプリケーションを識別したりすることもできます。詳細については、[インベントリ \(../resources/help/settings\\_sysinventory.html\)](#) を参照してください。

**インベントリスケジュール** : スキャンが自動実行されないような指定、または日付指定、繰り返し、イベントドリブンスキャンなどの指定を含む、インベントリスキャンを実行するタイミングを指定します。詳細については、[インベントリスケジュール \(../resources/help/settings\\_sysinventoryschedule.html\)](#) を参照してください。

**コレクションデータフォーム**：デバイス向けにどのデモグラフィックデータ（ユーザの名前または電話番号、ユーザが所属する部署など）を収集するか設定します。詳細については、[コレクションデータフォーム \(../resources/help/settings\\_sysinventorycollectwizard.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventorycollectwizard.html) を参照してください。

**コレクションデータフォームのスケジュール**：コレクションデータフォームの送信方法を設定します。通常のインベントリスキャンの一部としてスケジュールしたり、「デバイスのクイックタスク」を使用したり、「コレクションデータフォームのスケジュール」を使用したりすることができます。詳細については、[コレクションデータフォームのスケジュール \(../resources/help/settings\\_sysinventorywizardschedule.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventorywizardschedule.html) を参照してください。

**インベントリのみ**：ZENworks Adaptive Agent はインストールされていないものの、インベントリモジュールがインストールされているゾーン内で、デバイス用のインベントリスキャン設定を行います。このタイプのスキャンは、Windows NT、Windows 95、Windows 98、Windows Me、NetWare、および Mac OS\* X で動作するデバイスに対して役立ちます。詳細については、[インベントリのみ \(../resources/help/settings\\_sysumi.html\)](http://../resources/help/settings_sysumi.html) を参照してください。

**インベントリのみのスケジュール**：インベントリのみのスキャンを実行するタイミングを設定します。詳細については、[インベントリのみのスケジュール \(../resources/help/settings\\_sysumischedule.html\)](http://../resources/help/settings_sysumischedule.html) を参照してください。

**インベントリのみの調整**：データベース内で重複が起こらないように新しいワークステーションを調整するかどうか、および調整方法を制御します。管理ゾーンに対して新規のワークステーションのスキャンが行われると、ワークステーションに識別子が割り当てられます。ディスク破損などによって識別子が失われた場合は、次のスキャン時に新しい識別子が割り当てられます。調整を使用すると、ワークステーションが既にデータベースに含まれているかどうかを確認できます。含まれる場合は、データベース内の識別子が新しい識別子に一致するように変更されます。詳細については、[インベントリのみの調整 \(../resources/help/settings\\_sysinventoryreconcile.html\)](http://../resources/help/settings_sysinventoryreconcile.html) を参照してください。

## 23.7 レポートینگサービスの設定

[レポートینگサービス] セクションには、次の設定が含まれています。

**電子メール通知の設定**：ZENworks 管理者に電子メール通知を送信するように ZENworks レポートینگサーバを設定します。詳細については、[電子メール通知の設定 \(../resources/help/cfg\\_mzset\\_reptsvr\\_set.html\)](http://../resources/help/cfg_mzset_reptsvr_set.html) を参照してください。

**フォルダ同期スケジュール**：ZENworks レポートینگサーバ Infoview で作成した [カスタムレポート] フォルダを ZENworks コントロールセンターと同期させる更新間隔を定義します。詳細については、[フォルダ同期スケジュール \(../resources/help/cfg\\_report\\_foldersync.html\)](http://../resources/help/cfg_report_foldersync.html) を参照してください。

**ZENworks レポートینگサーバのパスワードをリセット**：ユーザは、ZENworks レポートینگサーバのパスワードをリセットできます。詳細については、[パスワードのリセット \(../resources/help/cfg\\_report\\_resetpassphrase.html\)](http://../resources/help/cfg_report_resetpassphrase.html) を参照してください。

**ファイルの場所の通知設定**：ZENworks レポートینگサーバまたはその他のリモートサーバのレポートインスタンス用の宛先ディレクトリを指定します。詳細については、[ファイルの場所の通知設定 \(../resources/help/cfg\\_report\\_filelocsettings.html\)](http://../resources/help/cfg_report_filelocsettings.html) を参照してください。

**FTP サーバ通知設定**：レポーティングインスタンスを転送する FTP サーバに宛先を指定します。詳細については、[FTP サーバ通知設定 \(../resources/help/cfg\\_report\\_ftpsrvrsettings.html\)](#) を参照してください。

## 23.8 Asset Management 設定

[Asset Management] セクションには、次の設定が含まれています。

**レポート**：Asset Management 用のレポート設定を行います。詳細については、[レポート \(../resources/help/settings\\_sysamreport.html\)](#) を参照してください。

**コンプライアンス**：ライセンスコンプライアンスデータが更新される時間を設定します。詳細については、[コンプライアンス \(../resources/help/settings\\_sysamcompliance.html\)](#) を参照してください。

**使用状況モニタリング**：ソフトウェアの使用率監視を有効にします。詳細については、[使用状況モニタリング \(../resources/help/am\\_usagemonitor.html\)](#) を参照してください。

**使用表示**：使用状況データを、ZENworks コントロールセンターの [ライセンス管理] ページ ( [アセット管理] > [ライセンス管理] タブ ) に表示するかどうかを設定します。詳細については、[使用表示 \(../resources/help/am\\_usagedisplay.html\)](#) を参照してください。



# メッセージログ

# VIII

このセクションでは、Novell® ZENworks® システムの設定および管理に役立つ Message Logger の機能とプロシージャに関する情報を提供します。

- ◆ 221 ページの第 24 章「概要」
- ◆ 223 ページの第 25 章「Message Logger の設定」
- ◆ 229 ページの第 26 章「メッセージの管理」



## 概要

Novell® ZENworks® 10 Management の Message Logger コンポーネントを使用すると、他の ZENworks コンポーネント (zenloader、webservice、ZMD(ZENworks Management Daemon) など) がさまざまな出力ターゲットにメッセージをログすることができます。出力ターゲットには、システムログ、ローカルログ、データベース、SMTP、SNMP トラップ、および UDP があります。

次のセクションでは、Message Logger コンポーネントに関する追加情報について説明します。

- ◆ [221 ページのセクション 24.1 「Message Logger の機能」](#)
- ◆ [221 ページのセクション 24.2 「メッセージ重大度」](#)
- ◆ [222 ページのセクション 24.3 「メッセージ形式」](#)

### 24.1 Message Logger の機能

Message Logger は、次の機能を実行します。

- ◆ ローカルファイルにメッセージを書き込む
- ◆ システムログまたはイベントログにメッセージを書き込む
- ◆ 管理コンソールにメッセージを書き込む
- ◆ 管理サーバにメッセージを送信する
- ◆ SMTP メールとして、メッセージをプライマリサーバから SMTP サーバに送信する
- ◆ SNMP トラップとして、メッセージをプライマリサーバからリモートマシンまたはローカルマシンに送信する
- ◆ UDP パケットとして、メッセージを UDP 宛先に送信する
- ◆ ZENworks データベースにメッセージを書き込む
- ◆ ZENworks データベースからデータベースエントリを自動的にパージする
- ◆ ZENworks データベースのメッセージを自動的に確認する

### 24.2 メッセージ重大度

メッセージとは、さまざまなコンポーネントやモジュールによって生成されるイベントのことです。これらのイベントには、エラー、警告、ユーザに対する情報、モジュールをデバッグするためのデバッグステートメントなどが含まれます。

メッセージは、次の重大度レベルに基づいて分類されます。

**エラー:** ユーザエラーまたはシステムエラーのため、アクションを完了できないことを示します。これらのメッセージは重大であり、管理者からの即時の注意を必要とします。

**警告:** 例外状況を示します。エラーではないものの、これが原因で後で問題が発生する可能性があります。これらのメッセージは、管理者からの即時の注意を必要としません。

**情報** : 管理者にとって重要であり有益である、製品またはシステムで発生した何らかの事象に関するフィードバックです。

**デバッグ** : 発生する可能性のある問題をトラブルシューティングおよび解決するためのデバッグ情報を提供します。デバッグメッセージは、ローカルファイルにのみ保存されます。

## 24.3 メッセージ形式

メッセージは、出力ターゲットに基づいてさまざまな形式でログされます。メッセージ形式の詳細については、[229 ページのセクション 26.1 「メッセージ形式の理解」](#) を参照してください。

次のセクションでは、Novell® ZENworks® 10 Management の Message Logger コンポーネントを設定する方法について説明します。

- 223 ページのセクション 25.1 「ゾーンレベルでの Message Logger の設定」
- 227 ページのセクション 25.2 「フォルダレベルでの Message Logger の設定」
- 227 ページのセクション 25.3 「デバイスレベルでの Message Logger の設定」
- 228 ページのセクション 25.4 「デバッグメッセージの有効化」

## 25.1 ゾーンレベルでの Message Logger の設定

次のセクションでは、メッセージログを有効にするために管理ゾーンで設定を行う場合に役立つ情報について説明します。

- 223 ページのセクション 25.1.1 「ローカルデバイスのログ」
- 224 ページのセクション 25.1.2 「集中型のメッセージログ」

### 25.1.1 ローカルデバイスのログ

ZENworks コントロールセンターの [ローカルデバイスのログ] ページでは、ローカルドライブおよび管理対象デバイスのシステムログファイルへのメッセージログを設定できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックして、[ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 3 [ローカルファイル] パネルで、次のオプションを設定します。

**重大度が次の場合は、メッセージをローカルファイルにログします：**次の中から1つを選択します。

- **エラー：**重大度が「エラー」のメッセージを保存します。
- **警告とそれ以上：**重大度が「警告」と「エラー」のメッセージを保存します。
- **情報とそれ以上：**重大度が「情報」、「警告」、および「エラー」のメッセージを保存します。
- **デバッグとそれ以上：**重大度が「デバッグ」、「情報」、「警告」、および「エラー」のメッセージを保存します。

個別のデバイスで ZENworks® Adaptive Agent の問題をトラブルシューティングする必要がある場合、追加の情報もログ記録されるようにするため重大度の設定を変更できます。デバイス上で、通知領域にある  アイコンをダブルクリックし、左のナビゲーションペインの [ログ] をクリックして、[重大度が次の場合にメッセージを記録] ドロップダウンリストからオプションを選択します。

**サイズによるローリング:** ファイルサイズに基づいて、現在のログファイルを閉じて新しいファイルを開始します。

- ◆ **ファイルサイズを制限:** ログファイルの最大サイズをキロバイト (KB) またはメガバイト (MB) で指定します。ファイルのサイズが指定した制限に達すると現在のログファイルが閉じられ、新しいファイルが開始されます。
- ◆ **バックアップファイルの数:** サイズ制限に達したために閉じたファイルは、一定の数だけバックアップとして保管しておくことができます。その数を指定します。バックアップファイルの最大数は 13 です。

**日付によるローリング:** 次のスケジュールに基づいて、現在のログファイルを閉じて新しいファイルを開始します。

- ◆ **日次パターン:** 毎日新しいファイルを開始します。
- ◆ **月次パターン:** 毎月新しいファイルを開始します。

Windows 管理対象デバイス上のローカルファイルとして、次のファイルが含まれます。

- ◆ zmd-messages.log(\novell\zenworks\logs\localstore 内)
- ◆ loader-messages.log (\novell\zenworks\logs 内)
- ◆ services-messages.log(\novell\zenworks\logs 内)

Linux 管理対象デバイス上のローカルファイルとして、次のファイルが含まれます。

- ◆ loader-messages.log( /var/opt/novell/log/zenworks 内)
- ◆ services-messages.log( /var/opt/novell/log/zenworks 内)

#### 4 [システムログ] パネルで、次のオプションを設定します。

**重大度が次の場合は、メッセージをローカルシステムに送信:** 次のの中から 1 つを選択します。

- ◆ **エラー:** 重大度が「エラー」のメッセージを保存します。
- ◆ **警告とそれ以上:** 重大度が「警告」と「エラー」のメッセージを保存します。
- ◆ **情報とそれ以上:** 重大度が「情報」、「警告」、および「エラー」のメッセージを保存します。

この設定では、ローカルシステムログに追加するメッセージタイプを決定できます。ローカルシステムログは、\var\log\messages ディレクトリ (Linux デバイス上) および zenworks/logs/centralstore ディレクトリ (Windows デバイス上) です。

このシステムログディレクトリに追加されたメッセージは、ZENworks サーバに送信され、ZENworks コントロールセンターの [環境設定] > [システム情報] ページか、またはサーバやワークステーションの [概要] ページで表示されます。

## 25.1.2 集中型のメッセージログ

ZENworks コントロールセンターの [集中型のメッセージログ] ページでは、プライマリサーバによって実行されるメッセージログに関連する設定を行うことができます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[イベントとメッセージング] をクリックして、[集中型のメッセージログ] をクリックします。
- 3 [メッセージの自動クリーンアップ] パネルで、自動的に承認する、またはログ済みのメッセージを ZENworks サーバから削除するように設定します。

**優先される保守サーバ:** データベースからログされたメッセージを承認または削除するために、メッセージクリーンアップアクションが実行される優先サーバの IP アドレスを指定します。

**情報:** 情報メッセージに対して次の設定を行うことができます。

- ◆ **指定期日が過ぎたら自動承認する:** 指定する日数より古い記録された情報メッセージを自動的に承認できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての情報メッセージが承認されます。0 を指定すると、今日までの情報メッセージが承認されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての情報メッセージが自動的に承認されます。
- ◆ **[ ] 日より古い場合自動的に削除する:** 指定する日数より古い記録された情報メッセージを自動的に削除できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての情報メッセージが削除されます。0 を指定すると、今日までの情報メッセージが削除されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての情報メッセージが自動的に削除されます。

自動承認の日付と自動削除の日付を指定するときには、自動承認の日数は、自動削除の日数より常に少なくする必要があります。

**警告:** 警告メッセージに対して次の設定を行うことができます。

- ◆ **指定期日が過ぎたら自動承認する:** 指定する日数より古い記録された警告メッセージを自動的に承認できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての警告メッセージが承認されます。0 を指定すると、今日までの警告メッセージが承認されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての警告メッセージが自動的に承認されます。
- ◆ **[ ] 日より古い場合自動的に削除する:** 指定する日数より古い記録された警告メッセージを自動的に削除できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべての警告メッセージが削除されます。0 を指定すると、今日までの警告メッセージが削除されます。デフォルトでは、60 日より古いすべての警告メッセージが自動的に削除されます。

自動承認の日付と自動削除の日付を指定するときには、自動承認の日数は、自動削除の日数より常に少なくする必要があります。

**エラー:** エラーメッセージに対して次の設定を行うことができます。

- ◆ **指定期日が過ぎたら自動承認する:** 指定する日数より古い記録されたエラーメッセージを自動的に承認できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべてのエラーメッセージが承認されます。0 を指定すると、今日までのエラーメッセージが承認されます。デフォルトでは、60 日より古いすべてのエラーメッセージが自動的に承認されます。
- ◆ **[ ] 日より古い場合自動的に削除する:** 指定する日数より古い記録されたエラーメッセージを自動的に削除できます。たとえば、30 日と指定すると、メッセージのクリーンアップアクティビティが実行されるようにスケジュール設定している場合、現在の日付より 30 日前までにログ記録されたすべてのエラーメッセージが削除されます。0 を指定すると、今日までのエラーメッセージが削除されます。デフォルトでは、60 日より古いすべてのエラーメッセージが自動的に削除されます。

自動承認の日付と自動削除の日付を指定するときには、自動承認の日数は、自動削除の日数より常に少なくする必要があります。

**メッセージクリーンアップを実行する曜日と時刻を選択する:**メッセージクリーンアップアクションを実行する曜日と時刻を指定できます。管理者はメッセージクリーンアップアクションの日次スケジュールを設定できます。

**協定世界時 (UTC) の使用:** 指定した時間を UTC (GMT) に変換できます。デフォルトでは、このオプションは選択されています。

- 4 [電子メール通知] パネルで、電子メールを使用して管理者にエラーメッセージを送信するための設定を行います。

**重大度が次の場合は、電子メール経由でログメッセージを送信:** 電子メールを使用したログメッセージの送信をトリガするメッセージの重大度を選択できます。

**送信者:** 送信者の電子メールアドレスを指定します。

**宛先:** 受信者の電子メールアドレスを指定します。カンマ (,) で区切れば、複数の電子メールアドレスを指定できます。

**件名:** プライマリサーバから電子メールを送信する際に含まれる件名を指定します。マクロの値を使用して、[件名] フィールドをカスタマイズできます。[件名] フィールドのカスタマイズに関する詳細については、[229 ページのセクション 26.1.2 「電子メール形式」](#) を参照してください。

- 5 [SNMP トラップ] パネルで、ログメッセージを送信する ZENworks サーバの SNMP トラップを設定します。

**重要度が次の場合に SNMP トラップとして送信:** ログメッセージの重大度が「エラー」の場合、SNMP トラップを送信します。

**トラップターゲット:** SNMP サーバの IP アドレスまたは DNS 名を指定します。

**ポート:** この操作用に設定された SNMP サーバのポート番号を指定します。デフォルトのポート番号は 162 です。

**コミュニティ文字列:** 送信される SNMP トラップの接続文字列を指定します。

- 6 [UDP 転送者] パネルで、UDP サービスを通じてログメッセージを送信するための設定を行います。次の表では、使用できるオプションに関する情報について説明しています。

**UDP 経由でのメッセージ送信:** ログされたメッセージの重大度が「エラー」の場合に、UDP の宛先にメッセージを送信します。

**UDP の宛先:** [追加]、[編集]、および [削除] オプションを使用して、次の作業を実行できます。

◆ **サーバの追加**

1. [追加] をクリックして、[UDP の宛先アドレスの追加] ダイアログボックスを表示します。
2. この操作用に設定されたサーバの名前と UDP ポート番号を指定します。
3. [OK] をクリックします。

◆ **サーバの削除**

1. サーバ (複数可) の横にあるチェックボックスを選択します。
2. [削除] をクリックします。

◆ **サーバ詳細の編集**

1. サーバの横にあるチェックボックスを選択します。

2. [編集] をクリックして、[UDP の宛先の編集] ダイアログボックスを表示します。
3. 目的に応じて設定を変更し、[OK] をクリックします。

## 25.2 フォルダレベルでの Message Logger の設定

デフォルトでは、ゾーンレベルで行った Message Logger 設定が、すべての管理対象デバイスに適用されます。ただし、1つのフォルダ内のすべてのデバイスに対して、[ローカルデバイスのログ] 設定を変更できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] をクリックします。
- 2 Message Logger の設定を行う [フォルダ(詳細)] オプションをクリックします。
- 3 [設定] をクリックし、[デバイス管理] > [ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 4 [上書き] をクリックします。
- 5 必要に応じて、ログ設定を編集します。
- 6 変更内容を適用するには、[適用] をクリックします。  
または  
ゾーンレベルで設定された [ローカルデバイスのログ] 設定に戻すには、[元に戻す] をクリックします。
- 7 [OK] をクリックします。

## 25.3 デバイスレベルでの Message Logger の設定

デフォルトでは、ゾーンレベルで行った Message Logger 設定が、すべての管理対象デバイスに適用されます。ただし、管理対象デバイスに対する [ローカルデバイスのログ] の設定は変更できます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] をクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] をクリックして管理対象デバイスのリストを表示します。
- 3 Message Logger 設定を行うデバイスをクリックします。
- 4 [設定] をクリックし、[デバイス管理] > [ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 5 [上書き] をクリックします。
- 6 必要に応じて、ログ設定を編集します。
- 7 変更内容を適用するには、[適用] をクリックします。  
または  
ゾーンレベルで設定された [ローカルデバイスのログ] 設定に戻すには、[元に戻す] をクリックします。
- 8 [OK] をクリックします。

## 25.4 デバッグメッセージの有効化

すべてのコンポーネントに対してデバッグメッセージのログを有効にするには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [管理ゾーンの設定] パネルで、[デバイス管理] をクリックして、[ローカルデバイスのログ] をクリックします。
- 3 [ローカルファイル] パネルで、[重大度が次の場合は、メッセージをローカルファイルにログしません] オプションを選択して、重大度として [デバッグとそれ以上] を選択します。
- 4 [適用] をクリックし、[OK] をクリックします。

# メッセージの管理

Message Logger コンポーネントを使用すると、Novell® ZENworks® 10 Management の他のコンポーネントによってログされたメッセージを管理できます。

- ◆ 229 ページのセクション 26.1 「メッセージ形式の理解」
- ◆ 232 ページのセクション 26.2 「メッセージステータスの表示」
- ◆ 233 ページのセクション 26.3 「メッセージの表示」
- ◆ 234 ページのセクション 26.4 「メッセージの承認」
- ◆ 236 ページのセクション 26.5 「メッセージの削除」
- ◆ 238 ページのセクション 26.6 「事前定義されたレポートの表示」

## 26.1 メッセージ形式の理解

- ◆ 229 ページのセクション 26.1.1 「ローカルログファイル形式」
- ◆ 229 ページのセクション 26.1.2 「電子メール形式」
- ◆ 230 ページのセクション 26.1.3 「SNMP メッセージ形式」
- ◆ 231 ページのセクション 26.1.4 「UDP ペイロード形式」

メッセージは、ローカルログ、電子メール通知、SNMP トラップ、および UDP 通知など、出力ターゲットに基づくさまざまな形式でログされます。

すべてのエラーメッセージに、エラーの生成対象であるコンポーネント名がログされます。エラーをトラブルシューティングするには、そのコンポーネントのリファレンスガイドを参照してください。

### 26.1.1 ローカルログファイル形式

メッセージは管理対象デバイスおよび ZENworks サーバに次の形式でログ記録されます。

```
[severity] [loggingTime] [userGUID] [componentName] [MessageID] [MessageString] [additionalInfo]
[RelatedGUID].
```

たとえば、[DEBUG] [1/22/2007 12:09:15 PM] [] [ZMD] [] [refreshing QuickTaskRefresh(GeneralRefresh)] [] []  
です。

### 26.1.2 電子メール形式

電子メールメッセージは、メッセージヘッダとメッセージ本文で構成されます。

- ◆ 229 ページの 「メッセージヘッダ」
- ◆ 230 ページの 「メッセージ本文」

#### メッセージヘッダ

電子メールの件名フィールドは、キーワード代替マクロを使用して、必要に応じてカスタマイズできます。

| マクロ | 値                       |
|-----|-------------------------|
| %s  | メッセージの重大度です。            |
| %c  | コンポーネント名です。             |
| %d  | メッセージが生成されるデバイスの ID です。 |
| %t  | メッセージ生成の時刻です。           |
| %a  | メッセージが生成されるデバイスの別名です。   |

たとえば、件名の行に「ERROR occurred on device Testifies at 4/1/07 5:31:01 PM」と表示する場合は、[件名] フィールドに「%s occurred on device %a at %t」と入力します。

### メッセージ本文

メッセージ本文は次のフィールドで構成されます。

- ◆ **デバイスの別名** : メッセージが生成されるデバイスの名前です。
- ◆ **デバイス IP アドレス** : メッセージが生成されるデバイスの IP アドレスです。
- ◆ **エラー** : [日付] コンポーネント名 メッセージ ID ローカライズ済み文字列。
- ◆ **追加情報** : (オプション) 追加情報です。

## 26.1.3 SNMP メッセージ形式

SNMP メッセージは、次の 2 つの部分で構成されます。

- ◆ 230 ページの「SNMP メッセージヘッダ」
- ◆ 230 ページの「プロトコルデータユニット (PDU)」

### SNMP メッセージヘッダ

ヘッダには次のフィールドが含まれています。

**バージョン番号** : 使用される SNMP のバージョンを指定します。ZENworks 10 Management では SNMPv 1 を使用します。

**コミュニティ文字列** : ネットワーク管理システム (NMS) グループに対するアクセス環境を定義します。

### プロトコルデータユニット (PDU)

PDU には次のフィールドが含まれています。

**エンタープライズ** : トラップを生成する管理対象オブジェクトのタイプを識別します。ZENworks 10 Management では、1.3.6.1.4.1.23.2.80.100 を使用します。

**エージェントアドレス** : トラップが生成されたマシンの IP アドレスを提供します。

**汎用トラップタイプ:** 整数値 6 が含まれます。タイプ 6 は、エンタープライズ固有のトラップタイプで、SNMP には標準の解釈がありません。トラップの解釈は、Message Logger MIB によって定義されている特定のトラップタイプフィールドの値に基づいています。

**固有のトラップコード:** ZENworks 10 Management で生成されたエンタープライズ固有のトラップの場合、特定のトラップタイプのフィールド値は、次のとおりです。

- ◆ 重大度レベル MessageLogger.ERROR の場合、特定のトラップは 1 です。
- ◆ 重大度レベル MessageLogger.WARN の場合、特定のトラップは 2 です。
- ◆ 重大度レベル MessageLogger.INFO の場合、特定のトラップは 3 です。

**タイムスタンプ:** トラップが発生した時間を示すタイムスタンプです。

**変数バインディング:** トラップに関連する追加情報を提供します。このフィールドは、次の名前 / 値のペアで構成されます。

- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.1 の場合、値はデバイス GUID です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.2 の場合、値はデバイス名です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.3 の場合、値はコンポーネント名です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.4 の場合、値はメッセージがログされた時刻です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.5 の場合、値はメッセージ ID です。
- ◆ トラップ ID 1.3.6.1.4.1.23.2.80.100.0.6 の場合、値は考えられる原因です。

## 26.1.4 UDP ペイロード形式

ペイロードは、各要素に対する \0 または 0x 00 (16 進数) など、null で終了する区切り文字を持つバイト配列です。各要素のデータは、UTF-8 エンコード文字列で表示され、次のように説明されます。

- ◆ 最初の要素は、ZENworks のバージョン情報です。たとえば、10 です。
- ◆ 2 番目の要素は、メッセージの重大度の値です。重大度の値は、「情報」メッセージは 4、「警告」メッセージは 6、「デバッグ」メッセージは 8 です。
- ◆ 3 番目の要素は、メッセージ日付です。日付はローカル固有のものではなく、UTF-8 文字列で表示されます。たとえば、09-Mar-2008 14:15:44 などです。
- ◆ 4 番目の要素は、ユーザ ID です。
- ◆ 5 番目の要素は、コンポーネント名です。
- ◆ 6 番目の要素は、非ローカライズメッセージの ID です。
- ◆ 7 番目の要素は、ローカライズメッセージの文字列です。
- ◆ 8 番目の要素は、追加の情報です。
- ◆ 9 番目の要素は、推定される原因の URL です。
- ◆ 10 番目の要素は、カンマで区切られた関連 GUID オブジェクトです。

---

**注:** 要素にデータがない場合は、\0\0 として表示されます。

---

## 26.2 メッセージステータスの表示

ZENworks コントロールセンターでは、ホームページの次のパネルで、ログされたメッセージのステータスを表示できます。

- ◆ 232 ページのセクション 26.2.1 「メッセージ概要」
- ◆ 232 ページのセクション 26.2.2 「デバイスホットリスト」

### 26.2.1 メッセージ概要

[メッセージ概要] パネルには、管理ゾーンの主要オブジェクトで生成された致命的メッセージ、警告メッセージ、および通常メッセージの数が表示されます。

[メッセージ概要] パネルでは、次を実行できます。

- ◆ root フォルダを表示するオブジェクトタイプをクリックします。たとえば、[サーバ] をクリックして、[サーバ] のルートフォルダを表示します。
- ◆ 任意のオブジェクトタイプで、いずれかのステータスカラム (❌ ⚠️ ✅) の数字をクリックすると、現在そのステータスであるオブジェクトがすべて一覧表示されます。たとえば、通常ステータスのサーバのリストを表示するには、[サーバ] のカラムの数字をクリックします。
- ◆ 任意のオブジェクトタイプで、[合計] カラムの数字をクリックすると、重大、警告、または通常メッセージタイプを持つオブジェクトがすべて表示されます。たとえば、[サーバ] の合計数をクリックすると、メッセージがログされているすべてのサーバが一覧表示されます。

### 26.2.2 デバイスホットリスト

[デバイスホットリスト] では、不適合 ❌ ステータスを持つか、致命的 ❌ または警告 ⚠️ のメッセージを生成したデバイスのリストが表示されます。適合問題を解決し、メッセージを承認するまで、デバイスはホットリストに残ります。このリストは、デバイスに対して注意が必要である問題の概要として使用できます。

デバイスホットリストを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[ホーム] タブをクリックします。



| ❌ | ❌  | ⚠️ | タイプ | 項目           |
|---|----|----|-----|--------------|
| 3 | 45 | 22 | 🖨️  | blr-nrm-r6a  |
| 2 | 28 | 27 | 🖨️  | blr-nrm-r9a  |
| 2 | 25 | 23 | 🖨️  | blr-nrm-r5v2 |
| 2 | 0  | 0  | 🖨️  | blr-nrm-r3f  |
| 1 | 52 | 1  | 🖨️  | blr-nrm-r11d |

- ◆ ❌ このカラムには、エラーが発生したためにデバイスに適用できなかったバンドルまたはポリシーの数が表示されます。エラーおよび警告のメッセージをレビューして適合問題を検出する必要があります。

- ❌ このカラムには、デバイスに関して生成された未承認のエラーメッセージの数が表示されます。エラーは失敗した操作のことで、ZENworks Adaptive Agent はデバイスで操作を完了できません。
- ⚠️ このカラムには、デバイスに関して生成された未承認の警告メッセージの数が表示されます。警告とは問題のあるアクションです。問題によっては、結果的に ZENworks Adaptive Agent がデバイスでアクションを完了できないことがあります。

2 デバイスのメッセージログを表示するには、デバイスをクリックします。

## 26.3 メッセージの表示

ZENworks コントロールセンターでは、ログされたメッセージを次のように表示できます。

- 233 ページのセクション 26.3.1 「メッセージログ」
- 234 ページのセクション 26.3.2 「システムメッセージログ」

### 26.3.1 メッセージログ

[メッセージログ] には、オブジェクトに関して生成されたすべての未承認メッセージが表示されます。

メッセージログを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、ホームページの [デバイスホットリスト] をクリックして、メッセージログを表示するデバイスをクリックします。

[デバイス] メニューを使用して、ログを表示することもできます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[デバイス] をクリックします。
- 2 [サーバ] または [ワークステーション] をクリックして管理対象デバイスのリストを表示します。
- 3 デバイスの名前をクリックして、[概要] タブをクリックして表示します。

| メッセージログ |                                                         | 詳細   |
|---------|---------------------------------------------------------|------|
| ステータス   | メッセージ                                                   | 日付   |
| ⚠️      | ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。                                | 5/20 |
| ❌       | バンドル 9886d4f0e97926cce56949d180c682ac をセッションに追加できませんでした | 5/20 |
| ⚠️      | アクションを実行できません。タイプ File Bundle のバンドルは無効になっています。          | 5/19 |
| ❌       | アクションを実行できません。タイプ Patch Bundle のバンドルは無効になっています。         | 5/19 |
| ⚠️      | ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。                                | 5/19 |

1 - 5/9 5 項目の表示

ステータス: メッセージのタイプを示すアイコンを表示します。

- ❌ 重大メッセージ
- ⚠️ 警告
- 通常

メッセージ: 発生したイベントの簡単な説明が表示されます。

日付：イベントが発生した日時が表示されます。

- 4 詳細ビューのログメッセージを表示するには、[メモリログ] パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。

メッセージログのメッセージを承認または削除できます。メッセージの承認の詳細については、[234 ページのセクション 26.4 「メッセージの承認」](#) を参照してください。メッセージの削除の詳細については、[236 ページのセクション 26.5 「メッセージの削除」](#) を参照してください。

## 26.3.2 システムメッセージログ

[システムメッセージログ] パネルには、管理ゾーンの ZENworks Server および管理対象デバイスによって生成された未承認メッセージが表示されます。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [システム情報] をクリックして、システムメッセージログを表示します。



| ステータス | メッセージ                                                    | 日付    | ソース          |
|-------|----------------------------------------------------------|-------|--------------|
| ●     | デバイス not12ddja が正常に登録されました。                              | 18:15 | not12ddja    |
| ●     | ホスト: NO11200.H を登録しようとする際、事前に CPU 情報がなかったため登録ルールが失敗しました。 | 18:15 | nov-fr-ddcyr |
| ●     | ホスト: TC-XPSP3 を登録しようとする際、事前に CPU 情報がなかったため登録ルールが失敗しました。  | 6/2   | nov-fr-ddcyr |
| ●     | デバイス not12-spt123 が正常に登録されました。                           | 5/20  | not12-spt123 |
| ●     | ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。                                 | 5/20  | nov-fr-ddcyr |

ステータス：メッセージのタイプを示すアイコンを表示します。

✖ 重大メッセージ

⚠ 警告

● 通常

メッセージ：発生したイベントの簡単な説明が表示されます。

日付：イベントが発生した日時が表示されます。

- 3 詳細ビューのログメッセージを表示するには、[システムメモリログ] パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。

システムメッセージログからのメッセージを承認または削除できます。メッセージの承認の詳細については、[234 ページのセクション 26.4 「メッセージの承認」](#) を参照してください。メッセージの削除の詳細については、[236 ページのセクション 26.5 「メッセージの削除」](#) を参照してください。

## 26.4 メッセージの承認

承認済みメッセージとは、レビュー済みであり、承認済み (✓) というマークの付いたメッセージです。

- ◆ [235 ページのセクション 26.4.1 「メッセージの承認」](#)
- ◆ [235 ページのセクション 26.4.2 「複数メッセージの承認」](#)
- ◆ [235 ページのセクション 26.4.3 「指定の時刻にログされたメッセージの承認」](#)

## 26.4.1 メッセージの承認

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、承認するメッセージをクリックします。
- 2 [メッセージ詳細情報] ダイアログボックスで、[承認] オプションを選択して、[OK] をクリックします。



承認済みメッセージが、**ステップ 1** で選択したパネルに基づいて、[メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルから削除されます。

承認済みのメッセージは、これらのログの [詳細] ビューにチェックマーク (✓) 付きで引き続き一覧表示されます。

## 26.4.2 複数メッセージの承認

- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。
- 2 承認するメッセージを選択し、[承認] をクリックします。

| 承認                       | 削除                       | ステータス | メッセージ                                                         | 日付                |   |
|--------------------------|--------------------------|-------|---------------------------------------------------------------|-------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | ステータス | メッセージ                                                         | 日付                | ▼ |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | ✓     | 05a067083d15f0944eacbd1f154e486b([NULL]);HandlerNotFound;N... | 09/05/20 18:24:27 | ▼ |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | ✗     | ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。                                      | 09/05/20 18:24:26 | ▼ |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | ✓     | バンドル 9886d4f0e97926cce56949d180c682ac をセッションに追加               | 09/05/20 18:17:03 |   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | ✗     | バンドル 362015fa0fa84753acc8bbccd173f9ef をセッションに追加で              | 09/05/20 18:17:03 |   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | ✓     | アクションを実行できません。タイプ File Bundle のバンドルは無効に                       | 09/05/19 23:01:51 |   |

承認済みメッセージは、チェックマーク (✓) でマークが付けられます。

## 26.4.3 指定の時刻にログされたメッセージの承認

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。

2 [設定タスク] で、[メッセージクリーンアップ] をクリックして表示します。

メッセージクリーンアップ

このダイアログにより、特定の期間にメッセージログに書き込まれたすべてのメッセージを承認または永久に削除することができます。

アクション:

承認  
 永久に削除

日付の範囲:

開始日: 09/06/03  
終了日: 09/06/03

フィルタ:

なし  
 デバイス:

OK キャンセル

3 [メッセージクリーンアップ] ダイアログボックスで、[承認] を選択します。

4 [日付の範囲] オプションで、[開始日] と [終了日] を選択します。

5 [フィルタ] オプションを選択します。

なし: 選択した日付範囲のメッセージがすべてのデバイスからクリーンアップされます。

デバイス: 選択した日付範囲のメッセージが選択したデバイスからクリーンアップされます。

6 [OK] をクリックします。

メッセージクリーンアップアクションが開始され、クリーンアップアクションの完了後にシステムメッセージがログされます。システムログの表示の詳細については、[234 ページのセクション 26.3.2 「システムメッセージログ」](#) を参照してください。

## 26.5 メッセージの削除

メッセージを削除すると、ZENworks システムからメッセージが完全に削除されます。

- ◆ [236 ページのセクション 26.5.1 「メッセージの削除」](#)
- ◆ [237 ページのセクション 26.5.2 「複数メッセージの削除」](#)
- ◆ [237 ページのセクション 26.5.3 「指定の時刻にログされたメッセージの削除」](#)

### 26.5.1 メッセージの削除

1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、削除するメッセージをクリックします。

- 2 [メッセージ詳細情報] ダイアログボックスで、[削除] オプションを選択して、[OK] をクリックします。



## 26.5.2 複数メッセージの削除

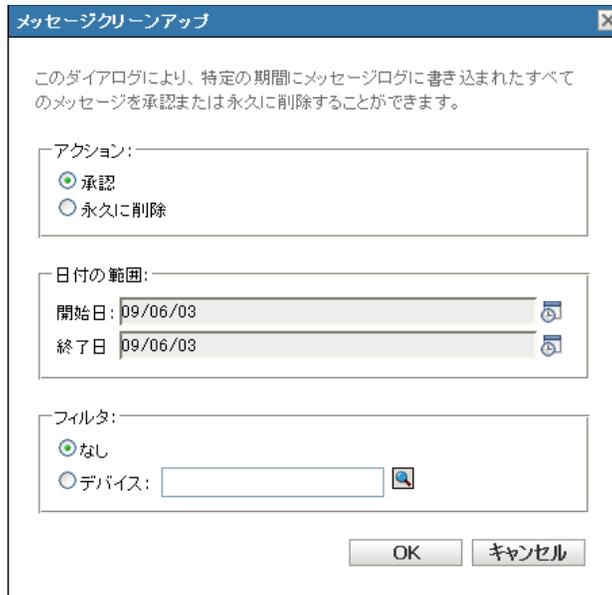
- 1 [メッセージログ] パネルまたは [システムメッセージログ] パネルで、パネルの右隅にある [詳細] をクリックします。

| 承認 削除                    |                                     | メッセージ                                                     | 日付                |   |
|--------------------------|-------------------------------------|-----------------------------------------------------------|-------------------|---|
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | ステータス                                                     |                   | ▼ |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | 05a067083d15f0944eacbd1f154e486b([NULL];HandlerNotFound;N | 09/05/20 18:24:27 | ▼ |
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | ハンドラ「[NULL]」が見つかりませんでした。                                  | 09/05/20 18:24:26 | ▼ |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | バンドル 9886d4f0e97926cce56949d180c682ac をセッションに追加           | 09/05/20 18:17:03 |   |
| <input type="checkbox"/> | <input checked="" type="checkbox"/> | バンドル 362015fa0fa84753acc8bbccd173f9ef をセッションに追加で          | 09/05/20 18:17:03 |   |
| <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/>            | アクションを実行できません。タイプ File Bundle のバンドルは無効に                   | 09/05/19 23:01:51 |   |

- 2 削除するメッセージを選択し、[削除] をクリックします。

## 26.5.3 指定の時刻にログされたメッセージの削除

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[環境設定] をクリックします。
- 2 [設定タスク] で、[メッセージクリーンアップ] をクリックします。



- 3 [メッセージクリーンアップ] ダイアログボックスで、[永久に削除] を選択します。
- 4 [日付の範囲] オプションで、[開始日] と [終了日] を選択します。
- 5 [フィルタ] オプションを選択します。

**なし:** 選択した日付範囲のメッセージがすべてのデバイスからクリーンアップされます。

**デバイス:** 選択した日付範囲のメッセージが選択したデバイスからクリーンアップされます。

- 6 [OK] をクリックします。
- 7 [削除の確認] ダイアログボックスで、[OK] をクリックしてメッセージを削除します。

クリーンアップアクションの完了後にシステムメッセージが表示されます。システムログの表示の詳細については、[234 ページのセクション 26.3.2 「システムメッセージログ」](#) を参照してください。

## 26.6 事前定義されたレポートの表示

事前定義されたレポートを見るには、ZENworks レポートニングサーバをインストールしておく必要があります。ZENworks レポートニングサーバのインストール方法については、『ZENworks 10 Asset Management レポートニングサーバインストールガイド』を参照してください。

メッセージの事前定義レポートを表示するには、次の手順に従います。

- 1 ZENworks コントロールセンターで、[レポート] タブをクリックします。
- 2 ZENworks レポートニングサーバの [レポートニング] パネルで、[ZENworks レポートニングサーバ InfoView] をクリックして ZENworks レポートニングサーバ InfoView を起動します。
- 3 [Novell ZENworks Reports] フォルダ > [Predefined Reports] > [ZENworks System] フォルダの順にナビゲートします。

4 メッセージに関する次の事前定義レポートが含まれています。

**ZENworks メッセージ:** すべての ZENworks システムメッセージのログ時刻や説明など、メッセージの詳細を表示します。

レポートの作成と管理の詳細は、『*ZENworks 10 Asset Management システムレポートینگリファレンス*』を参照してください。



# ZENworks コントロールセンターの 命名規則

# A

ZENworks<sup>®</sup> コントロールセンター内のオブジェクト(フォルダ、グループ、登録キーなど)に名前を付ける場合は、次の命名規則に従うようにしてください:

- 名前はフォルダ内で一意である必要があります。
- ZENworks データベースで使用しているデータベースによっては、名前で大文字と小文字を区別しない場合があります。ZENworks 10 Management に含まれている組み込みデータベースでは、大文字小文字を区別しません。したがって、Folder 1 と FOLDER 1 は、同じ名前になるので、同じフォルダ内で使用できません。大文字と小文字を区別する外部データベースを使用している場合、Folder 1 と FOLDER 1 は別個となります。
- 空白を使用する場合、コマンドラインに名前を入力するには、引用符で囲む必要があります。たとえば、zman ユーティリティで入力するときには、reg key 1 を引用符で囲む必要があります(“reg key 1”)。
- 次の文字は無効なので使用できません。 \ \* ? : " ' < > | ` % ~

